

我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査

令和元年度報告書

令和2年2月

日本構造家倶楽部

法政大学



我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査  
ワーキンググループ委員  
(令和元年度)

主査	竹内 徹	(日本構造家倶楽部)
委員	新谷真人	(日本構造家倶楽部)
	伊藤潤一郎	(日本構造家倶楽部)
	佐々木睦朗	(日本構造家倶楽部)
	金箱温春	(日本構造家倶楽部)
	多田脩二	(日本構造家倶楽部)
	満田衛資	(日本構造家倶楽部)
	小澤雄樹	(芝浦工業大学)
	原田公明	(日建設計)
	安藤顕祐	(日建設計)
	浜田英明	(法政大学)
顧問	難波和彦	(近現代建築資料館運営委員会委員)
	桐原武志	(近現代建築資料館)
	藤本貴子	(近現代建築資料館)
	藤井 愛	(近現代建築資料館)
	加藤直子	(近現代建築資料館)



## 目次

1. 調査の背景と目的 .....	1
2. 調査方法の概要 .....	3
3. 我が国の建築構造のあゆみと構造技術の系譜 .....	5
4. 本年度調査対象者の構造資料所蔵調査結果.....	21
4.1 横河民輔.....	22
4.2 織本 匠.....	39
4.3 平田定男.....	57
4.4 鈴木悦郎.....	65
4.5 谷 資信.....	72
4.6 山口昭一.....	86
4.7 矢野克巳.....	92
4.8 田中彌壽雄.....	102
4.9 村田義男.....	108
4.10 播 繁.....	115
4.11 渡辺邦夫.....	126
5. 今後の課題 .....	133
6. 総括 .....	135

付録 会合議事録



## 1. 調査の背景と目的

17世紀まで建築物の設計は主に建築家という職能により担われ、エンジニアリングはその中に内包されていた。Architectの語源が技術(tekton)を統括する(arkhos)であることもその性格をよく表している。しかしながら18世紀の産業革命後に鉄や鉄筋コンクリート(RC)という新しい構造材料が現れると、従来の伝統構造をベースに様式に基づく設計を行ってきた建築家とは別にこれらの材料を駆使した建造物を実現する構造エンジニアという職能が成立するようになった。こういった初期の欧州のエンジニアには橋梁・鉄塔のG. A. Eiffel(仏)、RC構造のR. Maillart(スイス)、シェル構造のE. Torroja(スペイン)らが挙げられる。引き続き20世紀以降、欧米ではP. L. Nervi(イタリア)、F. Candela(メキシコ)、F. Otto(ドイツ)、R. B. Fuller(米)、O. Arup(英)等が現れ、鉄・RCに加えケーブルや膜を用いた新しい構法を編み出し、建築家と協働しながら建築デザインを構造面から設計する構造エンジニア(構造設計者、構造家)という職能が確立していった。

我が国における建築家の職能は明治以降の工部大学校における造家専門科教育に端を発する。初期の建築教育では欧米と同様、構造は建築家教育科目の一分野という位置づけであったが、1923年の関東大震災を契機に、地震国である我が国において建築構造を如何に設計すべきかという課題に対し、耐震構造を中心とする研究者・技術者が専門化していった。初期の構造家としては佐野利器、内田祥三、内藤多仲、坂静雄、棚橋諒らがあり、専門の構造設計者というよりはまだ建築家、大学研究者としての側面を色濃く残している。1945年の終戦後、高度成長期になると耐震構造の延長線上に超高層ビルを実現した武藤清らが現れ、その一方で様々な材料を駆使し多様な構造デザインを実現する欧米型の構造家として坪井善勝、横山不学、松井源吾、松下富士雄、木村俊彦らが活躍するようになった。これらのエンジニアは大学研究者、企業内研究者、構造設計専門事務所主催者等、様々な側面を持っている。

以上の関東大震災～戦前に活動した構造家を第一世代、戦後～1970年代の高度成長期に活躍した構造家を第二世代とすると、現在は第二世代の教え子である第三世代が1980年以降活躍し、引退を迎えつつある状態と言える。第二世代の構造家が残した図面、計算書、スケッチ、模型類等のアーカイブは現在第三世代が受け継いでいる場合が多いと考えられるが、同世代の引退に伴い逸散、廃棄される危険性が高い。このような背景の元、日本構造家倶楽部と法政大学は、文化庁近現代建築資料館の依頼を受け、第一世代、第二世代の代表的な建築構造家のアーカイブの所在を調査し、記録に残す作業に着手することとした。

平成30年度は近現代の建築構造の発展に功績の顕著であった11名の構造家を抽出して各人に関する本格的な調査および資料の整理を実施し、令和元年5月にシンポジウムを開催した。令和元年度は引き続き調査対象を広げ、新たに11名の構造家を選出し調査を実施した。本報告はその調査結果を取りまとめたものである。

令和2年2月28日



## 2. 調査の概要

令和元年度の調査方法の検討は以下の手順で進めた。

- 1) まず，平成 30 年度までの調査をとりまとめ，明治以降，現代にいたるまでの主たる構造技術の潮流を年表にまとめるとともに構造家の系譜を作成し，平成 30 年度に調査した 11 名の構造家を紹介するシンポジウムを開催し，300 名を越える受講者を得た。
- 2) 引き続き，昨年度に続く 11 名の構造家を新たに抽出し，昨年度と同様，手分けしてそれぞれ構造資料を所持・保管している関係各所における訪問調査を実施し，結果を調査方針シートに取りまとめた。調査シートには資料の概要と保存状態についての写真を添付し，保管者に調査結果の公開可否についても記述して戴いた。



### 3. 我が国の建築構造のあゆみと構造技術の系譜

我が国の近現代建築に関わる構造資料所在調査において、その調査対象を選定するため、まず、明治以降～1970年代末までを目途に、建築構造技術上、建築構造デザイン上特筆すべき建築構造物をリストアップして年表に取りまとめることとした。

リストアップすべき建築物としては、「DOCOMOMO JAPAN 選定 日本におけるモダン・ムーブメントの建築」や「日本建築学会賞（作品）」、「松井源吾賞／日本構造デザイン賞」、「JSCA 賞」「BCS 賞」などに選定された社会的評価の高い建築物に加え、下記参考書籍や建築雑誌、WG 委員の論文などからも特筆すべきものを WG 委員間での議論を通して選定した。

都合、計 209 個の建築物をリストアップするに至った。また、最終的に、これらの建築物の構造設計を担当した技術者を参照しながら、調査対象とすべき構造家を抽出した。

さらに、今後の調査に資することを目的として、明治以降から現在までの構造家や構造形式・構造技術の変遷を俯瞰する系譜の作成に取り組んだ。

次ページ以降に、これら構造作品年表と構造技術の系譜図、構造家の系譜図について示す。

#### 参考文献

- [1] 日本構造技術者協会，日本の構造技術を変えた建築 100 選-戦後 50 余年の軌跡，彰国社，2003
- [2] 村松貞次郎，日本近代建築技術史，彰国社，1976
- [3] 日本建築学会，近代日本建築学発達史，丸善，1972
- [4] JSCA 構造デザインの歩み編集 WG，構造デザインの歩みー構造設計者が目指す建築の未来，建築技術，2010
- [5] 小堀徹，近代日本建築構造史，東京藝術大学修士論文，1980
- [6] 新建築，新建築社，1925～
- [7] 建築文化，彰国社，1946～
- [8] 近代建築，近代建築社，1946～
- [9] 建築技術，建築技術，1950～
- [10] 村松貞次郎，日本建築家山脈（復刻版），鹿島出版会，2005
- [11] 日本科学史学会編，日本科学技術士大系 17 建築技術，第一法規出版村，1964
- [12] 滝澤春男，耐震建築論の文化史 1970 前後まで，丸善プラネット，2018



竣工年	作品名または名称	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	資料有無	備考	掲載雑誌・書籍	写真の有無
1902年	明治58年 田三井本館	東京都中央区(当 前 丸の内)		横河民輔		鉄骨レンガ造				関東大震災で内部全壊		
1904年	明治57年 佐世保通商手続所港内 第一支店(現 港内郵便 局)	長崎県佐世保市	真島健三郎			RC造				木構造風		
1906年	明治59年 神戶和印東東倉庫0号	神奈川県横浜市	白石隆治	栗木頼義		その他						
1906年	明治59年 日本橋丸善書店	東京都中央区日本 橋	佐野村善 清水組(清水建設)	清水源之助		鉄骨レンガ造	アンネヒック構 法			関東大震災により消失	小堀敏修工論文	
1911年	明治44年 三井物産横浜ビル	東京都中区日本大 通14	酒井社之助 佐野村善	酒井社之助 佐野村善		RC造		日本初のトーム型鉄骨造洋風建築(創設)		消失		
1912年	大正元年 三井貸事務所	東京都中央区日本 橋	横河民輔	横河民輔		RC造	鉄筋コンクリー ト造				小堀敏修工論文	
1913年	大正2年 新設飛行館	埼玉県市谷市	内田村三	内田村三		鉄骨造					小堀敏修工論文	
1914年	大正3年 日本生命保険(株) 京都 支店	京都府京都市	藤野金吾、片岡安	藤野金吾、片岡安		レンガ造					小堀敏修工論文	
1918年	大正7年 東京駅 東京丸上ビル	東京都千代田区 東京丸上ビル	内田村三	藤野金吾、葛田大同 野澤・中野建築事務所	大林組	鉄骨レンガ造	組積造	日本のレンガ造建築を象徴する作品(小澤)				
1922年	大正11年 京都大学建築学教室本館	京都府京都市	日比忠彦	日比忠彦		RC造		京都大学における最初のRC造建築物				
1923年	大正12年 JAビル	東京都千代田区	三妻均所	三妻均所	フラー建築会社	S-RC造					小堀敏修工論文	
1924年	大正13年 本野精舎日邸	東京都京都市	中村操(?)	本野精舎		RC造	中村操設計コンク リートフロック 造					有
1927年	昭和2年 横浜市家公舎	横浜市家公舎	中村操(?)	中村操(?) 中野精舎日邸 (原本館本邸)		RC造	中村操設計コンク リートフロック 造				小堀敏修工論文 新明治大正昭和関東	
1928年	昭和3年 山アハートメン トハウス	東京都渋谷区	間清英	間清英	兼和工務店	RC造	ラーメン構造	日本初のRC前覆面火構造による都市型集合住宅(小澤)				

竣工年	作品名または技術名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料有無	備考	掲載雑誌・書籍	写真の有無
1929年	日清倉庫 (東横町)	東京都京都市	中村順 (?)	本野精吾			中村順がコンクリート構造		DOCOMOMO	京都工芸繊維大学?			有
1930年	京都高等工業学校本館 (3号館)	京都府京都市		本野精吾		RC造				京都工芸繊維大学			
1933年	東京中央郵便局	東京都千代田区		吉田鉄郎		SRC造			DOCOMOMO			小堀誠修工論文	有
1934年	藤井忠聖パワロカトリック教会	長野県軽井沢町		アントニン・レーモンド		木造	鉄柱合掌		DOCOMOMO				有
1946年	不動産銀行下町支店		岡隆一	岡隆要求部		RC造	RC免震構造	基礎部にロッキングコラムを組み込んだ世界初の本格的な免震構造(竹内)					
1946年	日赤京都支店病院	京都府京都市	細川隆	数田喜一		RC造						小堀誠修工論文	
1946年	東京書籍印刷工場	東京都北区松根1-23	島橋・巴雄雄 工務所	島橋健吉 山本喜二		鉄骨造	立体トラス		DOCOMOMO			小堀誠修工論文	有
1946年	松屋橋梁 (株) 組立工場	大阪府大阪	内藤精栄 (株)	松屋橋梁 (株)		鉄骨造							
1946年	国鉄鎌倉駅	東京都千代田区				SRC造							
1947年	ハリ万福日本館	ハリ		坂倉義三									
1948年	東京地下鉄道入江車庫	東京都江東区	内藤多伸	石井勇		RC造	ファイナル ティール					小堀誠修工論文	
1948年	郵政高層アパート	東京都港区	住宅局住宅建設課	住宅局住宅建設課	朝日土木興業	RC造	橋本構造のプロ トタイプ				橋本設計	日本の構造技術を変えた歴史的100選 小堀誠修工論文	
1951年	リーガーズ・スタジオ 東京支社	東京都千代田区一ツ橋	パウル・ワイ ド・ド (構造計画) 岡本勲 (構造 実務設計)	アントニン・レー モン	竹中工務店	RC造	階層間による シラベス、 シラベス、 シラベス		学芸賞 (1951)		リー・タイ論争	建築文化1952年1月号 建築文化1952年2月号 日本の構造技術を変えた歴史的100選 小堀誠修工論文	
1952年	神奈川国立近代美術館	神奈川県鎌倉市		坂倉義三、駒田知 彦、山田善雄 他	馬淵建設	鉄骨造	鉄骨プレス		DOCOMOMO	坂倉事務所にて設計の学芸賞あり。計算書は残っていないようです。(多田)			有
1952年	森林記念館	北海道苫小牧				木造	構造用圧縮繊維 アーチ						
1952年	龍泉倉庫	神奈川県横浜市	日大川野研究室、加藤孝	日大川野研究室	大成建設	RC造	シャール構造						
1952年	日本相互銀行本店	東京都中央区	横山平宇 木行隆彦	前川國男建築事務所	清水建設	S-SRC造	上部S+下部SRC	トラス断面各部に配置し、大空間を実現 (伊藤)	DOCOMOMO	資料室あり			有
1952年	アレセット記念講堂		岡 隆一	山口文象	玉井工務店	S-RC造	ハラントラ ーメン						
1952年	日英国際会館 (現日比谷パークビル)	東京都千代田区	竹中工務店	竹中工務店	竹中工務店	SRC造	組立構造による ラーメン構造	組立構造による ラーメン構造	学芸賞 (1951)				有

竣工年	作品名または技術名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料有無	備考	掲載誌・書籍	写真の有無
	プリンスホテルイン アーク	東京都中央区	松田平田設計	松田平田設計	清水建設	SRC造	内装壁面吹き上げ 柱工法					掲載誌1955年1月号 日本の構造技術を変えた建築100選	
1952年	愛媛県庁舎	愛媛県松山市福の 内	坪井善勝、秋 島金次、藤田 嘉久	丹下健三、渡田幸、 大谷善夫 他	大林組	RC造	薄肉球形RCシエ ル、断面型複合 シェル	直径50mの円形平面を覆う多目的ホールの屋根に球形シェルが用いられた。シェルの原案を案に 、断面型複合シェルとして、支持脚外側の応力分散に有効な構造となっている。当時、 世界でも最大級の球形シェルであった。(公)	学芸賞 (1953)			新建築1954年7月号 日本の構造技術を変えた建築100選 小規模修繕工論文	
	広島平和記念資料館	広島県広島市	松下清夫	丹下健三		RC造			DOCOMOMO 学芸賞 (1956)			新建築1954年7月号	有
	広島市民の家	広島県広島市	坪井善勝	丹下健三		RC造	逆さシェル						
	フットリウム博覧会 （広島県立平和記念堂）	広島県広島市	内藤多仲・南 和久	村野藤吾		RC造 トラス			東京山形 学芸賞 (1955)	東京山形博覧会 のメイン会場として、 村野藤吾の設計による 逆さシェルを特徴とし、 逆さシェルの構造形式 を応用した鉄筋コンクリ 造（張田）			有
	沼津市公衆堂	神奈川県沼津	坪井善勝、田 中尚	建築工学研究所 中尚	三友工業	RC造	シェル屋根					新建築1953年9月号	
	法政大学55年館	東京都千代田区	大江宏			RC造	カーテンウォー ル						
	SH-1		藤澤謙二			鉄骨造	ブレース構造	住宅を鉄骨造とし、端部に至るまで詳細に突き詰めた接合部設計を行った（伊藤）		東京文化1956年11月号 文化財保存計画協会			
1954年	神奈川県立図書館・音楽 堂	神奈川県横浜市	横山不学 木村俊彦	前川國男	大成建設	SRC造			DOCOMOMO 学芸賞 (1954)				有
1955年	国産印刷前町工場	静岡県島原郡	横山不学、渡 辺謙弘、木村 俊彦 他	丹下健三、渡田幸、 治原節 他	大成建設	SRC造	斜縁形トラス		DOCOMOMO 学芸賞 (1955)				有
	国際文化会館	東京都港区六本木	横山不学 木村俊彦	前川國男、坂倉準 三、吉村廉三	清水建設	RC造			DOCOMOMO 学芸賞 (1956)				有
	成城幼稚園遊戯室						3ヒンジ山形 ラーメン						
	大日本インキ東京工場	東京都板橋区	坪井善勝、森 田一、青木義 雄 他	海老原一朗、八重田 隆敏、大坪幸定 他	竹中工務店	RC造	RCシェル	円筒シェル、断面状シェル、縦断縁溝など、種々の鉄筋コンクリートシェルを用い、工場建築 が可能な点に注目して開発された。(公)					
	作新学院体育館	栃木県宇都宮市	巴屋鉄工場	巴屋鉄工場		鉄骨造			DOCOMOMO			小規模修繕工論文	
1956年	福島県教育会館	福島県福島市	横山不学 木村俊彦	大澤正人、鬼頭祥、 大沢三郎 他	清水建設	RC造	折板構造、波形 シェル		DOCOMOMO			新建築1956年10月号 小規模修繕工論文	有
	早稲田大学記念堂	東京都新宿区	内藤多仲	内藤多仲	戸田組	RC造	鉄骨3ヒンジ		DOCOMOMO				
	八幡浜市立白土小学校	愛知県八幡浜市	松村正徳			木造	ハイブリッドな 木構造		DOCOMOMO				有
	聖アンセルモ目黒教会	東京都目黒区	岡本剛、小野 祺三	アントン・レーモ アント	白石建設	RC造	折板構造						
	祖父ヶ森第二工場	埼玉県大野原	二橋秀雄、加 藤六美	谷口吉郎	安藤組、清成建設、大 正鉄筋コンクリート 工、大成建設、戸田 組	RC-SRC造			DOCOMOMO 学芸賞 (1956)			新建築1956年10月号	

竣工年	作品名または校名	場所	構設計画者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料有無	備考	掲載誌・書籍	写真の有無
1957年	前田県政府庁舎	前田市長府公園	坪井龍勝、市青木、市川六造	丹下健三	大成建設	RC造	薄肉円筒シェル	一部が50%の正方形断面を有し、直交を許容で支えらる円筒シェル構造の多目的ホール。通常の矩形コンクリート円筒シェルとしては見分けがつかない。 (公)				掲載誌：書籍 日本の構造技術を変えた建築100 小畑敏修工論文	
	中央通信学園講堂	東京都府中市	内田持哉	電電公社	藤村建設、巴屋鉄工場	鉄骨造	鉄骨シェル		DOOOMMO			新建築1957年4月号	有
	旧東京都庁舎	東京都千代田区	藤行憲博、藤原一、小野黒、武藤清	丹下健三	戸田組	S+RC造	コアシステム					新建築1958年6月号 近代建築1958年6月号	
	横浜向校	兵庫県南淡町	坂崎健	堀田友也	オリエンタルコンクリート	RC造	RC不動態鋼構造柱ラーメン構造	京都大学で所有しているのではないかと				日本の構造技術を変えた建築100 小畑敏修工論文	
	東京経営大学体育館	東京都国分寺市	大塚建設、高杉、福嶋鶴彦	大成建設、秋本悦弘、矢野昭明	大成建設	鉄骨造	大成トラス					小畑敏修工論文	
	八幡製糖所改築工務	福岡県北九州市	大塚設計	大塚設計	面崎工業	鉄骨造	山形ラーメン構造					日本の構造技術を変えた建築100	
1958年	東京タワー	東京都港区	内藤多中、白藤設計	白藤設計	竹中工務店	鉄骨造	トラス形式自立鉄骨		DOOOMMO		高さ333m	日本の構造技術を変えた建築100	有
	瑞穂高層アパート	東京都中央区晴海	堀山不学、木村修造	和川勇	清水建設	SRC造	メガストラクチャー					新建築1959年2月号 建築文化1963年2月号 日本の構造技術を変えた建築100 小畑敏修工論文	
	スカイハウス	東京都文京区	谷友信	菊竹清訓	白石建設	RC造	円筒シェル、壁柱		DOOOMMO			建築文化1959年1月号 近代建築1959年1月号	有
	香川県庁舎	香川県高松市	坪井龍勝	丹下健三	大林組	RC造	センターコア	当時の鉄筋コンクリート構造は中間層までに限るといふ常識を打破して、高層の単行帯に低重量、場々な日本の伝統の美しさが表現された。(公)	DOOOMMO			新建築1962年1月号 建築文化1962年1月号 小畑敏修工論文	有
	今治市公会堂	愛媛県今治市	坪井龍勝	丹下健三	大林組	RC造	RC折板	折板RC構造、デビュール以来、柱・梁の裏面から脱出した壁の可塑性を追求した最初の作品。(公)	DOOOMMO			新建築1961年1月号 小畑敏修工論文	
	東北電力八戸分力発電所 貯留場建設	青森県八戸市	櫻井英治	松下富太郎	大林組	鉄骨造	ダイヤモンドシェル	単独の断面のプロレスト・パレル・ヴァーリット構造断面で、連続性シェル調を鉄骨3角グリッドシステムで覆ったコンクリート構造の初期の発作。松竹はこの後、ダイヤモンドシェルによる学校体育館を開設し、多くの学校体育館に適用した(竹内)。	DOOOMMO			建築文化1962年1月号 小畑敏修工論文	
	成城学園第二体育館	東京都世田谷区	岡本剛	堀沢清	小塚組	RC造	円筒シェル					新建築1962年1月号 小畑敏修工論文	
1959年	東京国際貿易センター2号館	東京都中央区晴海 6丁目	坪井龍勝、名川、山田、藤原、藤夫	坪井龍勝、名川、山田、藤原、藤夫	大成建設	鉄骨造	鉄骨シェル、壁柱形	直径17mの円形断面上の球形シェルの二辺をやや傾めに切取した断面を三角形鋼目取に分割した競争的立体的に組み上げ、ショットクリートで覆った断面を、全体としてシェル効果を目指している。(公)	DOOOMMO		日本初の鉄骨シェル	日本の構造技術を変えた建築100 小畑敏修工論文	
	成城学園病院	東京都板橋区	松井源吉	菊竹清訓	木田建設	RC造	RC造					建築文化1959年1月号 近代建築1959年1月号	
	プリンススタジアム 工務体建設	神奈川県横浜市	松井源吉	菊竹清訓	大日本土木	RC造	半円形円筒					建築文化1962年10月号 小畑敏修工論文	
	日大津田沼校学業棟	千葉県津田沼市	加藤歩	加藤歩		RC造	円筒RCシェル					小畑敏修工論文	
	世田谷区民会館	東京都世田谷区	坪井龍勝、市川、藤原、藤夫、名川、他	和川勇、大塚三郎、丸岡、他	大成建設	RC造	折板構造	RC折板構造による断面、断面の構成(公)	DOOOMMO			新建築1959年7月号 建築文化1959年7月号 近代建築1959年7月号 小畑敏修工論文	有
	宇都宮市体育館	山口県宇都宮市	大成建設	大成建設	大成建設	S+RC造	壁状立体系トラス					建築文化1959年10月号 小畑敏修工論文	

竣工年	作品名または技術名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料有無	備考	掲載雑誌・書籍	写真の有無
1960年	公室プレファブ住宅多摩公園分庁舎	東京都日野市	大成建設	大成建設	大成建設	RC造	壁式プレキャスト構造					日本の構造技術を変えた建築100	
	国立西洋美術館	東京都台東区	横山不学	ル・コルビュゼ	清水建設	RC造	ラーメン構造	ヒロチイ構造による地上部の開放。1998年に免震改修（小澤）	DOCOMOMO			新建築1999年7月号 近代建築1961年6月号 建築文化1959年6月号	有
1960年	昭和35年 障壁記念会館	東京都千代田区水戸町	坪井善勝、青木繁、加々木英、前田治男、李春、他	海老原一郎、大坪善、他	大成建設	RC造	折板構造	RC造	DOCOMOMO			新建築1960年5月号 建築文化1960年7月号 小畑修士論文	有
	ナリエンタルコンクリート社屋	東京都千代田区	横山建築構造設計事務所	構造会館一級建築士事務所	オリエンタルコンクリート、風村組	RC造	フルPca	RC造				建築1961年3月号 小畑修士論文	
	大分県美術館	大分県大分市	若江英、川崎晴新、口眞	後藤組	後藤組	RC造	シリンドラーシェ	RC造				建築文化1961年6月号 近代建築1961年6月号 小畑修士論文	
	新潟市体育館	新潟市中央区	加藤淳、西村徹夫	宮川英二	吉田組	SRC-SRC造	片層鋼Pシェル構造	RC造	DOCOMOMO BSS (1982)			新建築1961年1月号 近代建築1961年1月号 小畑修士論文	有
	東洋英和女学院小学校講堂	東京都港区	青木繁	木江宏	竹中工務店	RC造	シェル	RC造				建築文化1960年10月号 小畑修士論文	
1961年	昭和三6年 群馬音楽センター	群馬県高崎市高松町	岡本剛	アントニン・レイモンド	井上工業	RC造	折板アーチ構造	RC造	DOCOMOMO			新建築1961年10月号 近代建築1961年10月号 日本の構造技術を変えた建築100	有
	朝川市役所	徳島県朝川市	岡本剛	堀田友也	鉄骨造				DOCOMOMO	京都大学			有
	西条市体育館	愛媛県西条市	岡本剛	坂倉雄三、井上隆司、田代作重、他	清水建設	RC造	片層鋼RCシェル構造	RC造				新建築1961年9月号 月令・コンクリート1961年8月号 小畑修士論文	
	日本バイカラー遊園工場	滋賀県野洲市	坪井善勝、青木繁、川口勝男	海老原一郎、齋田康男	竹中工務店	RC造	HPシェル	RC造				新建築1961年11月号 近代建築1961年11月号 小畑修士論文	
	東京文化会館	東京都台東区	横山不学、木村悦彦	和川国男	清水建設	S/SRC造	ラーメン構造	スパン40mのレンズ状の鉄骨トラス屋根（小澤）	DOCOMOMO BSS (1982) 宇英賞 (1981)			新建築1961年6月号 建築文化1961年6月号 近代建築1961年7月号	有
	アスカセンタークラブ	神奈川県横浜市	坪井善勝、川口勝	川下健三、吉岡三樹	大林組	RC造	シリンドラーシェ	RC造				新建築1962年4月号 建築文化1962年4月号	
1962年	昭和三7年 駒井田市立厚生年金会館（現新築田市産業会館）	新潟県新潟市中央区	原五郎、工谷信一	飯塚五郎蔵	小林加工務店、芥木町工業	その他	3ピロニアーチ、湖田組成材					日本の構造技術を変えた建築100 小畑修士論文	
	埼玉県森林会館	埼玉県さいたま市	坪井善勝、青木繁	清水清	戸田建設	RC造						新建築1962年11月号	
	昭和三8年 昭和三8年 神戶ポートタワー	兵庫県神戸市	日建設計	日建設計	大成建設	SRC造	リフトアップスラブ工法	RC造				建築文化1962年11月号 小畑修士論文	
	下関市体育館	山口県下関市向洋町	坪井善勝、藤公男	今泉晋一	大成建設	SRC造	リフトアップスラブ工法	RC造				日本の構造技術を変えた建築100 建築文化1962年7月号	有
							リフトアップスラブ工法	RC造				建築文化1962年7月号 近代建築1961年7月号 BSS (1984) DOCOMOMO BSS (1985)	
							リフトアップスラブ工法	RC造				建築文化1962年7月号 近代建築1961年7月号 BSS (1984) DOCOMOMO BSS (1985)	
							リフトアップスラブ工法	RC造				建築文化1962年7月号 近代建築1961年7月号 BSS (1984) DOCOMOMO BSS (1985)	

竣工年	作品名または校舎名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料有無	備考	掲載誌・書籍	写真の有無
	聖心学院女子大学	神奈川県横浜市 北区	巴垣設計事務所	日新設計株式会社	大成建設、建築材工業、オリエント工業	RC造	立体トラス					掲載誌: 建築	
	出雲大社、庁の庁舎	鳥取県出雲市	松井清彦	松竹清則	大成建設、建築材工業、オリエント工業	RC造	RC造	スパン30mのプレストレストコンクリート構造をもちきつめた架構(竹内)	学芸賞(1984) 建築文化1985年10月号 BGS(1985)	構造計算書あり (松竹/松井清彦)		新建築1985年10月号 建築文化1985年10月号	有
	三菱ドリームセンター	東京都中央区	日建設計(矢野賢巳)	日建設計(体屋二)	竹中工務店、PSコンクリート工業	RC造	前駆体用鋼筋造	鉄骨の中核コアの周りにドーナツ状のRC核殻をリフトアップして施工、建築デザインと構造システム、施工システムの一体化を實現した超層のランドマーク(竹内)	DOCOMOMO	日建設計		建築文化1985年3月号 新建築1985年5月号 建築文化1985年5月号 建築文化1985年5月号	有
	鶴林市庁舎	群馬県鶴林市	松本英、佐藤定和	松竹清則	大成建設	RC造	中空スラブ					建築文化1985年10月号 建築文化1986年10月号	
	緑部	東京都品川区	松本英、佐藤定和	松竹清則	竹田組	RC造						建築文化1986年10月号 建築文化1986年10月号	
	大石寺大改修	静岡県富士宮市	青木英、藤田悠亮、他	梅山公利、大船越男、長谷川浩平、他	大成建設	RC造	シェル		BGS(1985)			新建築1985年5月号 建築文化1985年5月号 小規模修繕工論文	有
	学習院女子大学図書館	東京都豊島区	横山不孝、木村裕、加々美孝幸	横山不孝、木村裕、加々美孝幸	大成建設	RC造	ラーメン構造、RC壁構造					新建築1984年1月号 建築文化1984年1月号 小規模修繕工論文	有
	朝門市庁会館	徳島県朝門市	棚田友也	棚田友也		鉄骨造			DOCOMOMO	京都大学			
	鳥取県立中央図書館	鳥取県鳥取市 中町	坪井善勝	池辺陽					DOCOMOMO				
1984年	国立代々木競技場	東京都渋谷区代々木	坪井善勝、川口龍	川口龍	第一体質館=清水建設、第二体質館=大林組	SRC造	タワー構造、鉄骨、コンクリート、プレキャスト、制振構造	二本の主材の間にメインフレームを配置し、メインフレームと扇型スタンドとの間に、半円性の構造を形成し、この構造は扇形構造によって得られたもので、美しい建築は扇形にもあてはまらない(松)	学芸賞特別賞 DOCOMOMO	学芸賞特別賞 DOCOMOMO	新建築1984年10月号 建築文化1984年10月号 建築文化1984年10月号 小規模修繕工論文	有	
	ホテル東光園	鳥取県水戸市	松井清彦	松竹清則	熊谷組	SRC造	2段にロイヤルホテルが建つ、ポイントスラブ		DOCOMOMO			新建築1985年4月号 小規模修繕工論文	有
	ホテルニューオータニ本館	東京都千代田区紀尾井町	大成建設	大成建設	大成建設	SRC造	ラーメン構造	日本初の超高層建築	BGS(1986)			新建築1984年11月号 建築文化1984年11月号 小規模修繕工論文	有
	京都タワー	京都府京都市	細川隆、金多山田守	山田守		鉄骨造	扇形塔構造(モノコック構造)	タワーの設計時の評価に關して、建築学会大会機関に資料有り				新建築1985年7月号 建築文化1985年7月号	
	瀬川テラスハウス	神奈川県横浜市 北区	松井清彦、和田晴直	松竹清則	清水建設	RC造	階段ラレーマン					建築文化1984年7月号 小規模修繕工論文	
	日本電子K.K. 南条館	東京都品川区	海老原隆彦設計事務所	海老原隆彦設計事務所	松井建設	RC造	P.S.-TILT-UP					建築文化1984年10月号	
	大聖寺本堂	埼玉県入間市	北條孝、富土雄	松下剛方、田中正孝	巴越鉄工場	その他	アルミ合金、シェル					建築文化1984年7月号 小規模修繕工論文	
	読売カントリークラブハウス	神奈川県横浜市	R. B. フラー	大成建設	大成建設		フラードーム					小規模修繕工論文	
	駒込公園体育館	東京都目黒区	藤本正、山本朝太郎、他	藤原義隆、守屋善太郎、吉沢英一、他	鹿島建設、藤田組	S-RC造	鋼形Pシェル		DOCOMOMO			新建築1985年10月号 建築文化1985年10月号 小規模修繕工論文	有
	香川県立体育館	香川県高松市	岡本剛、保野善治	岡野健三、神谷英治	清水建設	RC造	サスペンション構造	代々木の實現へと繋がるサスペンション懸吊構造(小澤)	BGS(1986)			新建築1985年6月号 建築文化1985年6月号	有

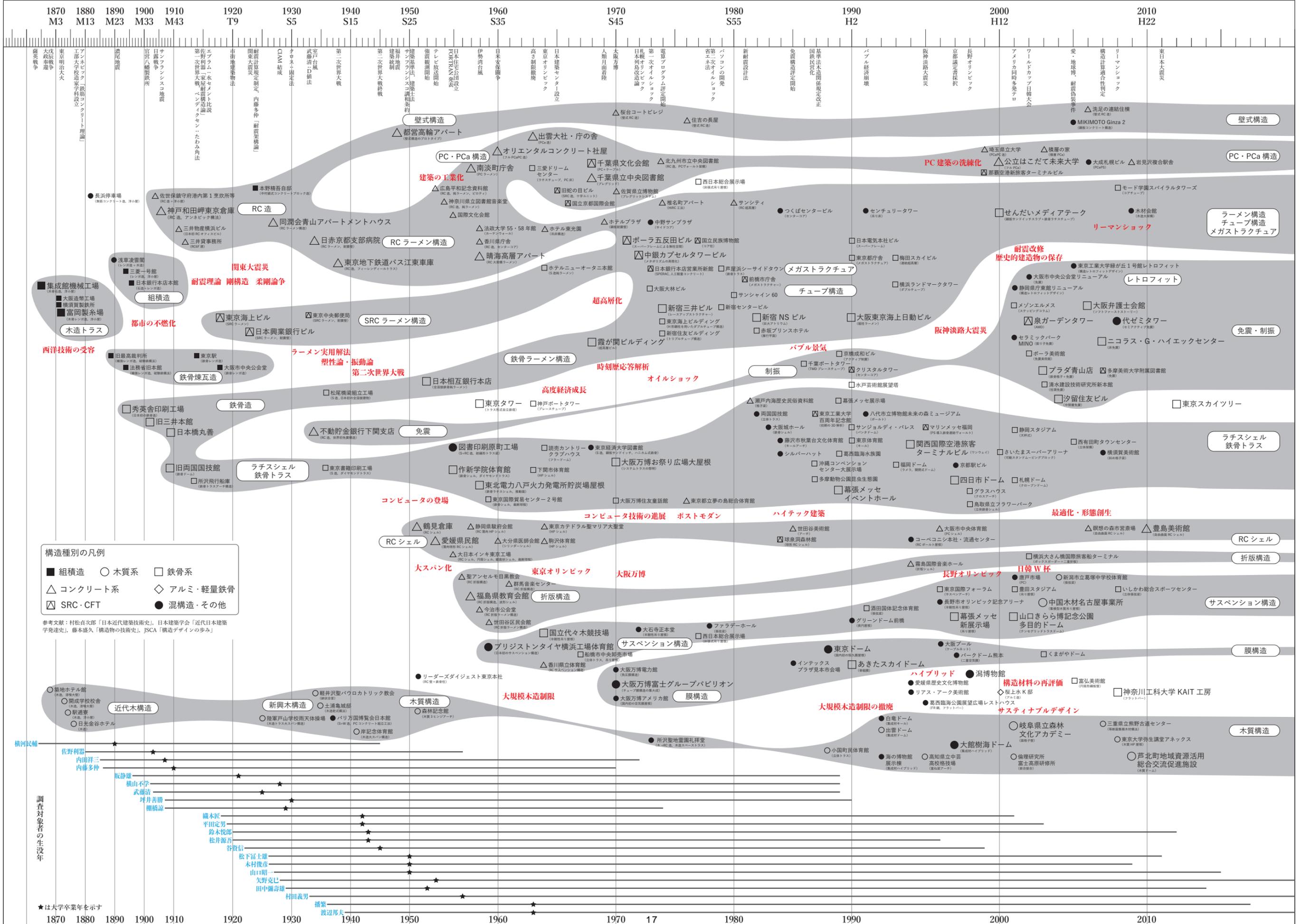
竣工年	作品名または仮称名	場所	構造設計者	建築施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料有無	備考	掲載誌・書籍	写真の有無
1965年	東京カネ子ドラッグマリア大聖堂	東京都中央区明石3丁目	坪井善勝、名井下雄三、神谷宏、高橋一三、山崎三郎、高橋一三	大成建設	RC造	複合円シェル	円状の放射コンクリート円シェルを重畳に組み合わせて特異な非対称的空間が構成されている。(公)	DOCOMOMO 1986年10月号 ISS(1986)			掲載誌1965年10月号 建築文化1965年6月号 日本の構造技術を変えた建築100 小松敏修工論文	有
	和田谷区立工業資料館	東京都和田谷区世田谷	横山不学、木村俊彦、木村俊彦	大成建設	RC造	RC造					新建築1964年12月号 建築文化1964年12月号 小松敏修工論文	
1965年	与保岳展望所	長崎県佐世保市	坪井善勝	構材組	RC造	円シェル					新建築1965年2月号 小松敏修工論文	
1965年	東京スタジアムスケートリンク	東京都荒川区	太田工業	太田工業	その他	ガラスベンシジョン					小松敏修工論文	
	田代の目ビル	東京都中央区	横山不学、木村俊彦、行野隆	清水建設	SRC造	十字ユニット		日本建築学会賞			新建築1965年10月号 建築文化1965年10月号 小松敏修工論文	有
1966年	新築田カトリック教堂	新潟県新発田市	アントニン・レーモンド	新築田建設	木造	立体合掌					新建築1966年12月号 JA 1999年4月号	
	海山文化センター	岡山県津山市	木村俊彦、渡辺邦夫、伊藤久枝	三井建設	RC・SRC造	RC・SRC造		DOCOMOMO、BCS賞			新建築1966年4月号 建築文化1966年4月号 近代建築1966年4月号	
1966年	東灘体育館	神奈川県横浜市	山下勇一郎	住友建設、巴屋鉄工所	鉄骨造	折板構造					小松敏修工論文 新建築1966年6月号	
1967年	国際基督教大学基礎理学院本館	東京都	増田一廣	相富建築設計事務所		トラス格子梁						
	伊賀上野市立西小學校林間部	三重県伊賀市	平田隆雄建築研究所	坂倉準三	S+RC造	スペースフレーム					近代建築1967年8月号 小松敏修工論文	
1967年	小松ビル	東京都港区	高橋一三建築事務所	中山克己、増田邦夫	SRC造	ペアリングウォール					建築文化1967年6月号 小松敏修工論文	
	国立京都国際会館	京都市左京区	横山不学、木村俊彦、高橋一三、山崎三郎	大成建設	RC・SRC造	ラーメン構造	細部から構造まで一貫した台形・逆台形の振り返しによるシステム。(小澤)	BCS賞(1967) DOCOMOMO	法政大学		新建築1967年6月号 建築文化1967年7月号	有
1967年	山梨文化会館	山梨県甲府市	横山不学、富沢次郎	住友建設	SRC造		巨大なコアに変えられた高層階段	DOCOMOMO			新建築1967年4月号 建築文化1967年4月号	
	船橋市中央卸売市場売場棟	千葉県船橋市京本町	日建設計	清水建設	S・SRC造	舟形根、鋼管立休トラス	ZZ. 100m の屋根系12本の柱で支えた舟形根構造				日本の構造技術を変えた建築100 小松敏修工論文 新建築1967年11月号 建築文化1967年11月号	
1967年	静岡新聞・静岡放送ビル	東京都中央区銀座	善本繁、石井一三、高橋一三	大成建設	SRC造	外装面吹掃	特殊構造による変形ピロティ、メジサー・スラッシュ・コアにサブ・システム・コアを組み合わせ、空間構成に深く関わる構造方式が実現している。(公)				新建築1967年2月号 建築文化1967年1月号	有
	駿河江戸庁舎	山形県東江市	松野謙吾	黒川記念	RC造	ガラスベンシジョン		DOCOMOMO			建築文化1967年6月号	有
1967年	伊かり文化会館	東京都世田谷区	川口隆、中島留司	大成建設	RC造	折板ポステンション					新建築1967年9月号 建築文化1967年9月号 小松敏修工論文	
	佐渡グラウンドホテル	新潟県新潟市	松井謙吾	新竹清洲	S+RC造	鉄骨トラス梁					新建築1967年11月号 建築文化1967年11月号	



竣工年	作品名または技術名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料名称	備考	掲載誌・書籍	写真の有無
	エクスネタワー	大阪府吹田市	松井清吾	松井清訓	大成建設、大林建設、竹中工務店	鉄骨造						新建築1970年5月号	
	大講の塔	大阪府吹田市	坪井康典、吉岡寛之、中野シエスター	岡本太郎	大林組、竹中工務店、藤田組	S・RC・SRC造		高さ70m、堂加東府京市の油田工業（鉄骨コア）にて鉄骨を製作。そのコアにこの大講の塔の鉄骨製作図面本を写した鉄筋あり（須田）		須田工業（オリンパルの鉄骨図）	現在改修工事中		
	桜谷コートビル	神奈川県横浜市長官	松井清吾、田中忠男	内井昭康、黒島泰行	東急建設	RC造			DOCOMOMO 学芸賞(1970)			新建築1970年11月号 建築文化1970年11月号	有
	春日井産業駅前総合本所	愛知県春日井市	松井清吾	中野工科大学竹内研 究室	清水建設	S・RC造						建築文化1970年5月号	
	佐賀県立博物館	佐賀県佐賀市	大塚修三、相原俊弘	高橋誠一	松尾住宅建設	RC造	ブリックリットンシステム		学芸賞(1971) DOCOMOMO	法政大学		新建築1971年5月号 建築文化1971年5月号 近代建築1971年3月号	有
	新東横ホテル本館	東京都千代田区	武藤清	高橋貞太郎	鹿島建設、清水建設、大林組	S・RC・SRC造	ラーメン構造	日本初のRC/鉄柱に鉄を現露仕様				近代建築1970年5月号 日本の構造技術を変えた建築100選	
1971年	ポニー五反田ビル	東京都品川区五反田	日建設計(矢野亮巳)	日建設計(林周二)	竹中工務店	SRC造	メガフレーム	ダブルコアとメガフレームによる40mの軸柱空間により新しいオフィスのあり方を提案(竹内)	DOCOMOMO 学芸賞、BIS(1973)	日建設計、ポニー		建築文化1971年5月号 日本の構造技術を変えた建築100 小畑修三論文	有
	佐倉市庁舎議事場	千葉県佐倉市	松井清吾	黒川紀章	安藤建設	S・RC造	柱シェル					新建築1971年5月号 建築文化1971年5月号	有
	秋田県エスケート場	秋田県秋田市	久米建築事務所	久米建築事務所	大成建設	S・RC造	立体トラス					建築文化1972年10月号	
	IBUビル	東京都港区	日建設計	日建設計	竹中工務店	S・RC造	ハニカム梁					新建築1971年4月号 小畑修三論文	
	神野電報所	東京都港区	東電設計	東電設計	間組	SRC造	前照燈付きラニアック構造、逆打工法					日本の構造技術を変えた建築100選	
	京都信用金庫九条支店	京都府京都市	松井清吾	新竹清訓	大成建設工業	RC造	鋼製Hパネル					新建築1972年4月号 小畑修三論文	
1972年	本館高層スポートセンター	大阪府高石市高野	青木繁	橋本修、渋谷謙知	鶴高組	S・RC・SRC造						DOCOMOMO	
	中環カプセルタワービル	東京都中央区	松井清吾、依田忠男、他	黒川紀章、阿部健太、上田嘉二郎、他	大成建設	S・SRC造	センターコア					新建築1972年10月号 建築文化1972年10月号 近代建築1972年11月号 小畑修三論文	有
	広島県警式新館高層7ハート	広島県広島市	木村修彦、橋本良三	大塚正人、藤本昌也、塚山敏夫	竹中工務店、アソテ工業、戸田建設	S・RC造						DOCOMOMO	
	真駒内公園内競技場	北海道札幌市	高坂、園部、巴建築工所	中山克己	清水建設	SRC造	立体トラス			法政大学		新建築1973年5月号	有
	日本放送伝田第一ホール	千葉県原市	特設設計事務所、井澤勝、中蔵	特設設計、東京建築研究所	大成建設	鉄骨造	鉄骨造トラス形式					日本の構造技術を変えた建築100選 建築文化1972年7月号	
	大石寺 正木堂	静岡県富士宮市上条	清水繁、井澤勝、山門治実彦、山門治実彦、田治実彦	橋山公男	大成建設、大林建設、竹中工務店、戸田建設	S・RC・SRC造	車輪構造、車輪トラス、創立円筒シェル、円筒断面、断面	車輪構造、車輪トラス、創立円筒シェル、円筒断面、断面				新建築1973年1月号 近代建築1973年1月号 日本の構造技術を変えた建築100選 小畑修三論文	有
1973年	日本銀行本店業務所新館	東京都中央区日本橋	松田平田設計事務所、梅村賢一	松田平田設計事務所、松田平田設計事務所	鹿島建設、清水建設、竹中工務店	SRC造	SPEMAC人工壁、重コンクリート		BIS(1974)			日本の構造技術を変えた建築100選 建築文化1969年11月号	有

竣工年	作品名または仮称名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料名称	備考	掲載誌・書籍	写真の有無
1974年	広電ホームズタワーズ	東京都港区	木村俊彦、花柳文彦、小野五弘	花柳文彦、渋谷敏和、小野五弘	竹中工務店	S・SRC造	センターコア			法政大学		建築文化1972年10月号	
	大塚大林ビルディング	大塚区	大林組	大林組	大林組	S・SRC造			BGS (1974)			新建築1972年4月号 近世建築1972年4月号 建築文化1972年4月号	有
	北九州市立総合体育館	福岡県北九州市	山下青郎	山下青郎	森村組	S・RC造	鉄骨折板構造					新建築1972年2月号?	
	那珂内海歴史民俗資料館	香川県高松市	木村俊彦、伊藤久枝	香川県建築課、山本垣	高岸工務店	RC造	格子梁		学芸賞 (1974) DOCOMOMO	法政大学		新建築1972年10月号 建築文化1972年10月号	有
	所沢聖地園聖母堂	埼玉県所沢市	田中浩二、林義典、長瀬大輔 (長瀬田大輔)	田中浩二、林義典、長瀬大輔	竹中工務店	木・RC造	木造スペース トラス		DOCOMOMO 学芸賞 (1973)			新建築1973年12月号 建築文化1973年12月号	有
	津市民ホール上層	三重県津市	藤田建築設計事務所、エリカ・コンクリートクリート	藤田建築設計事務所、エリカ・コンクリートクリート	津池組	RC造	場所打ち格子梁					プレストレストコンクリート1972年4月号	
	三和銀行東京ビル	東京都千代田区	日建設計	日建設計	大林組	S・RC・SRC造			BGS (1975)			新建築1974年2月号 近世建築1974年2月号 建築文化1974年2月号 小田修三論文	有
	各都府県庁舎会館サンフラサ	東京都中野区	日建設計	日建設計	大林組、フジタ工業、佐藤工業	SRC造	斜張橋付タワー オン構造、高層 床裏面コンク リート		BGS (1974)			新建築1972年2月号 日本の構造技術を変えた建築100選	有
	東京海上ビルディング	東京都千代田区丸の内	東宝建設事務所、山田建設事務所	前川國男	大林組、鹿島建設、清水建設、竹中工務店	RC・SRC造	形状体を用いたダブルユー ン構造		BGS (1976)		美観競争	新建築1974年11月号 日本の構造技術を変えた建築100選 小田修三論文	有
	新宿住友ビルディング	東京都新宿区	日建設計	日建設計	鹿島建設、竹中工務店、住友建設	鉄骨造	ユー ン地盤の速度 評価					新建築1974年11月号 日本の構造技術を変えた建築100選 小田修三論文	有
新宿三井ビルディング	東京都新宿区	三井物産、日建設計	三井物産、日建設計	鹿島建設、三井建設	S・RC・SRC造	レースアップス トタワーコア、 RCウオールト 束		学芸賞 (1976) BGS (1976)			新建築1975年10月号 日本の構造技術を変えた建築100選	有	
北九州市立中央図書館	福岡県北九州市	木村俊彦、花柳文彦、小野五弘	木村俊彦、花柳文彦、小野五弘	森村組	RC造			BGS (1976)	法政大学		新建築1975年10月号 近世建築1975年10月号 建築文化1975年10月号	有	
秋川庁舎	山口県秋田市	松野隆吉	松野隆吉	東谷建設、松野建設、長村組	S・RC造						新建築1975年10月号 近世建築1975年10月号		
鹿島建設複合市アハート	東京都墨田区	鹿島建設、武蔵野	鹿島建設	鹿島建設	RC造	網ラーメン構造						日本の構造技術を変えた建築100選 小田修三論文	
ホテルニューオータニタワー	東京都千代田区	大成建設	大成建設	大成建設	S・RC・SRC造			BGS (1976)			新建築1974年10月号 近世建築1974年10月号 建築文化1974年10月号	有	
茨城県公営松浦公園体育館	茨城県水戸市	高橋公男	小林義夫	大成建設	S・RC造	ケーブルネット 吊橋	外周に面した扇形平面を構成するケーブルネットの塔工に並工構造を採用・実用・スタンダードとコア柱がつくる正面外観が特徴的。(公)					Conf. of Space Str. (1975) ・コラム No.7 (1975) 小田修三論文	
福岡銀行本店	福岡県福岡市	松野隆吉、森川義隆	森川義隆、森川義隆	竹中工務店	RC・SRC造			DOCOMOMO BGS (1977)			新建築1975年11月号 建築文化1975年11月号	有	
沖城公園遊歩道委員会フォーラム	沖縄県那覇市	木村俊彦、佐々木龍朗、佐々木龍朗	木村俊彦	鹿島建設、建設院、東急建設、東急建設	S・RC・SRC造					法政大学	新建築1975年11月号 建築文化1975年11月号		
フアラチーホール(日本大学理工学部食堂)	千葉県船橋市	高橋公男	小林義夫	大成建設	S・RC造	車輪型鉄骨	放射状のランダム形状(ロット)に初期張力を積極的に導入しはかど形状を制御。車輪のユニット・リングとコア柱がつくる正面外観が特徴的。(公)		BGS賞 (1979)			・M&S (1979) ・コラム No.5 (1978)	

日本の近現代建築構造の系譜



**構造種別の凡例**

- 組構造    ○ 木質系    □ 鉄骨系
- △ コンクリート系    ◇ アルミ・軽量鉄骨
- ▣ SRC・CFT    ● 混構造・その他

参考文献：村松貞次郎「日本近代建築技術史」、日本建築学会「近代日本建築学発達の歴史」、藤本盛久「構造物の技術史」、JSCA「構造デザインの歩み」

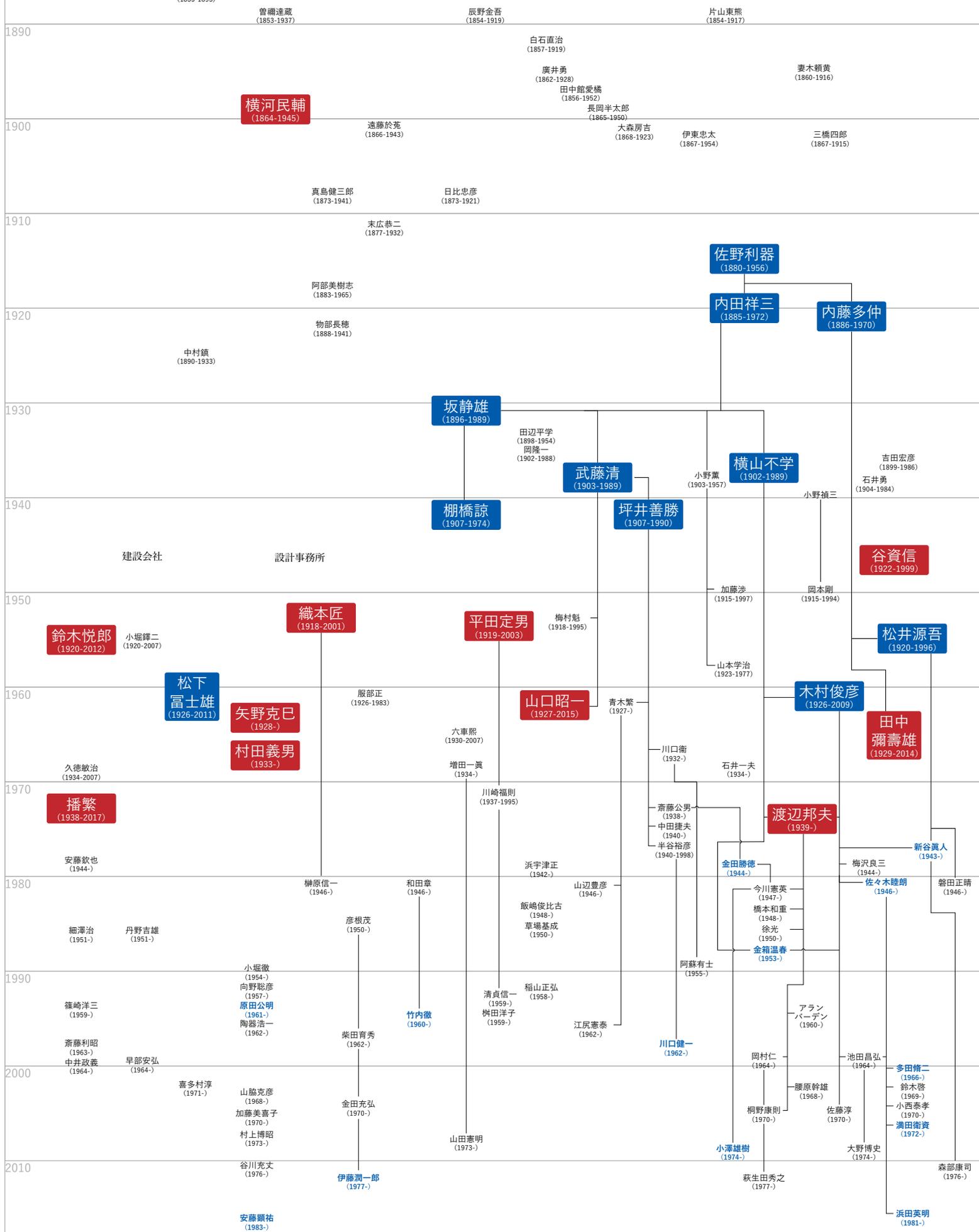
★は大学卒業年を示す

# 構造家の系譜

人名は35歳の年を基準に配置している

林忠恕  
(1835-1893)

青枠白抜字：昨年度調査対象者  
赤枠白抜字：本年度調査対象者  
青字：WG委員



参考文献

- ・日本建築学会編「近代日本建築学発達史」
- ・土崎紀子他「建築人物群像 追悼編/資料編」
- ・藤本盛久編「構造物の技術史」
- ・構造家の系譜, JA 95号

- ・村松貞次郎「日本建築家山脈」
- ・「主集：先駆者たちの挑戦 未来に伝えたい構造技術者の闘い」 structure, No100
- ・日本構造家倶楽部「松井源吾賞・日本構造デザイン賞受賞者一覧」



## 我が国の建築構造のあゆみ

P. 18には、我が国の建築構造の発展に寄与した構造家の系譜例を示している。関東大震災～戦前に活動したエンジニアを第一世代、戦後～1970年代の高度成長期に活躍したエンジニアを第二世代とすると、現在は第二世代の教え子である第三世代が1980年以降活躍し、引退を迎えつつある状態と言える。第二世代のエンジニアが残した図面、計算書、スケッチ、模型類等のアーカイブは現在第三世代が受け継いでいる場合が多いが、同世代の引退に伴い逸散、廃棄される危険性が高い。WGではまず「構造家に焦点をあてるのか、構造技術に焦点を当てるのか」という議論を経た上で明治以降～1970年代に至るまでの主要な構造設計作品約200件を抽出、その潮流をリードした22名の構造家（構造エンジニア）を選出し2年間に渡って資料調査を行った。選ばれたのは図中に箱書きで記述した方々である。

ここでは、この構造家が生きた時代について簡単に振り返る。P. 17は明治以降、2010年ころまでの構造技術の変遷と代表的な構造作品を配置したものである。この年表に沿って大きく分けて明治以降、大阪万博1970年くらいまでの時代とそれ以降の時代、そして耐震構造から超高層建築にいたる領域と大スパン空間構造に関する領域とを、4つに分けて眺めていく。

明治以前の低層木造建物で構成されていた東京（江戸）の街は火災に非常に弱かったため、明治政府はヨーロッパの煉瓦造を導入することで不燃化を図った。しかし、こういった煉瓦造・組積造は地震に非常に弱い。サンフランシスコ地震が1906年に起こり大きな被害が出たのを見て、佐野利器は1920年に市街地建築物法の導入に尽力し、世界初の耐震基準（ベースシア0.1）が設定された。その3年後に関東大震災が発生し、既存の煉瓦造建物はほぼ壊滅した。そのころ鉄筋コンクリートによるラーメン構造骨組に壁を挿入した耐震構造が提案され、それを日本興業銀行の構造設計で実践したのが内藤多仲である。同氏の言う「トランクの間仕切り」のように配置された耐震壁によって、この建物は関東大震災を無傷で生き延び、これが我が国のスタンダードな耐震設計の姿になっていく。

その後、建物を固く作るべきだという佐野利器らと、柔らかく作れば地震力を低減できるという海軍の真島健三郎らとの間で有名な柔剛論争が起こり、さらに棚橋諒によるポテンシャルエネルギー論が提示されたが、当時強震記録が得られなかったため、この議論は結論が出ず終わってしまう。この時代、数多くの免震構造の特許が出願されるとともに、世界最初の免震構造である不動銀行下関支店ビルが関根陽太郎と岡隆一のコンビによって実現している。ただし当時まだ積層ゴムは存在しておらず、ロッキングコラムを基礎に埋め込むことで長周期化を図っている。また、欧州では19世紀後半から鋼鉄の量産化が始まり、それと同時に工業化も非常に勢いで進んでいった。日本でも1901年の八幡製鉄所の操業と鉄骨造の導入後、鉄骨構造と煉瓦造、あるいはRC造を組み合わせることで東京駅や国会議事堂等の主要なインフラが整備されていった。

これらの街づくりは第2次世界大戦により一度壊滅し、焼け野原となる。戦後復興の途中で福井地震が1948年に発生し、建築基準法の震度は0.2に引き上げられる。この頃ようやく精度のよい強震記録が米国で得られるようになり、その応答特性を用いたHousnerらによる応答スペクトル法の確立、そしてコンピュータの発達により実現したNewmarkらの時刻歴応答解析手法が実現した。

これを受けて、かつての剛構造論者であった武藤清による時刻歴応答解析を用いた柔構造の研究が行われ、その結果、1920年以來の100尺(31m)の高さ制限が撤廃され、初めての超高層ビルである霞が関ビルディングが1968年に建設された。

一方、空間構造の世界では鉄筋コンクリートが発明されたあと、ヨーロッパを中心にそれまでの柱梁構造と異なるシェル構造が開発され、トロハ、ネルビー、キャンデラ等によって様々な構造デザインが実現していった。これを受けて日本におけるコンクリートシェルの発展を牽引したのが坪井善勝である。坪井は学術的研究と並行し、様々なRCのシェル構造や、代々木体育館、大阪万博大屋根等の構造デザインを実現していった。1970年の大阪万博はこれ以外にも多くの先進的な構造技術が試みられた。アメリカ館(空気膜構造)等はその代表的なものである。

大阪万博以降、経済の高度成長は鈍化するが、建築技術は成熟段階に入る。一つのトレンドは工業化であり、プレキャストコンクリートを用いた、様々な建築の形態・施工法が追求された。その旗手の一人が木村俊彦であり、彼により数々の名作が生み出された。同時にこの頃は建築を増殖させていく、あるいは移動させていくメタボリズムの概念が夢を持って試みられた時代でもあった。その終着点が大手ゼネコンと鉄鋼メーカーによって推進された芦屋浜高層集合住宅と言えよう。住居一戸をトラックで運搬し、メガフレームに差し込んでいくということも大真面目に検討されたが、結果的には経済的合理性が成立しなかったことから徐々にその熱は冷めていった。

その間に超高層設計施工技術の普及は進み、箱型断面柱部材の量産化が実現され、日本の標準となった。初期は整形な超高層ビルが多かったが、解析技術の進歩とともに多様な超高層ビルのデザインが実現するようになった。

一方、空間構造は1980年代後半のバブル経済以降、長野オリンピックやワールドカップ等に伴う、ドーム建設ブームがあった。この時代には、日本初の恒常的な空気膜構造である東京ドーム、そして鋼管骨組膜の名作である秋田スカイドーム、そして二重空気膜のパークドーム熊本や、張弦梁を使用するテンション構造を用いた前橋ドームなどが実現していった。また、鋼構造分野でも空港や展示場などで有機的な構造デザインが実現するようになった。ガラス被膜で覆われた透明建築が多く実現したのもこの時代である。大規模木造は1959年に建築学会による大規模木造禁止宣言後永く途絶えていたが、1990年以降、空間構造を皮切りに復権が行われ、多くのドーム建築が集成材を用いてデザインされるようになった。

#### 4. 本年度調査対象者の構造資料所蔵調査結果

本年度は、昨年度に引き続きさらに調査対象分野を拡げ、新たに調査対象者として選定された 11 名の構造家に対し、構造資料の存在有無を関係各所に実地調査した。調査対象者の略歴、年表、業績(構造設計作品と著作)、調査概要についてまとめた。

次項以降において、調査対象者ごとに本年度調査結果を示す。

## 4.1

# 横河 民輔

よこがわ たみすけ

1864年（元治元年）～1945年（昭和20年）



実業家、建築家。1891年の濃尾地震の直後に「地震」を著すなど早くから我が国における耐震構造の重要性を説き、鉄骨構造による旧三井本館を実現させるなど我が国の鉄骨構造における先駆的役割を果たす。建築家として横河工務所の設計活動のみならず、鉄骨加工技術の確立を目指し横河橋梁製作所を設立、その後も電気計器研究所や横河化学研究所、東亜鉄工所を創業するなど、実業家としての手腕も発揮し、工業会全体に貢献した。

### ・年表

1864年（元治元年）	兵庫県生
1890年（明治23年）	帝国大学工科大学造家学科卒業、横河建築事務所開設
1892年（明治25年）	三井元方囑託
1903年（明治36年）	横河工務所（現 株式会社横河建築設計事務所）開設 東京帝国大学工科大学にて我が国初の「鉄骨構造」講義
1907年（明治40年）	横河橋梁製作所（現 株式会社横河ブリッジ）創立
1911年（明治44年）	建設業協会理事長
1915年（大正4年）	工学博士、電気計器研究所（現 横河電機株式会社）創立
1916年（大正5年）	東亜鉄工所（現 横河東亜工業株式会社）創立
1925年（大正14年）	日本建築学会会長

### ・主な設計作品（\*現存せず、\*\*一部保存）

三井総本店\*（1902）、有楽座\*（1908）、帝国劇場\*（1911）、三越日本橋本店（1914）、東京銀行集会所\*（1916）、日本工業倶楽部\*\*（1920）、三信ビルディング\*（1930）、交詢社倶楽部\*\*（1929）、東京株式取引所\*（1931）

### ・主な著作

地震（1891）、科学的経営法原理（Winslow. F. Taylor : *The Principles of Scientific Management*. 1911の訳書）（1912）、動作研究（Frank. B. Gilbreth : *Motion Study*. 1911の訳書）（1912）、是の如く信ず（1925）

#### 4.1.1 調査の概要

本年12月19日、横河建築設計事務所にて横河民輔資料の調査を実施した。資料は明治から昭和前半のものであるが、東京事務所が関東大震災や東京大空襲などで被災したため、大阪事務所で保管していたものが主体であり、大阪事務所に関連する資料が多い。構造資料として確認できたもののうち、最も古いものは昭和3年の三信ビルの計算書である。おそらく内藤のD値法によるものと思われる水平力を受ける架構の応力計算などが詳細に記されている。

調査内容の詳細について、次項以降の調査シートに示す。



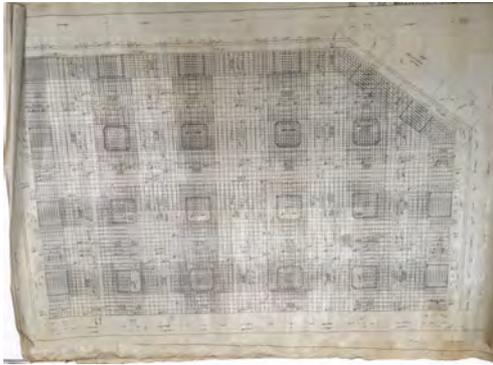


資料保管状況

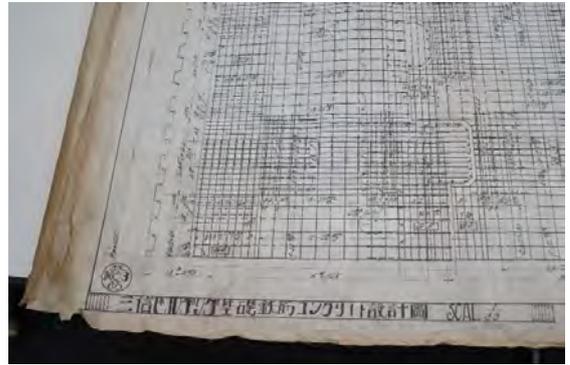


資料調査時の状況

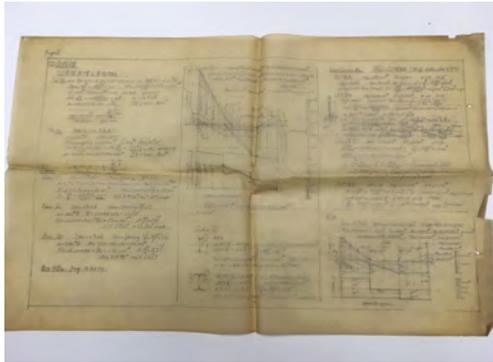
図面



三信ビルディング 基礎鉄筋コンクリート設計図



計算書



三信建物会社強度計算書 昭和三年十月



施工写真



東京株式取引所



三信ビルディング

箱	包み	包み名称	
1	1	工務所主要作品	出版社貸し出し図面
1	2	宇治川電気	
1	3	東京証券取引所	
1	4	交詢社	
1	5	交詢社	
1	6	高輪横河邸	
1	6	日本徴兵名古屋支部	
1	6	ヒューレッドパッカード第三独身寮	
1	7	鳥取赤十字病院	本館改増築工事 衛生工事
1	8	三越大阪支店	南館
1	9	三越大阪支店	
1	10	日本工業倶楽部	
1	11	日本工業倶楽部	9/2追加
2	1	鐘紡高砂	
2	2	錦華人絹	
2	3	錦華紡	設計図
2	4	錦華紡	設計図
2	5	錦華紡	設計図
2	6	日鉄広畑製鉄所	
2	7	日本徴兵保険	
2	8	大阪赤十字病院	本館新築工事
2	9	橋本化成工業	発電室増築工事 工作工場粉碎工場その他(実現せず)
2	10	鐘紡	
2	11	—	
3	1	三井物産東京	
3	1	(三井物産)京城	
3	1	(三井物産)小樽	
3	1	三井合名	
3	1	門司	(三井物産門司支店)
3	1	室町	
3	1	大阪	

箱	包み	包み名称
3	2	塩野義
3	3	大和紡績
3	3	鐘紡
3	4	東洋機械
3	4	日本製鉄
3	4	東亜鉄工所
3	4	神津製作所
3	5	鐘紡高砂
3	5	鐘紡洲本
3	5	鐘紡住道
3	6	輸西ガス
3	6	東洋機械
3	6	満州住宅
3	6	○(←桐?)甲商会倉庫
3	7	二幸商会
3	7	大阪鉄エクラブ
3	7	東洋高圧
3	7	神戸醋酢
3	7	日本化薬
3	7	邸宅
3	7	東京貯蔵銀行 (本店)
3	8	大和紡(錦華)
4	1	三井銀行大阪西支店
4	2	日本化薬福山工場
4	3	日本化薬
4	4	大阪セメント
4	5	大和磨鋼株式会社 工場増築工事
4	6	日本製粉神戸
4	7	三越大阪支店 鉄骨製作図(2)西
4	8	三越大阪支店 鉄骨製作図(1)西 目次在中
4	9	三越大阪支店 鉄骨製作図(3)西

箱	包み	包み名称
4	10	大阪三井別館 鉄骨製作図 昭和37年
4	11	三越大阪支店 鉄骨製作図(5)東
4	12	三越大阪支店 鉄骨製作図(6)東
4	13	カーペット工場分 参考原図
4	14	ポリエチレン工場分 参考原図
4	15	姫路赤十字病院 本館増築工事 33・6
4	16	松江赤十字病院 病棟設計図(衛生暖冷青図)
4	17	岡山赤十字病院 在来本館増築設計図
4	18	和歌山赤十字病院 消防設備竣工図
4	19	和歌山赤十字病院 南病棟 電気設計図
4	20	和歌山赤十字病院 計画案 S50.1~
4	21	塚本総業株式会社大阪工場
4	22	三越大阪支店 鉄骨製作図(4)東
4	23	天王寺駅
4	24	国際見本市会
4	25	小野田セメント
4	26	和歌山モーターズ
4	27	東京製糖芝浦
4	28	百十四銀行岡山支店
4	29	横河橋梁大阪
4	29	巢鴨製作所
4	29	松下電工株式会社
4	29	神戸博覧会
4	29	東京貯蔵銀行大阪
4	30	三重県毛織
4	30	東洋綿花
4	30	東亜針布 (兵庫)
4	30	日本絹布
4	30	金沢紡績
5	1	鐘紡淀川
5	2	鐘紡洲本

箱	包み	包み名称
5	2	鐘紡住道
5	2	鐘紡三池
5	2	鐘紡淀川
5	2	鐘紡西大寺
5	2	鐘紡松坂
5	3	宇治電 木津
5	3	関西火力 第一
5	3	関西火力 第二
5	3	関西火力 構造
5	4	鐘紡京城
5	4	鐘紡光洲
5	5	鐘紡三池
5	5	鐘紡淀川
5	5	鐘紡佐賀
5	5	鐘紡神戸
5	5	鐘紡長浜
5	5	鐘紡下束
5	5	鐘紡人絹研究所
5	6	京都電灯株式会社
5	6	阪和電気鉄道
5	6	大阪酸水素株式会社
5	6	宮津発電所
5	6	金岡発電所
5	6	伏見発電所
5	7	鐘紡山科
5	7	鐘紡防府
5	8	鐘紡和歌山
5	8	鐘紡洲本
6	1	松江赤十字病院 産労住宅設計図
6	2	大阪赤十字病院 平面図
6	2	大阪赤十字病院 変更図

箱	包み	包み名称
6	2	大阪赤十字病院 立面図
6	2	大阪赤十字病院 断面図
6	3	松江赤十字病院 診療棟三階増築工事
6	4	岡山赤十字病院 増築 四階
6	5	和歌山県赤十字病院 一階コバルト治療室電灯配線変更図
6	5	願生寺本堂 その他改築に伴う暖冷房工事
6	6	赤十字病院和歌山支部
6	7	和歌山赤十字病院 病棟（衛生竣工図）
6	8	橋本化成工業株式会社
6	9	棉花会館 新築設計図
6	10	和歌山医大 第三病棟 構造・雑
6	11	三井物産寄宿舎住吉天王寺町 敷地測量図
6	12	日本赤十字社鳥取県支部庁舎 S三十九年十二月八日
6	13	山口赤十字病院 第二期工事病棟基地構造図
6	14	山口赤十字病院 霊安室改築及び洗浴室新築(案)
6	15	和歌山医大 本館(電) 近畿電気工事
6	16	和歌山医大 ベータロンRI関係
6	16	(和歌山医大) 避難器具取付
6	17	大阪赤十字病院 本館新築工事(3) ①本館
6	17	大阪赤十字病院 本館新築工事(3) ②講堂 エスカレータ
6	18	三井銀行西陣支店 施工図(京都)
6	19	日本化薬福山工場
6	20	山田赤十字病院 診療棟増築工事
6	21	高松赤十字病院 病棟 設計変更図
6	22	小松島赤十字病院 設計図
6	23	山田赤十字病院 厨房棟改築工事
6	23	山田赤十字病院 電灯並動力配線設備工事
6	24	名古屋第二赤十字病院 病棟改築工事
6	24	名古屋第二赤十字病院 電気設備工事
6	25	和歌山赤十字病院 南病棟 平立断
6	26	和歌山赤十字病院 看護婦寄宿舎設計図

箱	包み	包み名称	
6	27	鳥取赤十字病院	雑変更原図
6	28	天の山カントリークラブクラブハウス	新築工事 電気設備工事
6	29	甲南電機	
6	29	横河電機千里山	敷地実測図
6	30	天の山カントリークラブクラブハウス	新築工事 一般図
6	30	天の山カントリークラブクラブハウス	新築工事 構造図
6	31	鐘紡淀川女子寄宿舎	
6	32	天の山カントリークラブクラブハウス	新築工事 一般図No.8③
6	33	平川鉄工所滋賀工場	新築工事
6	34	茨木家族寮	表門及塀新設工事案
6	35	橋本化成工業株式会社	
6	36	橋本化成工業株式会社	H装置新設工事
6	36	橋本化成工業株式会社	修理工場新設工事
6	37	日棉会館	原寸各部詳細(青図)
6	37	日棉会館	設計変更原図
6	37	日棉会館	構造施工図
6	38	三井銀行大阪西支店	新築設計図
6	39	三井銀行大阪西支店	講堂増築工事 構造図
6	39	三井銀行大阪西支店	エスカレータ付近 構造図
6	40	三越大阪支店	
6	41	山口赤十字病院	ボイラー室及厨房配置・平面・立面図
6	42	山口赤十字病院	病棟及寄宿舎改築計画配置図
7	1	東綿ビル	(三井関係)
7	2	第三特別養護老人ホーム	基本設計原図
7	3	松江赤十字病院	電気関係
7	4	高松赤十字病院	病棟新築工事設計図
7	5	鳥取県立中央病院	増築工事
7	6	鳥取県立中央病院	増築工事
7	7	大阪三井別館	鉄骨製作図
7	8	日冷姫路	
7	9	宇治川電気株式会社第二火力発電所	設計図

箱	包み	包み名称
7	10	大阪赤十字病院 本館 衛生
7	11	大阪赤十字病院 建築図 No.1~No.50
7	12	大阪赤十字病院 一般図 No.51~No.94
7	13	阿武山赤十字病院 手術室新築工事建築・電気・衛生仕様書
7	14	名古屋第二赤十字病院 中病棟設備
7	15	大阪三井別館 鉄骨製作図
7	16	三越松山支店 大街道口改造図
7	17	阪急百貨店 平面図
7	17	大阪大丸 平面図
7	18	西部農協下笠井支所
7	19	棉花会館
7	20	小松島赤十字病院 病棟新築工事
7	21	日冷大阪工場
7	21	日冷各工場
7	22	平川鉄工所滋賀工場 新築工事
7	23	広島赤十字病院 案
7	24	三越大阪支店 予備発電設備
7	25	橋本化成株式会社 事務所新築工事
7	26	三越大阪支店 地下鉄連結関係
8	1	鐘紡淀川
8	1	鐘紡兵庫
8	1	鐘紡高砂
8	2	複数物件
8	3	伏見稲荷
8	4	鳥取赤十字病院 意匠図
8	5	鳥取赤十字病院 構造図
8	6	三越呉服 オーダースケッチ
8	7	大阪三井ビル
8	8	願生寺本堂
8	9	都営住宅 構造図
8	10	大阪空港 深井戸

箱	包み	包み名称	
8	11	鐘紡小田原	
8	12	名古屋第一赤十字病院	
8	13	三井銀行西陣支店	施工図(京都)
8	14	三井銀行本店	新館
8	15	平川鉄工所	
8	16	三井物産大阪支店	
8	17	和歌山医大	
8	18	山口赤十字病院	
8	19	甲南電機株式会社研究所	
8	20	山口赤十字病院	第二期病棟改築衛生冷暖房工事
8	21	山口赤十字病院	
8	22	枚方中央ビル	空調衛生工事
8	23	山口赤十字病院	
8	24	名古屋第二赤十字病院	霊安室給排水衛生工事
8	25	願生寺本堂	その他改築電気工事
8	26	平川鉄工所滋賀工場	
8	27	横河電機本庄倉庫	新築衛生工事
8	28	横河電機本庄倉庫	新築電機工事
8	29	平川鉄工所滋賀工場	
8	30	平川鉄工所	工場
8	31	平川鉄工所	組合事務所
8	32	平川鉄工所	滋賀パーナー工場
8	33	三越大阪支店	
8	34	平川鉄工所	滋賀パーナー工場
8	35	大阪赤十字病院	
8	36	三亜興業富木寮	
8	37	筒川作業所	
9	1	三井日比谷ビル	
9	2	三井日比谷ビル	
9	3	三井日比谷ビル	
9	4	大阪三井ビル	新館立面及塔屋平面図

箱	包み	包み名称
9	5	—
9	6	鐘紡淀川女子寄宿舍
9	7	名古屋第二赤十字病院 病棟改築工事
9	8	甲南電機本社工場
9	9	大阪三井ビル
9	10	名古屋第二赤十字病院
9	11	大阪三井ビル 新館各階面積表
9	12	(大阪三井ビル)
9	13	(大阪三井ビル)
9	14	名古屋第二赤十字病院
9	15	大阪赤十字病院
9	16	三越大阪支店 設備改修工事電気工事 竣功図
9	17	三越大阪支店 消防設備改修工事
9	18	三越大阪支店 東西館スプリンクラー警報設備
9	19	三越大阪支店 エスカレーター新設に伴う地階幹線ダクト改修電気工事
9	20	三越大阪支店 床改修電気工事竣功図
9	21	三越大阪支店
9	22	三越大阪支店 道修町荷捌作業新築消火栓衛生配管工事
9	23	三越大阪支店
9	24	三越大阪支店
9	25	三越大阪支店 道修町荷捌作業新築電気工事
9	26	三越大阪支店 床改修に伴う電気工事
10	1	日本発送電
10	1	宇治川電気
10	1	宇部発電所
10	1	長殿発電所
10	2	東京三井ビル2号館
10	2	東京三井ビル3号館
10	3	三越高松店
10	4	鐘紡備前
10	5	大和紡佐賀

箱	包み	包み名称	
10	5	大和紡金沢	
10	6	鐘紡山科	
10	6	鐘紡高槻	
10	6	鐘紡洲本	
10	7	錦華人絹広島	
11	1	高松赤十字病院	病棟新築工事
11	2	名古屋第二赤十字病院	病棟改築工事 電気設備工事
11	3	鐘紡	
11	3	鐘紡心齋橋売店	
11	4	錦華金沢	
11	5	錦華紡	設計図
11	6	錦華紡	設計図
11	7	錦華紡	設計図
11	8	鐘紡	各地工場
12	1	三信ビル	
12	2	三信ビル	○詳細
12	3	三信ビル	○詳細及構造計算
12	3	天王寺ステーションビル	

箱	包み	包み名称
12	4	天王寺ステーションビル
12	4	東洋機械
12	5	三信ビル 新築強度計算書 昭和3年10月
12	6	三信ビル No.3
12	7	三信ビル No.4
12	8	三信ビル 新築及改造工事(原図)
12	8	三信ビル 増築工事 竣工図 昭和30年2月
12	9	三信ビル 9/2追加
12	10	三信ビル 9/2追加
12	11	三信ビル 9/2追加
13	1	三井物産大阪支店 安治川出張所
13	1	三井物産京城支店
13	1	三井銀行大阪西支店
13	1	鐘紡淀川支店病院
13	2	三井物産大阪支店
13	2	三井物産小樽
13	2	三井工作機械
13	2	(三井物産)京城
13	2	三井合名
13	3	鐘紡岡山
13	3	(鐘紡)防府
13	3	(鐘紡)淀川 更生
13	3	絹糸
13	4	大阪三井(東綿) (東綿ビル・貸事務所)
13	5	三井精機工学
13	5	植川製作所
13	5	東洋石油
13	5	北海道炭鉱汽船株式会社
13	6	三信ビル
13	6	三亜工業
13	7	大和紡(錦華)

箱	包み	包み名称
13	8	日本絹布
13	8	東洋高圧
13	8	東洋機械

## 4.2

### 織本 匠

おりもと たくみ

1918年（大正7年）～2001年（平成13年）

武蔵野美術大学名誉教授



#### ・年表

1918年（大正7年）	山口県生まれ 旧姓・佐伯
1942年（昭和17年）	東京帝国大学工学部建築学科卒業
1956年（昭和31年）	織本匠構造設計研究所（現・織本構造設計）設立
1965年（昭和40年）	武蔵野美術大学建築学科教授
1986年（昭和61年）	武蔵野美術大学建築学科教授退職

#### ・主な構造設計作品

中央公論ビル(1959), 神奈川大学工学部研究室(1956), 番丁アパート(1957), 日航ホテル(1959), ホテル・熱海ガーデン(1961), 若松文化体育館(1962), 駒沢オリンピック公園体育館・管制塔(1964), 武蔵野美術大学アトリエ棟(1964), ソニービル(1966), モントリオール万博日本館(1967), 富士フィルム東京本社ビル(1969), 大阪万博オーストラリア館(1969), 在日クウェート大使館(1971), 第一勧業銀行本店(1981)

#### ・主な著作

織本匠[架構]構造のデザイン（1987）

#### 4.2.1 本年度調査の概要

織本匠氏の資料は（株）織本構造設計の事務所一角の倉庫に同氏の手掛けた図面・計算書類が棚4つ程に収められている。2019年11月に竹内徹委員が中澤昭伸代表に調査を依頼し、同社取締役設計部長 山口秋子氏が調査シートを作成、11月19日に送付いただいた。倉庫内の資料は膨大であり、短期間ですべてをリスト化することは困難であり、今年度は代表的な資料を抽出しての調査となっている。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	2-1	資料群名称	織本匠 資料（織本構造設計）				調査年月日	令和元年11月
								調査員	山口（竹内）
	1	所有者							
	2	管理者							
	3	資料所在地							
	4	管理責任者			連絡担当者				
	5	所有形態		寄贈	寄託	当初から所蔵	その他		
	6	資料の来歴							
	7	著作権保有者							
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)							
	9	資料作成年代							
	10	主な資料種別	図面（原図）	青焼き図面	スケッチ等	構造計算書	実験関係書類	工事関係書類	
模型			原稿	書籍・雑誌	書類ファイル	図面（第二原図）			
写真・動画			個人資料	マイクロフィルム					
図面デジタル			計算書デジタル	解析データ	実験データ				
その他（ ）									
	11	含まれる 主なプロジェクト							
	12	廃棄した資料							
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：					
			非公開	非公開の理由：会社内倉庫に保管中のため					
	14	展覧会の実績 展覧会名称：							
	15	出版物の制作							
	16	備考							
	17	調査結果公開の可否	可	✓	不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）			
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否				✓	可	不可	

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

--	--

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開項目	番号	2-2	資料群名称	織本匠 資料 (武蔵野美術大学)				調査年月日	令和元年12月26日		
							調査員	小西 泰孝			
	1	所有者	武蔵野美術大学 美術館・図書館								
	2	管理者	武蔵野美術大学 美術館・図書館								
	3	資料所在地	東京都小平市小川町1-736								
	4	管理責任者	氏名：赤塚祐二 役職：武蔵野美術大学 美術館・図書館長	連絡担当者			氏名：本岡耕平 役職：武蔵野美術大学 美術館・図書館 美術チーム員 TEL：042-42-6003 E-mail:motooka@musabi.ac.jp				
	5	所有形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寄贈	<input type="checkbox"/> 寄託	<input type="checkbox"/> 当初から所蔵	<input type="checkbox"/> その他					
	6	資料の来歴	芦原建築設計研究所に長く保管・管理された建築資料が、2013年に武蔵野美術大学美術館・図書館に寄贈され、造形研究センターデザインアーカイブ収蔵庫に保管されている。その中に織本匠の構造資料が多く含まれている。								
	7	著作権保有者	芦原建築設計研究所、武蔵野美術大学 美術館・図書館								
	8	資料概要 (総量・形態・管理方法)	総量：構造設計資料（構造計算書関連） 23,491点 他 形態：210mm×297mm (A4)、297mm×420mm (A3)、594mm×841mm (A1)、841mm×1189mm (A0) 内容：構造計算書、解析データ、実験報告書、仕様書、構造図など (原図、第二原図、青焼き、原本、複写、製本) 管理方法：武蔵野美術大学12号館地下2階造形研究センターデザインアーカイブ収蔵庫にて保管されている。 資料には登録番号8～11桁とその先頭に固有記号を付与している（例：A00100001001）。								
	9	資料作成年代	1956年～2001年								
	10	主な資料種別	<input checked="" type="checkbox"/> 図面（原図）	<input checked="" type="checkbox"/> 青焼き図面	<input checked="" type="checkbox"/> スケッチ等	<input checked="" type="checkbox"/> 構造計算書	<input checked="" type="checkbox"/> 実験関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 工事関係書類			
			<input type="checkbox"/> 模型	<input type="checkbox"/> 原稿	<input checked="" type="checkbox"/> 書籍・雑誌	<input checked="" type="checkbox"/> 書類ファイル					
			<input type="checkbox"/> 写真・動画	<input type="checkbox"/> 個人資料	<input checked="" type="checkbox"/> マイクロフィルム						
			<input checked="" type="checkbox"/> 図面デジタル	<input checked="" type="checkbox"/> 計算書デジタル	<input checked="" type="checkbox"/> 解析データ	<input checked="" type="checkbox"/> 実験データ					
			その他（ ）								
	11	含まれる 主なプロジェクト	中央公輪ビル、ソニービル、モントリオール万国博日本館、武蔵野美術大学アトリエ棟、富士フィルム東京本社ビル、駒沢公園体育館など								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	<input type="checkbox"/> 公開	主な公開資料：							
			<input checked="" type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由：							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：芦原義信 建築アーカイブ展（2017年5月22日～8月13日）								
	15	出版物の制作	展覧会図録：芦原義信 建築アーカイブ展（武蔵野美術大学 図書館・美術館出版）								
	16	備考									
	17	調査結果公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）						
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可							

# 近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

## 【調査概要】

### 1) はじめに

織本匠は、1956年に織本匠構造設計研究所（現、織本構造設計）を設立し、構造設計実務を行うと共に、1964年に創設された武蔵野美術大学造形学部産業デザイン学科建築学専攻（65年より建築学科）の教授として着任し、退任する1986年まで22年間、在籍した。構造設計実務者が、日々の構造設計活動を維持しながら、大学の専任教員として実践的構造教育を行った事例は、当時は非常に少なかったと考えられる。任期中は、構造力学に関連する専門科目の他、建築設計演習の指導、卒業制作・卒業研究のゼミ生の指導など、構造のみに止まらず幅広い建築教育を行った。また、大学キャンパス（東京都小平市）は、学科創設時の主任教授であった建築家・芦原義信がマスタープランを作り、多くの校舎を設計しており、その構造設計は織本匠が担当している。

これらの経緯より、武蔵野美術大学には、織本匠の構造資料が多く保管されていると考えられるため、調査を行った。

### 2) 武蔵野美術大学造形学部建築学科における構造資料の所在について

当該学科は、各専任教員が1名で独立したスタジオ（研究室）を形成している。そのため、退任時は、スタジオの継承はなく、完全な入れ替えで新任教員が新たにスタジオを設置する。織本匠教授においても、退任時にスタジオは継承されておらず、退任後、33年経った現在、建築学科には構造資料はほとんど存在しない。但し、退任時に、以下の書籍が発行されており、当時の主要な構造設計作品や大学での教育活動についてまとめられている（資料写真貼付）。

タイトル： 架構 構造のデザイン

著者： 織本 匠、武蔵野美術大学建築学科研究室、武蔵野美術大学出版編集室 編

出版社： 武蔵野美術大学

出版年月： 1987年12月

発売： ムサシノ出版

### 3) 「芦原義信建築資料」における構造資料の所在について

学科創設時の主任教授であった芦原義信の建築資料が、2013年に芦原建築研究所から武蔵野美術大学美術館に寄贈された。その資料の総数は約20万点におよぶ。これらの資料をもとに武蔵野美術大学造形研究センターによる研究プロジェクト「近現代建築空間および生活デザインの高度なデジタル・アーカイブ化と生活文化空間の総合的研究」によって、建築図面のデジタル化やデータベース化が進められている。

芦原義信の建築作品の多くを、織本匠が構造設計を担当しており、寄贈された建築資料には、多くの構造図や構造計算書が含まれていることを確認した。芦原義信建築アーカイブ展（2017年5月22日～8月13日）の図録から織本匠構造設計研究所（現、織本構造設計）が構造設計を担当した作品をピックアップしたところ（参考資料：「織本構造設計50周年の歩み」「織本構造設計60周年記念」「架構 構造のデザイン」）、合計22作品の構造資料が保管されていることが分かった。資料は、構造計算書、解析データ、実験報告書、仕様書などの資料23,491点の他、構造図が含まれている。形式は、原図、第二原図、青焼き、原本、複写、製本など、さまざまである。構造模型は含まれていない。各資料には、8～11桁の登録番号が与えられ、管理されている。

その中から代表的な6作品について、2019年12月26日に造形研究センターデザインアーカイブ収蔵庫において、目視による資料確認を行った（資料写真貼付）。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【保管作品一覧】

番号	作品名	点数（構造計算書）	資料写真添付
1	中央公輪ビルディング	264	○
2	ホテル日航（銀座日航ホテル）	615	×
3	横浜市立市民病院	2222	×
4	八代市厚生会館	467	×
5	香川県立図書館	43	×
6	駒沢公園体育館・駒沢公園管制塔	1370・219	○
7	ソニービル	730	○
8	武蔵野美術大学アトリエ棟	73	○
9	武蔵野美術大学デザイン棟（7号館）	2056	×
10	武蔵野美術大学美術資料図書館	480	×
11	武蔵野美術大学学生ホール（鷹の台ホールA棟）	485	×
12	武蔵野美術大学本館	37	×
13	武蔵野美術大学体育館	788	×
14	モントリオール万国博日本館	409	○
15	富士フィルム東京本社ビル	1438	○
16	大阪万博オーストラリア館	379	×
17	大阪IBMビル	604	×
18	国立歴史民俗博物館	1903	×
19	第一勧業銀行本店（みずほ銀行内幸町本部ビル）	4865	×
20	北澤美術館	87	×
21	東京芸術劇場	2624	×
22	石川県立音楽堂	1333	×

保管作品一覧は、武蔵野美術大学美術館・図書館の建築アーカイブの順に番号を付与している。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【保管状況】



原図



原図



原図



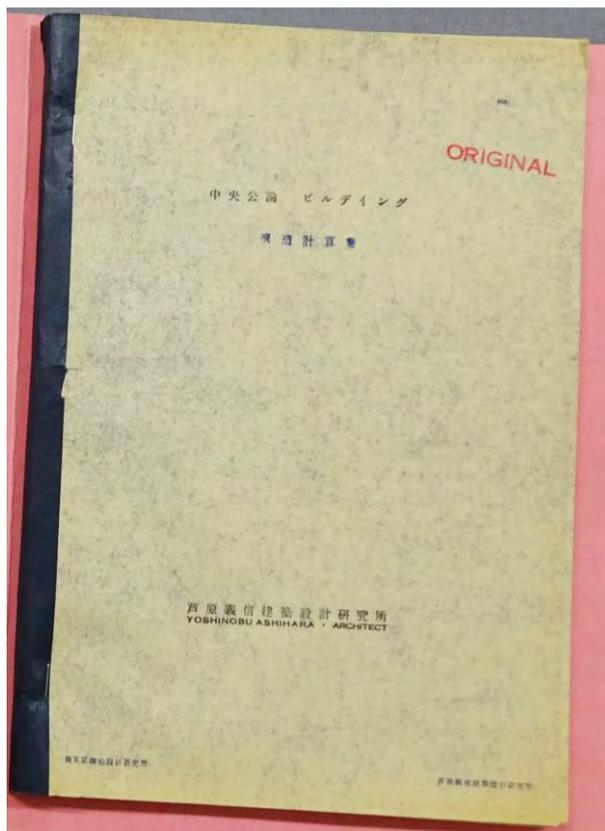
構造計算書



図面製本

状況確認： 小西泰孝（武蔵野美術大学教授） 2019年12月26日 造形研究センターデザインアーカイブ収蔵庫

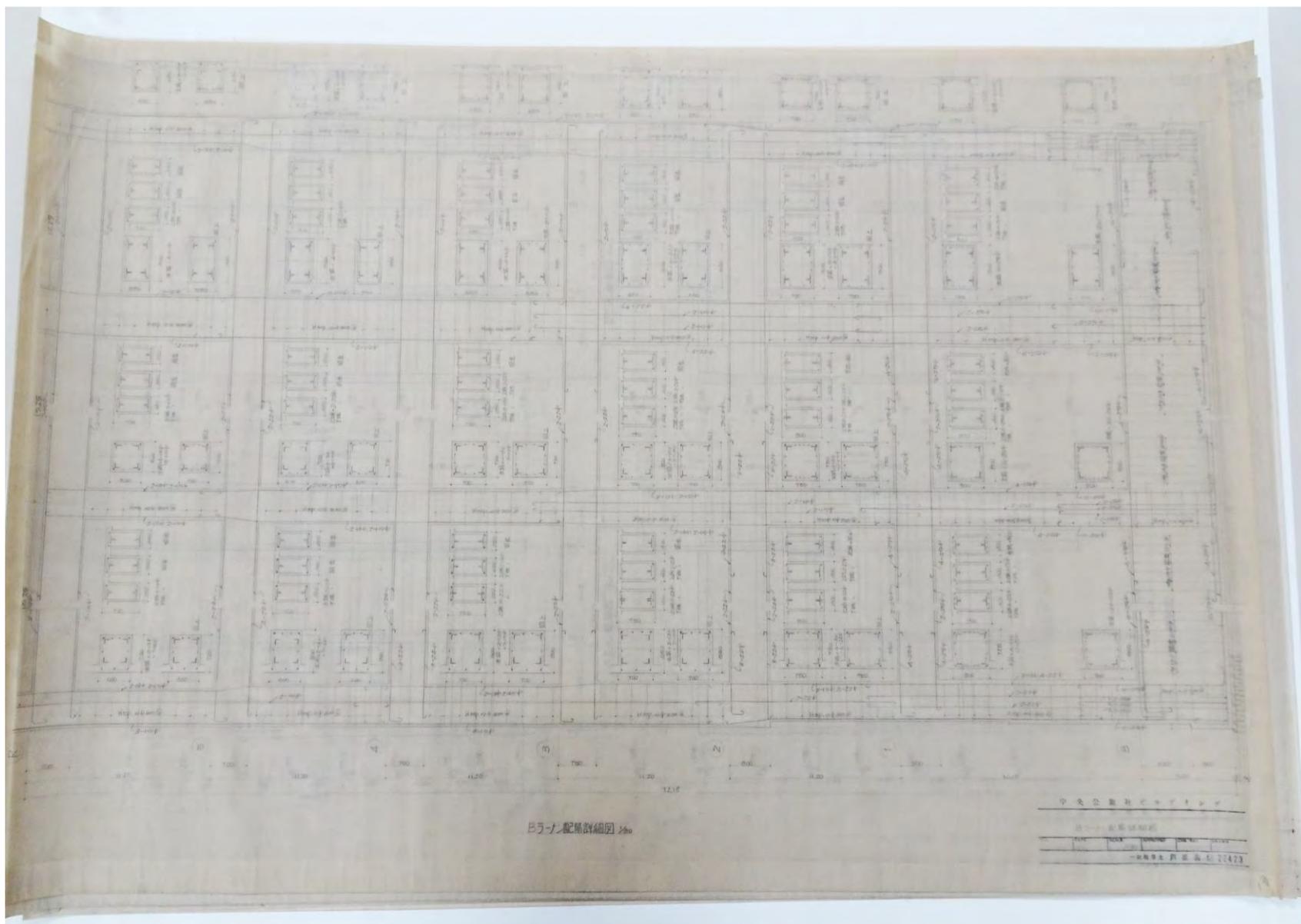
【資料写真】 〈中央公論ビルディング〉



構造計算書 (複写A4)



強度計算書 (原本A4)



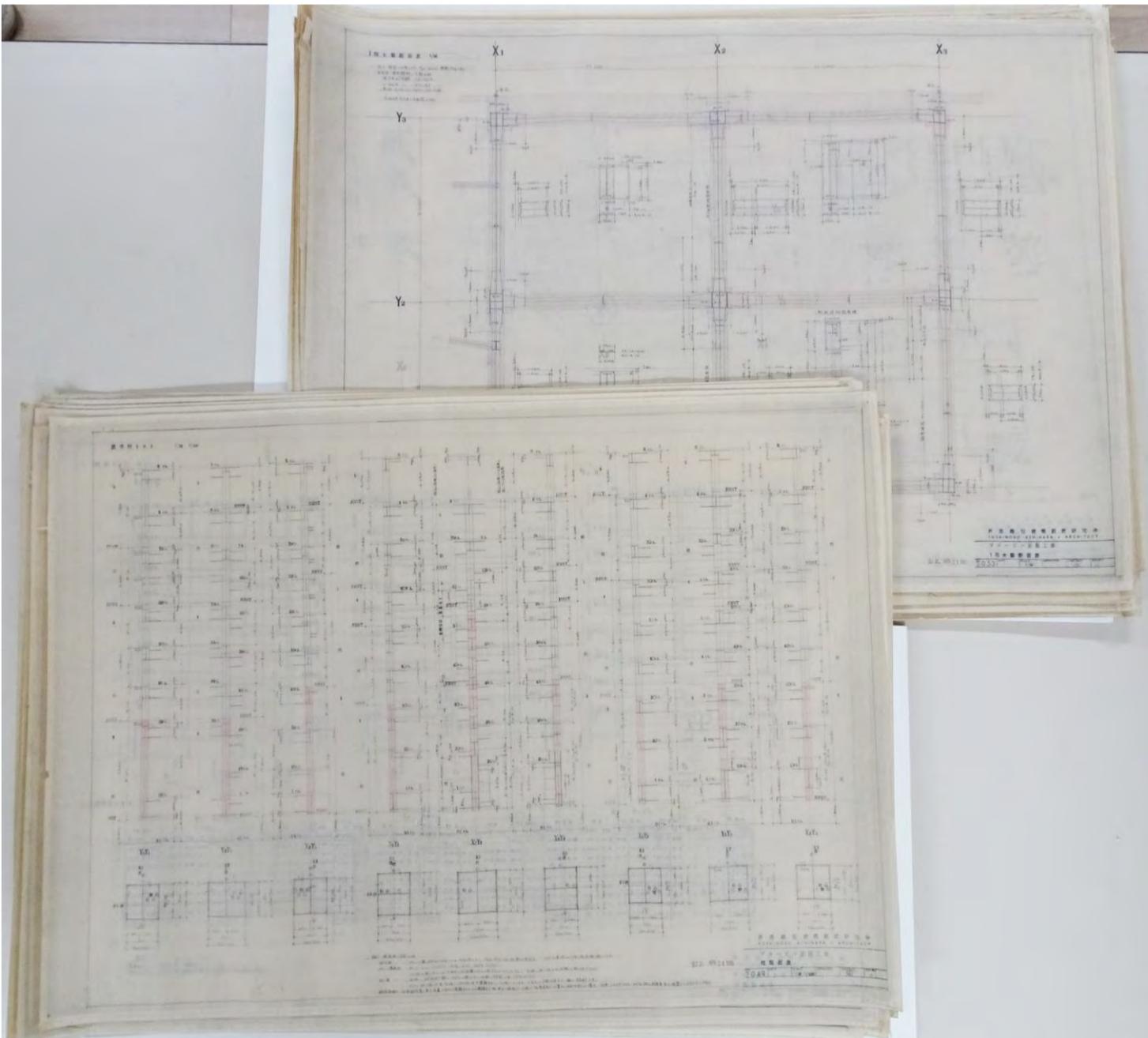
構造図 (原図A1)

【資料写真】

〈ソニービル〉

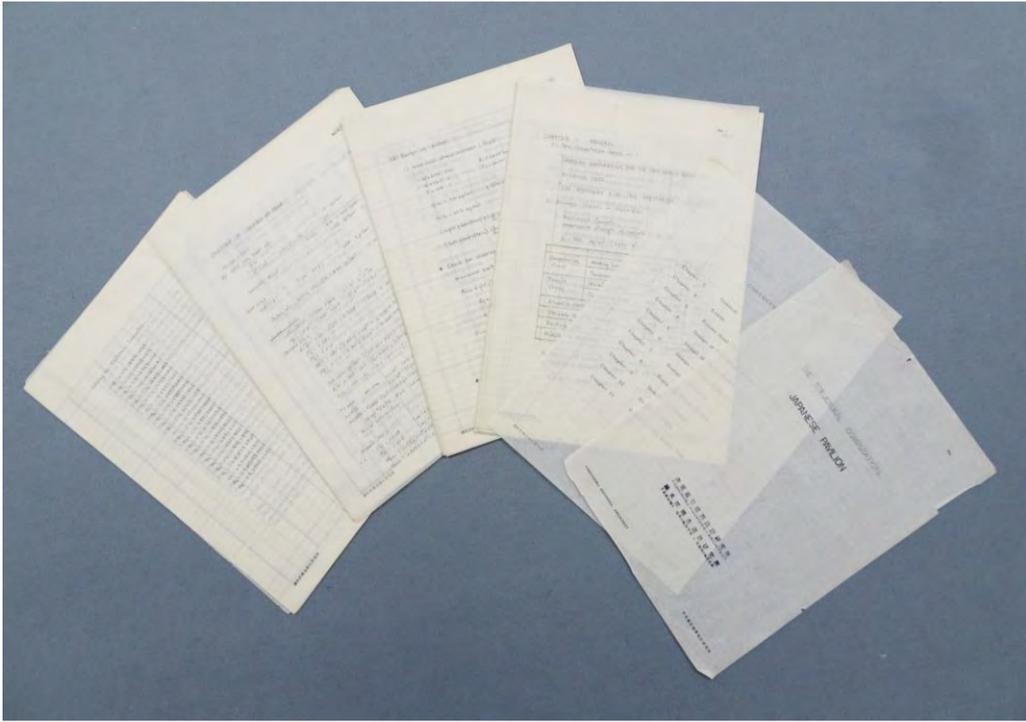


構造計算書（原本、複写A4）

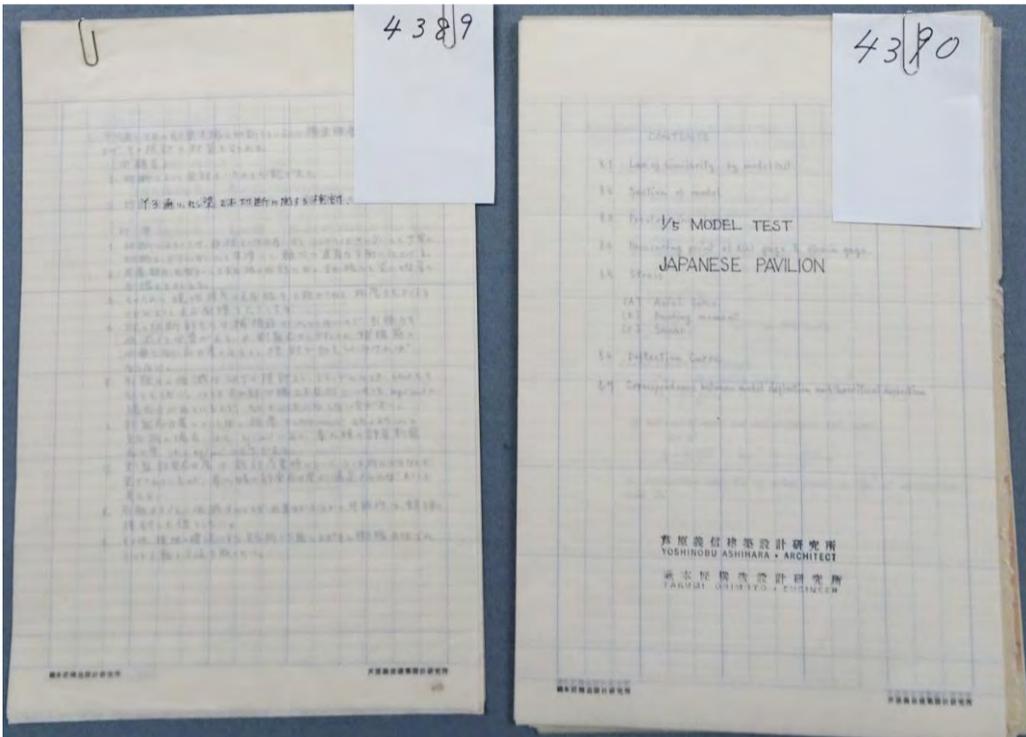


構造図（原図A1）

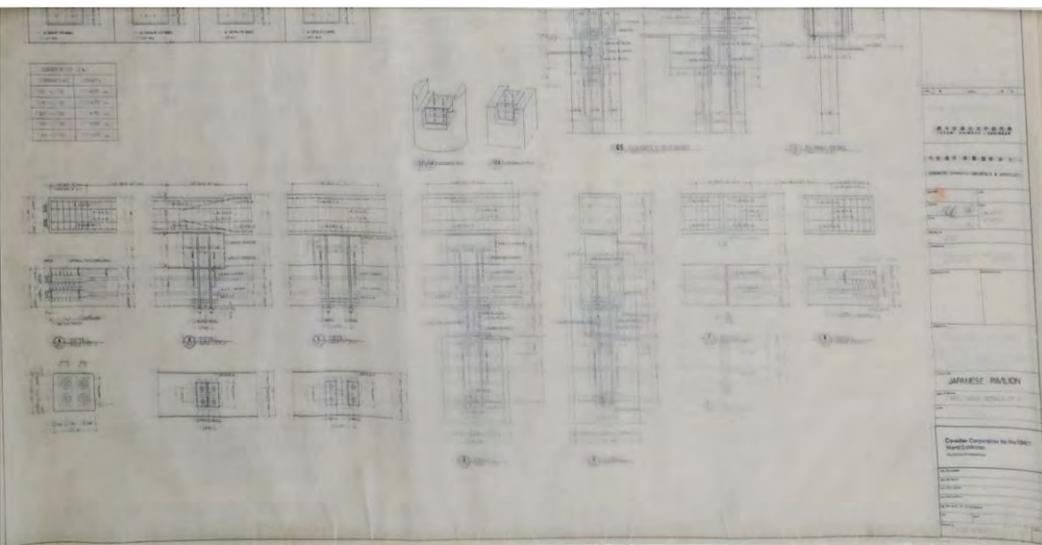
【資料写真】 <モントリオール万国博日本館>



構造計算書 (原本A4)



構造計算書 (原本A4)



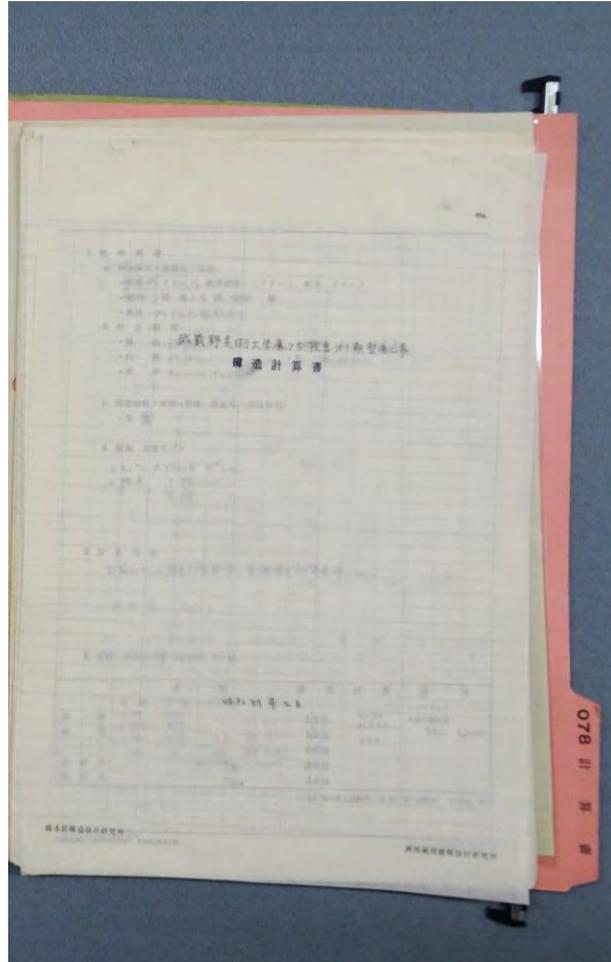
構造図 (原図A1)

date	revision	no
織本匠構造設計研究所 TAKUMI ORIMOTO ENGINEER		
芦原義信建築設計研究所 YOSHINOBU ASHIHARA ARCHITECT & ASSOCIATES		
approved	date	
checked	scale	
drawn	3/4" = 1'-0"	
	1" = 1'-0"	
drawing no. 210		
consultants		
professional seal		
project title		
JAPANESE PAVILION		
name of drawing		
WALL BEAM DETAILS N° 2		
trade		
Canadian Corporation for the 1967 World Exhibition Department of Installations		
app. fire marshal		
app. user branch		
app. chief engineer		
app. chief architect		
app. for const. dir. of installations		
date	scale	revision
drawing no. 3-4-3-210		

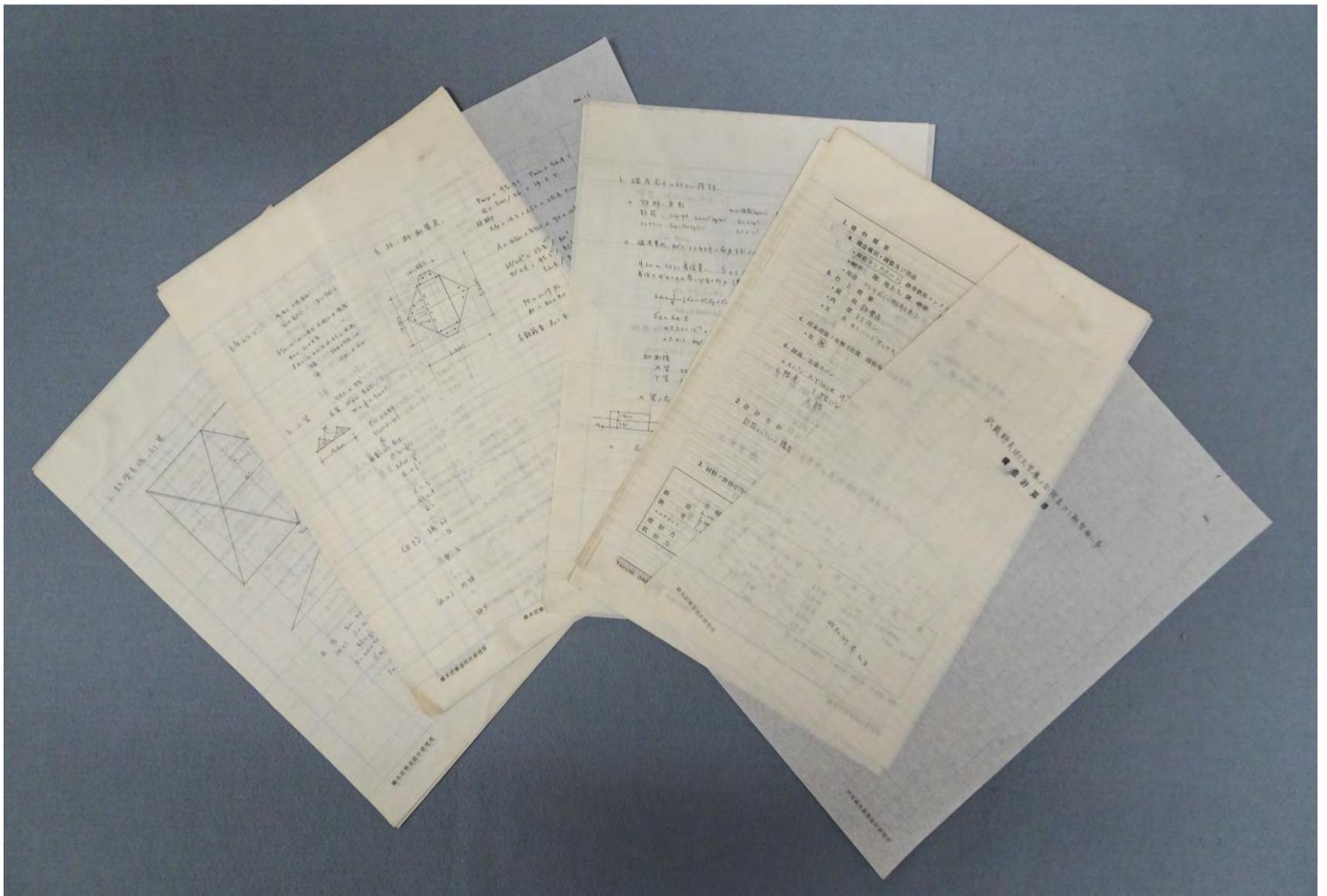
表題欄

【資料写真】

〈武蔵野美術大学アトリエ棟〉



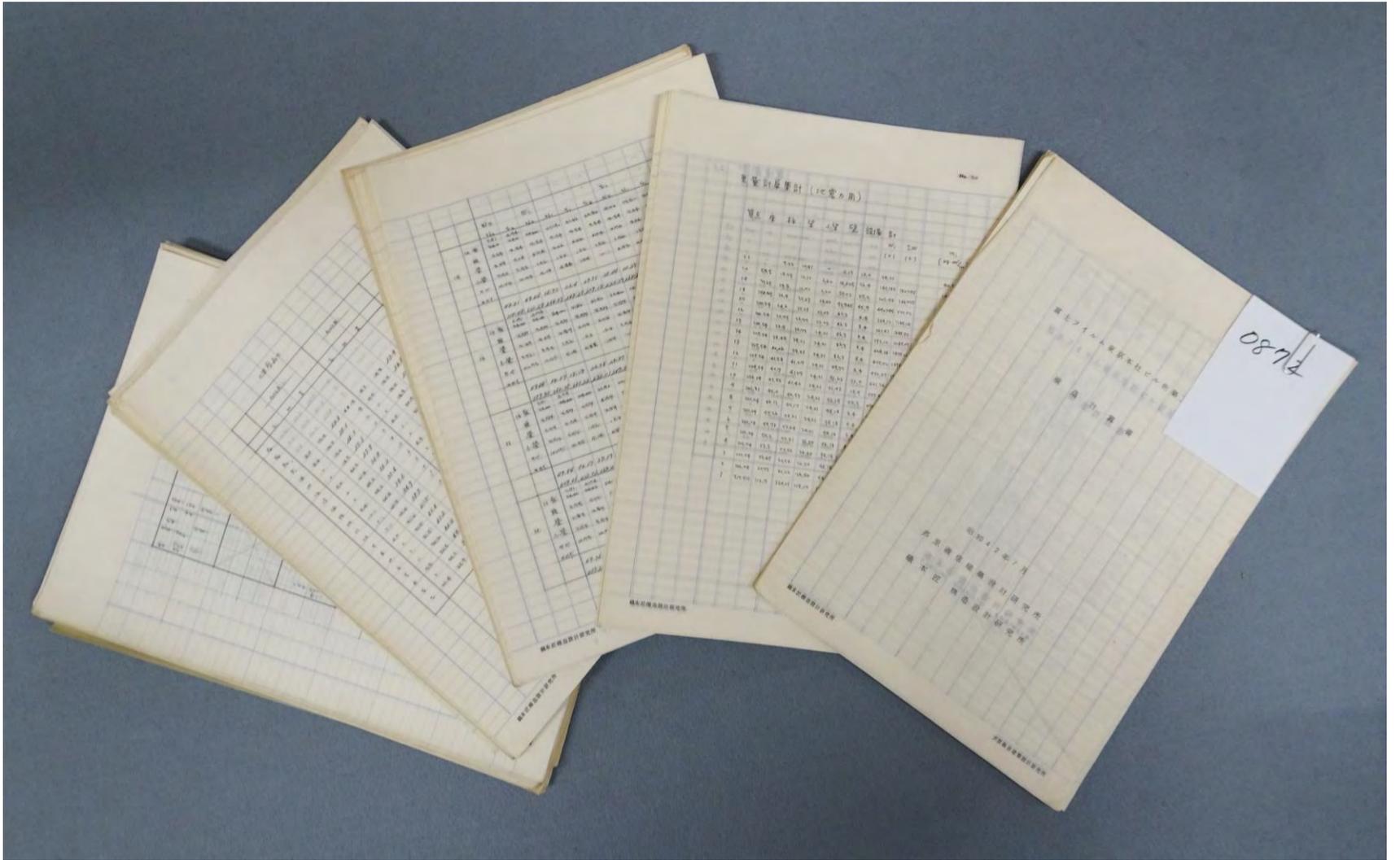
構造計算書（原本A4）



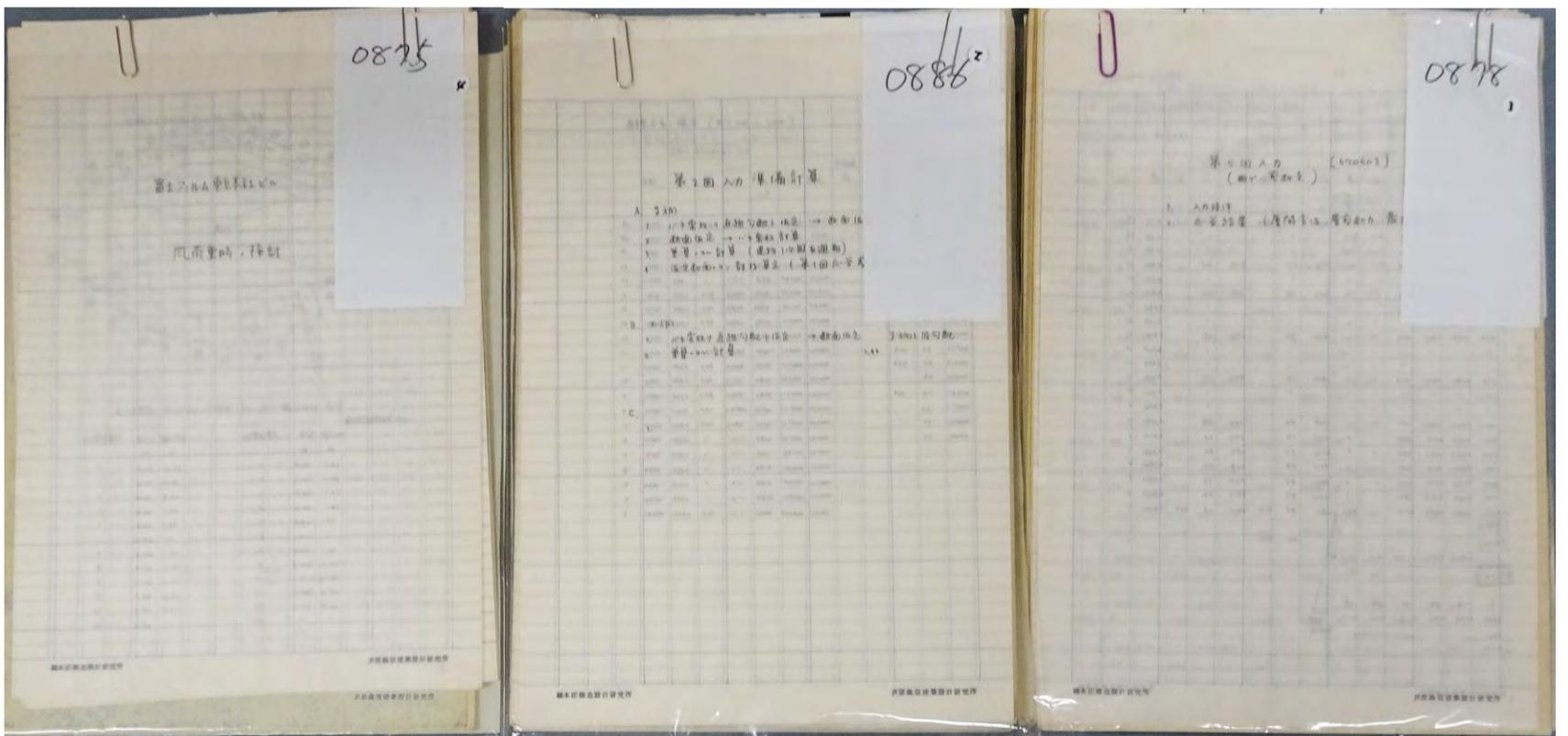
構造計算書（原本A4）

【資料写真】

〈富士フィルム東京本社ビル〉



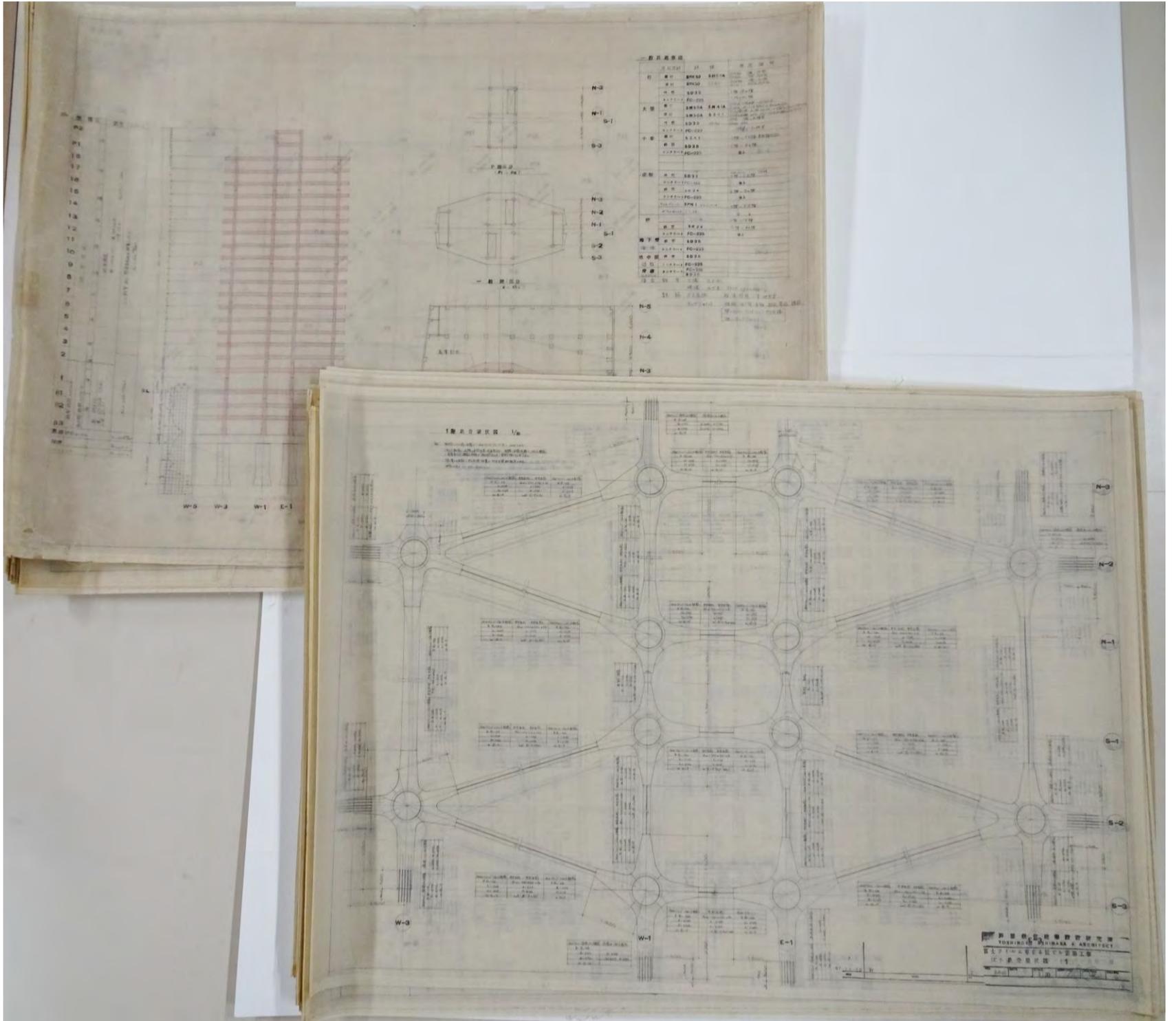
構造計算書（原本A4）



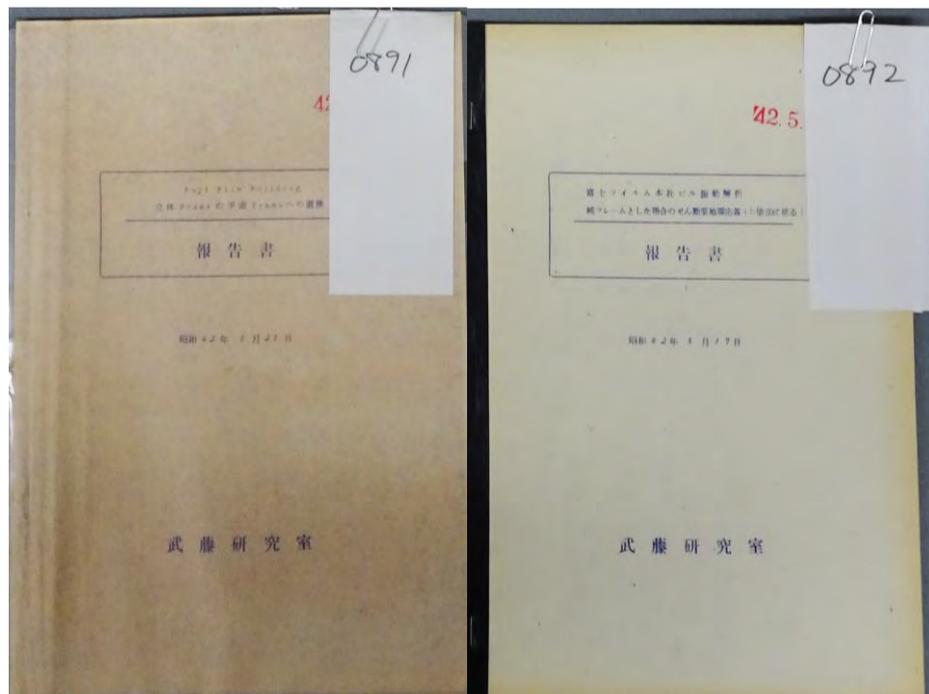
構造計算書（原本A4）

【資料写真】

〈富士フィルム東京本社ビル〉



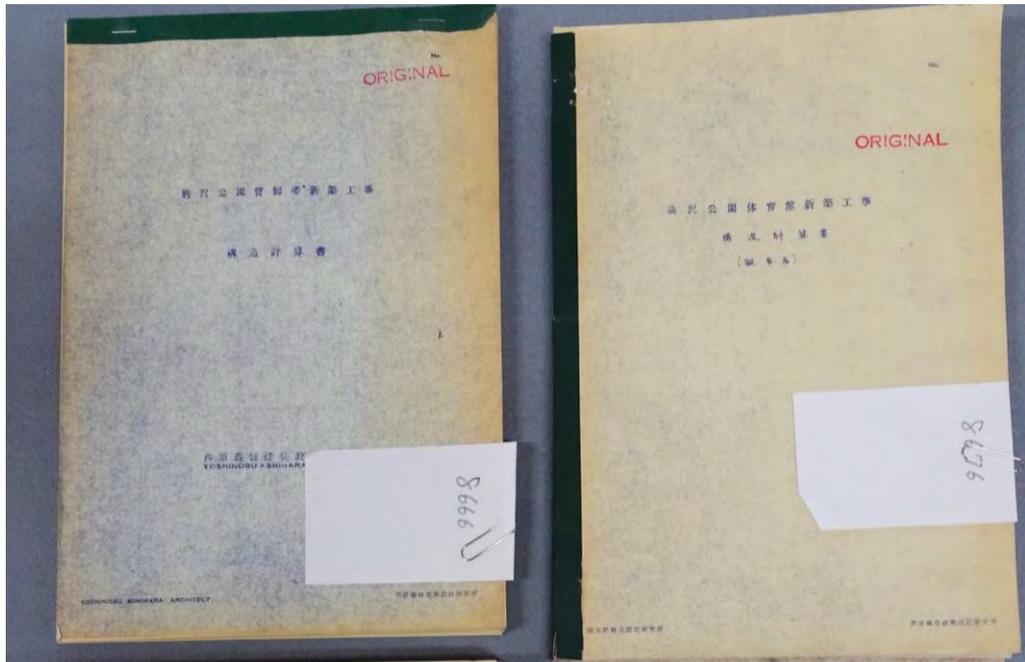
構造図（原図A1）



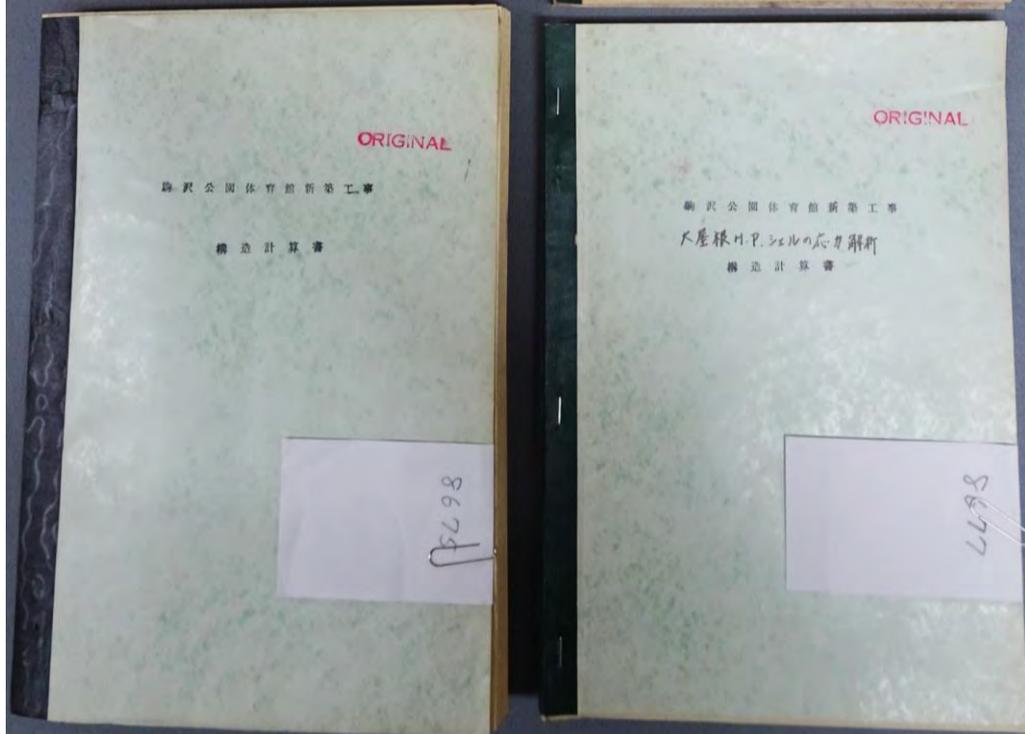
解析報告書（製本A4）

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

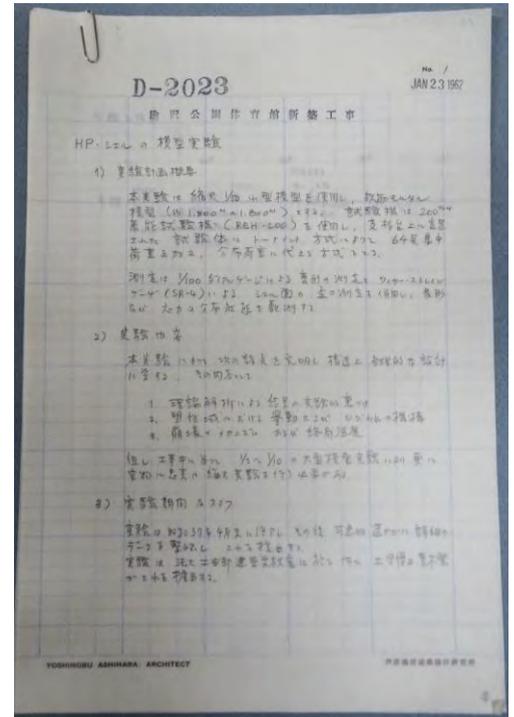
【資料写真】 〈駒沢公園体育館〉



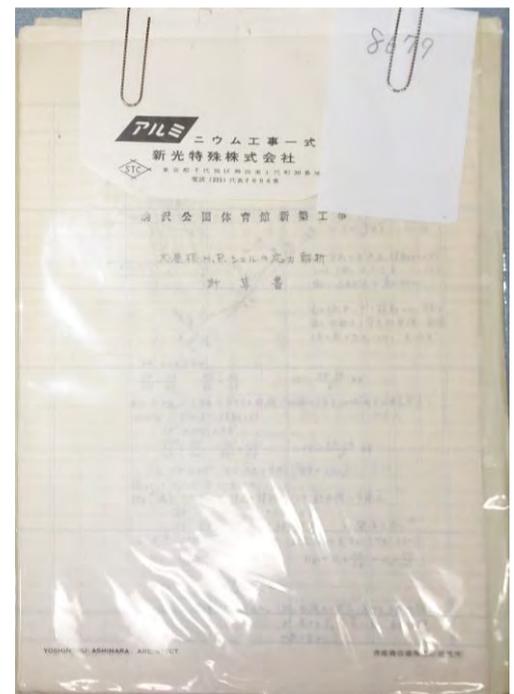
構造計算書 (複写A4)



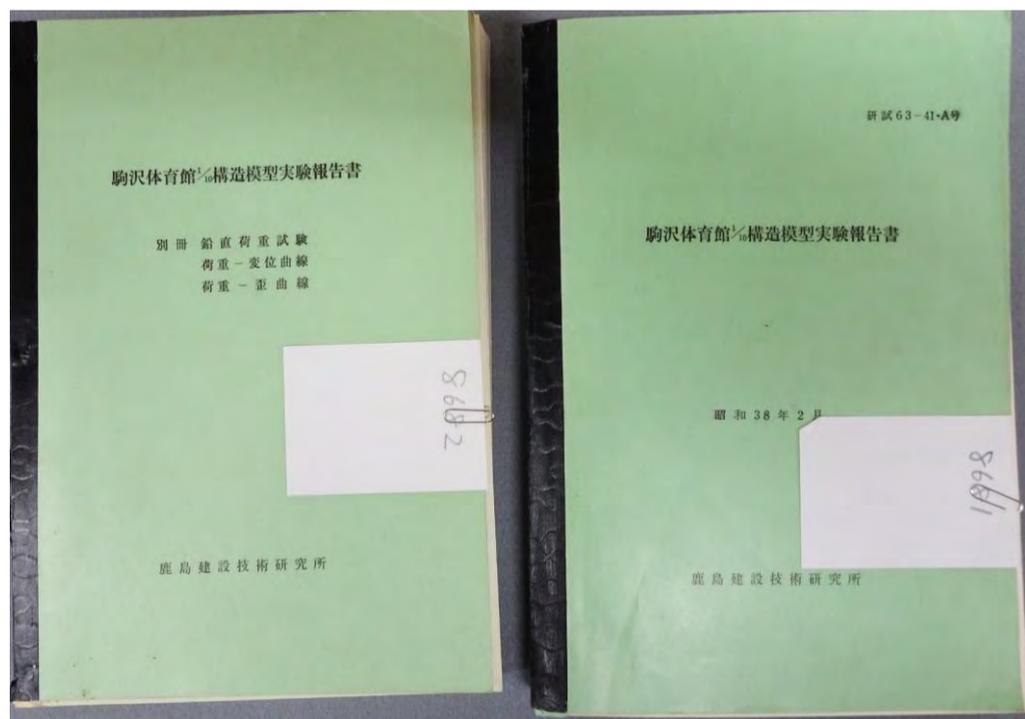
構造計算書 (複写A4)



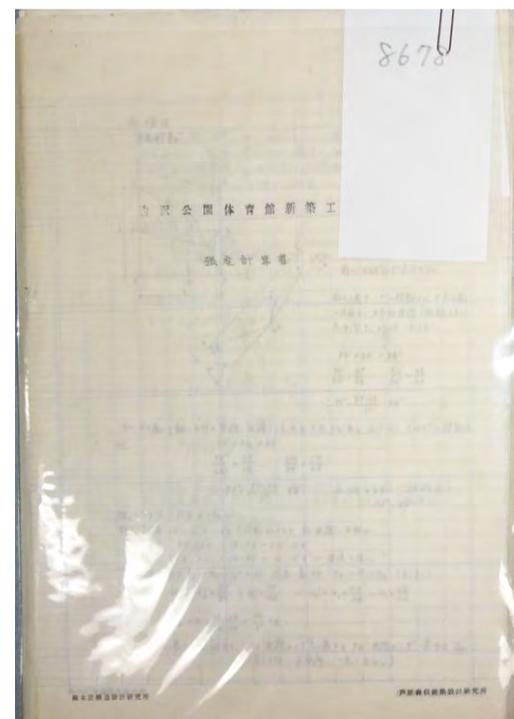
実験資料 (原本A4)



構造計算書 (原本A4)

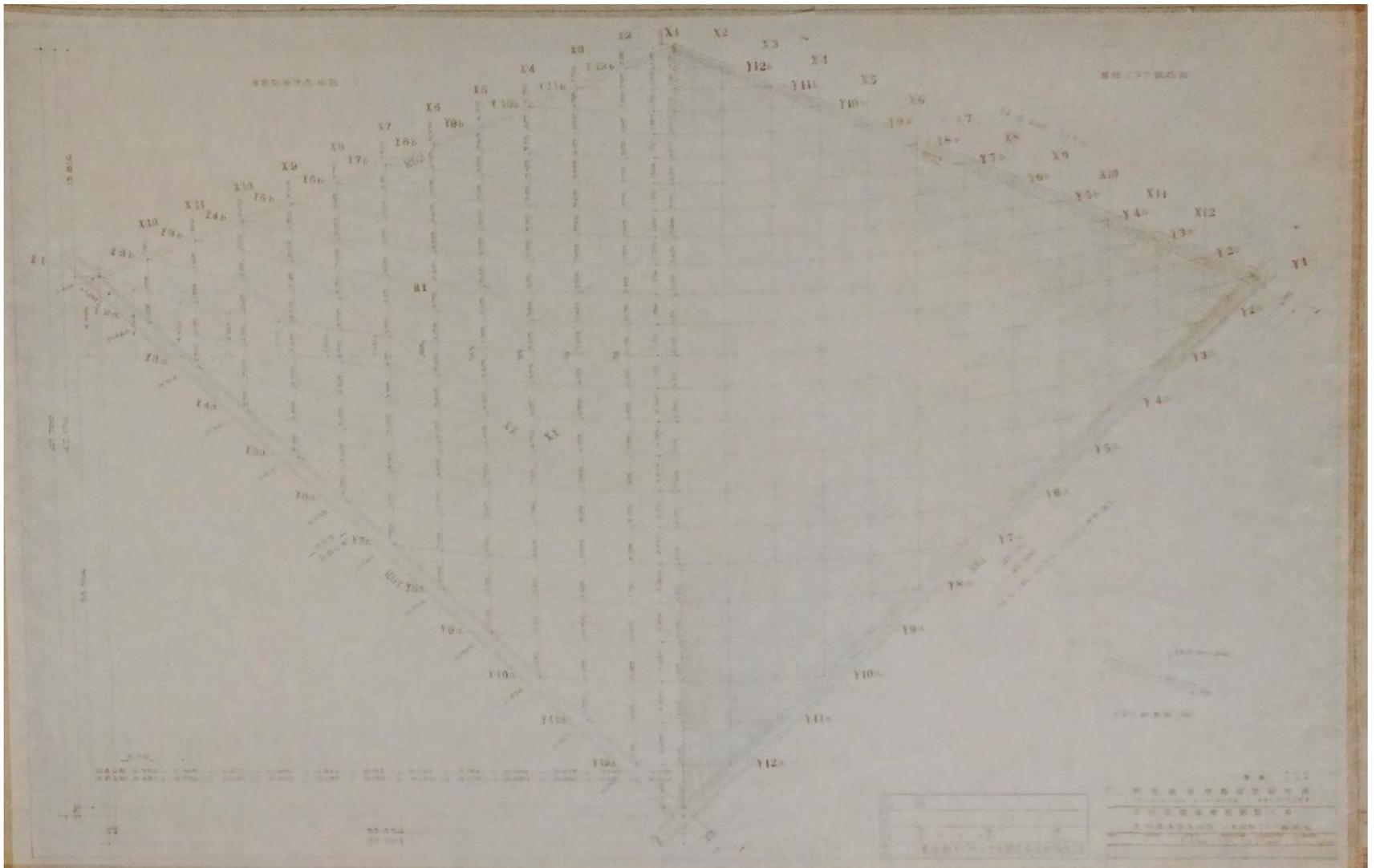


実験報告書 (製本A4)

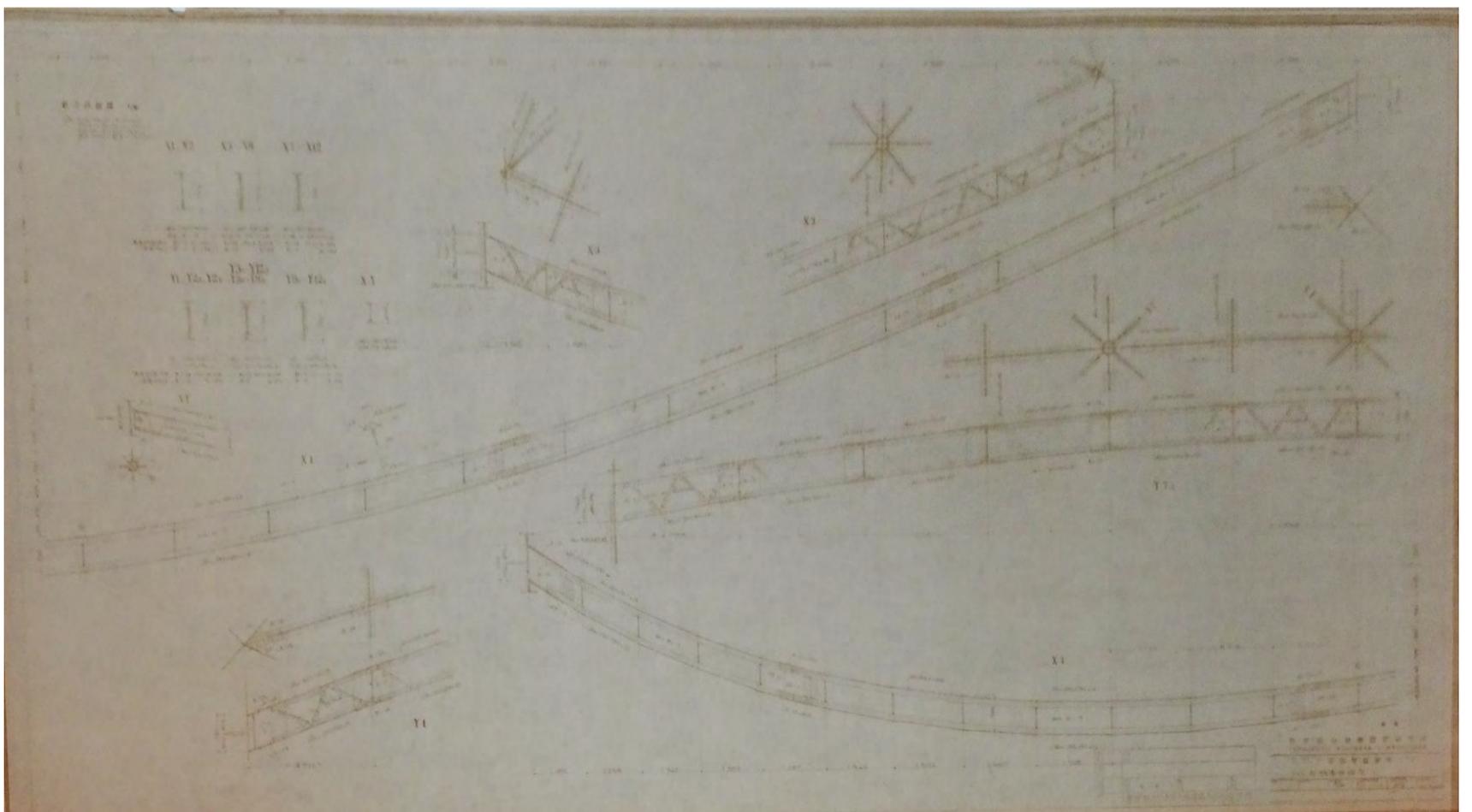


強度計算書 (原本A4)

【資料写真】 〈駒沢公園体育館〉



構造図 (第二原図A0)

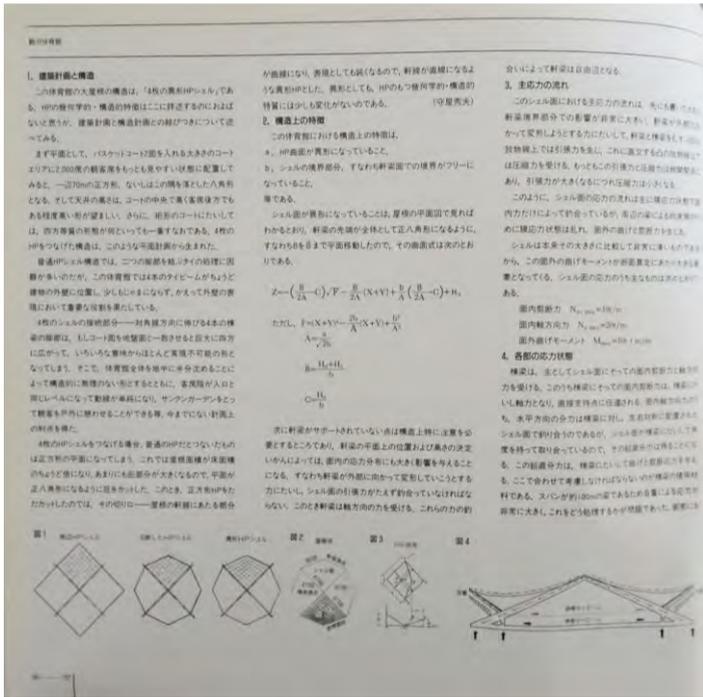


構造図 (第二原図)

【資料写真】 〈織本匠 架構 構造のデザイン〉 1987年12月発行



タイトル



駒沢公園体育館



ゼミ活動状況

構造家の立場から：織本匠 3  
 架構理論：織本匠 4

1—作品 13  
 中央公論ビル 14  
 神奈川大学工学部研究室 16  
 朝鮮大学校 18  
 番町アパート 20  
 日航ホテル 23  
 ホテル・熱海ガーデン 26  
 若松文化体育館 28  
 ホテル新潟／ホテル大佐渡 30  
 駒沢体育館・管制塔 32  
 武蔵野美術大学アリエ棟 38  
 ソニービル 40  
 東京山手教会 42  
 モントリオール万国博日本館 44  
 富士フイルム東京本社ビル 47  
 大阪万博オーストラリア館 49  
 日本オリベッティー中央倉庫 50  
 石川厚生年金会館 51  
 第一勧業銀行本店 52  
 織本事務所の構造設計：山本和夫 56

2—塔 61  
 木造そして塔について：織本匠 62  
 織本匠の見た塔 78  
 斗拱の模型製作記録：山田保司 85

3—旅の中から 81  
 学校 85  
 住宅 87  
 庁舎など 90  
 教会 94  
 工場・倉庫など 97  
 駅 100  
 銀行 103  
 刑務所など 106

4—大学にて 109  
 学生とともに 110

織本さんと私：芦原義信 125  
 あの頃、この頃、私事雑感：寺田秀夫 128  
 織本さんとの出会い：三輪正弘 129

構造のデザイン—編集後記にかえて：保坂陽一郎 137  
 作品年表：村上一郎

目次

作品年表

作品名	年	担当
駒沢公園体育館	1987	構造設計
中央公論ビル	1988	構造設計
神奈川大学工学部研究室	1988	構造設計
朝鮮大学校	1988	構造設計
番町アパート	1988	構造設計
日航ホテル	1988	構造設計
ホテル・熱海ガーデン	1988	構造設計
若松文化体育館	1988	構造設計
ホテル新潟／ホテル大佐渡	1988	構造設計
駒沢体育館・管制塔	1988	構造設計
武蔵野美術大学アリエ棟	1988	構造設計
ソニービル	1988	構造設計
東京山手教会	1988	構造設計
モントリオール万国博日本館	1988	構造設計
富士フイルム東京本社ビル	1988	構造設計
大阪万博オーストラリア館	1988	構造設計
日本オリベッティー中央倉庫	1988	構造設計
石川厚生年金会館	1988	構造設計
第一勧業銀行本店	1988	構造設計
織本事務所の構造設計	1988	構造設計
2—塔	1988	構造設計
3—旅の中から	1988	構造設計
4—大学にて	1988	構造設計
織本さんと私	1988	構造設計
あの頃、この頃、私事雑感	1988	構造設計
織本さんとの出会い	1988	構造設計
構造のデザイン—編集後記にかえて	1988	構造設計
作品年表	1988	構造設計

作品年表

### 4.3

## 平田 定男

ひらた さだお

1919年（大正8年）～2003年（平成15年）



株式会社平田建築構造研究所の創設者（元代表取締役）。昭和28年に平田建築設計事務所を設立（同32年に(株)平田建築構造研究所に改組）し、竹腰健造、坂倉準三、浦辺鎮太郎、渡辺節、村野藤吾らの関西圏・西日本エリアにおける仕事を数多く手掛ける。また自治体発注の高層住宅や校舎・庁舎等も手掛け、ゼネコンとは異なる立場で高度成長期の関西建築界を広く支えた。関西における構造専門事務所のパイオニア。大阪万国博覧会においては、お祭り広場大屋根に関し、坪井善勝・川口衛らの構造チームにも加わり、大屋根下のデッキ部分のチーフとして参画し、坪井・川口や施工者らと共に日本建築学会特別賞を受賞している。

平田事務所OBには、馬瀬芳知（馬瀬構造設計事務所）や谷尾俊弘（イオリ建築設計事務所）など大阪で50年以上続く構造専門事務所の創設者が名を連ねる他、住吉の長屋など安藤忠雄の初期作品の多くを担当したアスコラル構造研究所の村沢藤四男・外村静夫や、渡辺豊和の秋田市立体育館や龍神村民体育館などを担当した川崎建築構造研究所の川崎福則など、ポストモダン～バブル期の関西の建築家を支えた構造家を弟子として輩出している。川崎福則の門下には日本構造デザイン賞受賞者の清貞信一や梶田洋子がいる。

最晩年には、我が国の近代建築の発展期における構造の役割を知る上で貴重な資料となる『我国の建築構造略史』を記した。

#### ・年表

1919年（大正8年）	高知県中村市生まれ
1942年（昭和17年）	京都帝国大学工学部建築学科卒業
1942年（昭和17年）	株式会社鴻池組入社
1953年（昭和28年）	平田建築設計事務所を設立（1957年（株）平田建築構造研究所に改組）
1970年（昭和45年）	日本建築学会日本万国博特別賞
1982年（昭和57年）	大阪府知事賞
1987年（昭和62年）	建設大臣賞
1992年（平成4年）	勲五等 瑞宝章
2003年（平成15年）	逝去

#### ・主な構造設計作品

南海会館（1958）、枚岡市庁舎（1963）、箕面観光ホテル（1966）、芦屋市民ホール（1968）、日本万国博基幹施設大屋根（1970）、日本万国博迎賓館（1970）、倉敷市庁舎（1978）

#### ・主な著作

草創の記（1988）、我国の建築構造略史～私の構造歴60年と共に～（2002）

#### 4.3.1 本年度調査の概要

(株)平田建築構造研究所は、大阪市北区にて現在も存続しており、現在は平田氏の弟子の一人である西村清志氏が代表取締役を務めている。2019年12月17日に満田衛資委員が同社を訪問し、西村氏にヒアリングを行い、関連書類の確認と写真撮影を行った。平田氏が関わった構造設計図や計算書・スケッチの類は残念ながらほぼ全て廃棄されているとのことで確認することはできなかったが、大阪万国博お祭り広場大屋根の施工記録の写真が多数残されていた。残された設計資料こそ少なかったが、平田氏にはその時代を生きた者にこそ記すことのできた著書（『草創の記』『我国の建築構造略史』）があり、同社にはその著書が保管されていた。今回の調査ではそれらについて西村氏から概要を伺うことができた。パイオニアとして後世に伝えるべき記録や平田氏の思想はそれら著書の中に色濃く遺されていた。

また、2020年2月18日に西村氏より平田氏が描いた絵画が現存していたとの連絡を受け、写真撮影されたデータを同20日に満田委員宛てに送付していただいた。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	3-1	資料群名称	平田定男資料				調査年月日	令和1年12月17日	
								調査員	満田衛資	
	1	所有者	株式会社平田建築構造研究所							
	2	管理者	同 代表取締役 西村清志							
	3	資料所在地	大阪市北区堂島2丁目2-23 平田建築構造研究所							
	4	管理責任者	氏名： 西村清志 役職： 代表取締役	連絡担当者		氏名： 同左 役職： 同左 TEL：06-6341-4137 E-mail: hse@hirata-kozo.co.jp				
	5	所有形態	<input type="checkbox"/> 寄贈	<input type="checkbox"/> 寄託	<input checked="" type="checkbox"/>	当初から所蔵	<input type="checkbox"/> その他			
	6	資料の来歴								
	7	著作権保有者								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	平田の著作(自費出版)2冊:「草創の記」、「我国の建築構造略史—私の構造歴60年と共に—」 アルバム:万国博お祭り広場大屋根の施工記録(建築学会賞応募時資料、施工者作成) 平田自筆の絵画(油彩)3点							
	9	資料作成年代								
	10	主な資料種別	<input type="checkbox"/> 図面(原図)	<input type="checkbox"/> 青焼き図面	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> スケッチ等	<input type="checkbox"/> 構造計算書	<input type="checkbox"/> 実験関係書類	<input type="checkbox"/> 工事関係書類	
<input type="checkbox"/> 模型			<input type="checkbox"/> 原稿	<input checked="" type="checkbox"/>	書籍・雑誌	<input type="checkbox"/> 書類ファイル				
<input checked="" type="checkbox"/> 写真・動画			<input type="checkbox"/> 個人資料	<input type="checkbox"/>	マイクロフィルム					
<input type="checkbox"/> 図面デジタル			<input type="checkbox"/> 計算書デジタル	<input type="checkbox"/>	解析データ	<input type="checkbox"/> 実験データ				
<input checked="" type="checkbox"/> その他(			絵画(油彩)3点						)	
	11	含まれる 主なプロジェクト	万国博覧会お祭り広場大屋根							
	12	廃棄した資料	図面、計算書類は全て破棄							
	13	公開の状況	<input type="checkbox"/> 公開	主な公開資料:						
<input checked="" type="checkbox"/>			非公開	非公開の理由:						
	14	展覧会の実績	展覧会名称:							
	15	出版物の制作	「草創の記(昭和62年)」、「我国の建築構造略史—私の構造歴60年と共に—(平成14年)」							
	16	備考	図面や計算書類は残念ながらそのほとんどが破棄されていたが、2冊の著書に資料としての価値が認められる。「我国の建築構造略史」の第1編は、明治期から終戦までを4期に分け、それぞれの時代における事例の他、学者の業績や東大・京大・早大・東工大など主要大学のカリキュラムにまで調査の及んだ貴重な構造史資料となっている。「草創の記」は、平田自身の交流に基づく随想が中心ではあるが、描かれている人々が著名な建築家や坂静雄や棚橋諒といった構造学者でもあり、戦後から高度成長期における構造設計者の感性でとらえた時代背景が生々しく記されている貴重な資料と言える。							
	17	調査結果公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	部分的に可(公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック)				
	18	(17が「不可」の場合)外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可					

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

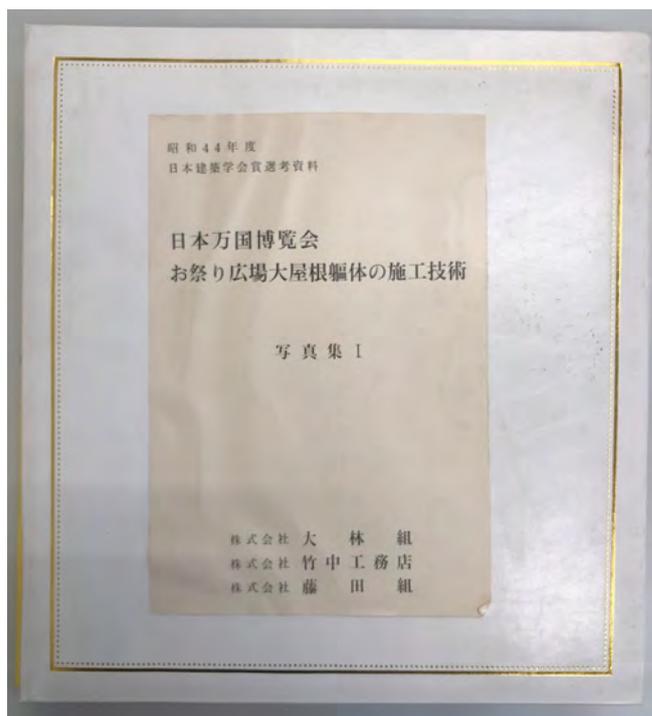


資料一式

上段；左) 万国博覧会図集、中央) 草創の記、右) 我国の建築構造略史

下段；左) 日本万国博覧会お祭り広場大屋根軀体の施工技術写真集1、右) 同写真集2

【見取り図・写真】



30. 大屋根主柱の柱脚ピン下半分



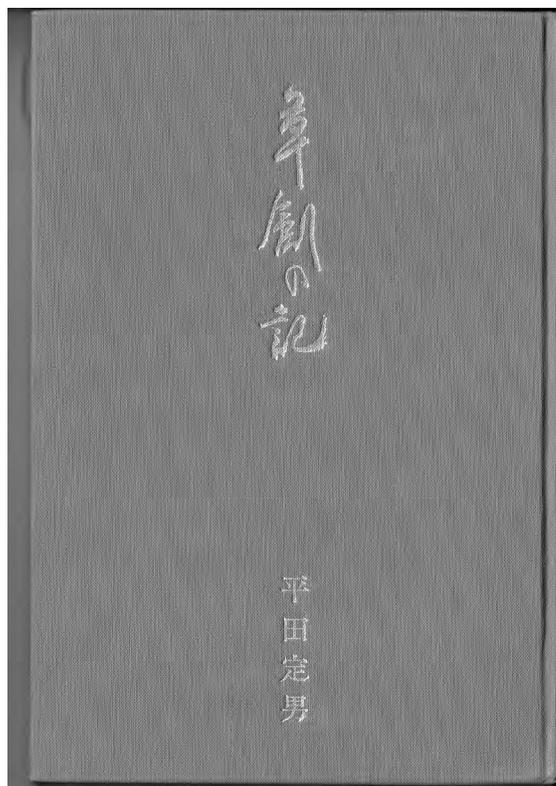
44. イコライザーの詳細



50. リフトアップ中の大屋根

【見取り図・写真】

まえがき	7
構造事務所を創るの記	9
序章	15
人々のこと	18
棚橋 源先生のこと	22
五百蔵 芳明君のこと	26
竹藤 健造先生のこと	30
坂倉 三三先生のこと	34
波辺 節先生のこと	38
村野 藤吉先生のこと	43
田所 貞のこと	49
作品について	52
キャパレー富士（田中 緑春）	56
塩野 義製菓 浦江研究所（坂倉 三三）	60
大阪府総合青少年野外活動センター（西澤 文隆）	64
日本万国博覧会施設 大塚根（丹井 善勝）	68
松下電器産業の一連の作品（福田 朝生）	71
日本万国博覧会 迎賓館（彦谷 邦一）	76
倉敷市庁舎（浦辺 鎮太郎）	81
構造作品リスト	91
随想・論評・記事・その他	95
建築構造と人間性	106
建築構造の安全性（雑感）	118
構造法令専門審判制度について	122
設計契約方式改善についての提案	132
設監業（務）法の問題点と展望	143
結 び	149
生いたちの記	151
まえがき	155
幼年のころ	158
故郷の風景	161
祖先のこと	162
中学校のころ	162
通学のこと	162



草創の記、目次および表紙

小作料を集める	164
受験のこと	166
旧制高等学校のころ	169
寮生活	170
友人のこと	171
進学転換のこと	180
大学受験のこと	181
京都大学のころ	183
下宿界限	184
恩師の思い出	185
坂 静雄先生のこと	187
村田 治郎先生のこと	187
森田 慶一先生のこと	187
太田 喜一郎先生のこと	189
友人のこと	192
就職のころ	199
鴻池組時代	207
軍需省時代	204
後 記	211
掲載写真リスト	213
著者略歴	214

# 近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

## 【見取り図・写真】

iii

### 目次

はじめに ..... i

## 第1編 我国の建築構造略史

序章 明治以前

概要 ..... 3

第1節 ヨーロッパの構造力学略史 ..... 3

第2節 我国に於ける科学技術 ..... 5

第3節 明治以前のヨーロッパ建築技術輸入の経過 ..... 7

第1章 明治前期（明治元年～明治29年）〈1868～1896〉

第1節 学制 ..... 9

第2節 建築構造学者の研究、業績 ..... 13

第3節 建築設計方式と構造設計 ..... 18

第4節 明治前期の構造設計法 ..... 20

第5節 各種構造設計例 ..... 22

第6節 アーキテクトの役割 ..... 29

第2章 明治後期（明治30年～明治45年）〈1897～1912〉

第1節 学制 ..... 32

第2節 構造学者の研究、業績 ..... 34

第3節 建築設計方式と構造設計 ..... 39

第4節 明治後期の構造設計法 ..... 40

第5節 各種構造設計例 ..... 41

第6節 造家学会より建築学会 ..... 50

第3章 大正時代（大正元年～大正15年）〈1912～1926〉

第1節 学制 ..... 53

第2節 建築構造学者の研究及び業績 ..... 57

第3節 建築設計方式と構造設計 ..... 65

第4節 大正期の構造設計法 ..... 67

第3節 兵庫県南部地震の構造設計上の問題点 ..... 133

## 第3編 我国の建築構造設計法改善への提案

はじめに ..... 136

第1章 各種構造設計改善への提案

第1節 地震入力の不確かさと現行法（地震力について） ..... 137

第2節 木構造 ..... 138

第3節 鉄筋コンクリート構造 ..... 139

第4節 S.P.R.C. 構造 ..... 143

第5節 鉄骨構造 ..... 145

第6節 鉄骨鉄筋コンクリート造 ..... 146

第2章 免震、制震構造

概要 ..... 147

第1節 免震構造 ..... 147

第2節 制震構造 ..... 149

第3章 実験設備の改善及び地震計設置の要望

第1節 実験設備の改善 ..... 150

第2節 実大三次元震動破壊実験施設 ..... 151

第3節 地震計設置及びその活用の必要性 ..... 153

第4節 簡易地震計設置の現状及びその活用 ..... 155

第5節 地震計測の研究費について ..... 156

第4章 関連法令審査申請手続き改善への提案

第1節 法令事務所構造法令専門者制度設立までの経過 ..... 157

第2節 認証制度の適用に望む ..... 158

第5章 工事監理業務の改善

概要 ..... 160

第1節 建築士法の改革案 ..... 160

iv

第5節 各種構造設計例 ..... 72

第6節 大正3年の建築設計界 ..... 83

第4章 昭和前期（昭和元年～昭和20年）〈1926～1945〉

第1節 学制 ..... 84

第2節 構造学者の研究と業績 ..... 85

第3節 建築設計方式と構造設計 ..... 86

第4節 昭和初期の構造設計 ..... 87

第5節 各種構造設計例 ..... 88

第6節 学制と構造技術者 ..... 89

## 第2編 私の構造略歴

はじめに ..... 90

第1章 戦時中（昭和15年～昭和20年）

第1節 京都帝国大学時代 ..... 91

第2節 就職時代 ..... 92

第2章 第二次大戦後の時代

第1節 都島工専（現大阪市大）講師時代 ..... 93

第2節 戦後乱れ期の構造設計 ..... 94

第3節 半世期の構造設計 ..... 95

第4節 各先生のプロフィール ..... 96

第3章 新耐震設計法と私

第1節 新耐震設計法までの経過 ..... 97

第2節 耐震建築基準委員会（梅村勉委員長）と私 ..... 98

第3節 建築基準法構造規定改訂委員会への提言 ..... 99

第4章 兵庫県南部地震と私

第1節 兵庫県南部地震の衝撃 ..... 131

第2節 上申書提出 ..... 132

第2節 某紡績工場屋根の落下事故 ..... 161

## 第4編 建築構造技術者制度の変遷

はじめに ..... 164

第1章 建築士法制定まで

第1節 明治時代 ..... 165

第2節 大正時代 ..... 165

第3節 昭和時代 ..... 166

第2章 専門構造士問題

第1節 専門建築士論議の経過 ..... 167

第2節 財団法人建築士連合会での論議 ..... 167

第3節 JSCAでの討議 ..... 169

第3章 JSCAに望む

はじめに ..... 170

第1節 国内での活動について ..... 170

第2節 国外活動について ..... 172

## 最終編 老朽家屋密集地の耐震補強の提案

第1章 老朽密集住宅の補強 ..... 174

第2章 公営住宅の構造補強への要望（国土交通省への要望） ..... 176

おわりに

表、図、写真一覧 ..... viii

主要参考文献一覧 ..... xi

著者略歴



我国の建築構造略史；目次および表紙

【見取り図・写真】



平田氏による絵画

## 4.4

# 鈴木 悦郎

すずき えつろう

1920年（大正9年）～2012年（平成24年）



元大成建設専務取締役。1958年に発明した『大成トラス』に関する研究により、1967年日本学士院恩賜賞、1973年に紫綬褒賞受賞。大成トラスを採用した多数の建物を設計。バックミンスター・フラー博士が設計した唯一の日本におけるフラードームである読売ゴルフ場スタードーム(クラブハウス)についても日本側設計者として実施設計を担当。1964年の東京オリンピック前年には、日本で初めての超高層建築物（建物高さ60以上）であるホテルニューオータニの構造設計にも従事。

### ・年表

1920年（大正9年）	北海道生
1943年（昭和18年）	東京帝国大学工学部建築学科卒業 大倉土木組(現:大成建設)に入社
1958年（昭和33年）	『大成トラス』を発明
1960年（昭和35年）	東京大学で工学博士号取得
1962年（昭和37年）	読売ゴルフ場スタードーム設計
1963年（昭和38年）	東京都発明関係功労者賞受賞 ホテルニューオータニ設計
1964年（昭和39年）	科学技術庁長官賞受賞
1967年（昭和42年）	恩賜発明賞受賞
1973年（昭和48年）	紫綬褒賞受賞

### ・主な構造設計作品

学習院女子部体育館(1958)、長崎国際体育館(1960)、よみうりランド・イルカ館(1963)、読売ゴルフ場スタードーム(1964)、ホテルニューオータニ(1964)、豊島園ロッカールーム(1966)、大阪タワー(1966)

### ・主な著作

骨組みのデザイン(1960)、立体トラスのデザイン(1968)、ストラクチャー構造と安全(1971)、異形鉄筋コンクリート設計法(1971)、鉄筋コンクリート建物の動的耐震設計法(1973)、耐震建築の計画法(1982)、おもしろ空間への招待(1987)

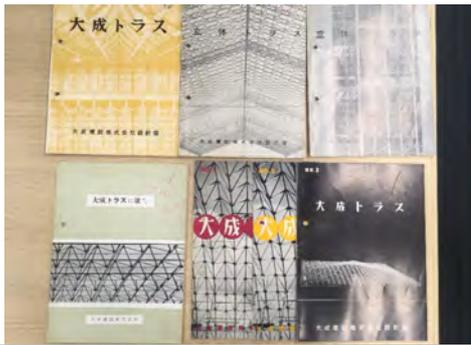
#### 4.4.1 本年度調査の概要

鈴木悦郎氏の資料は同時期に大成建設設計部で活躍した北村弘氏の資料と共に、大成建設構造設計部 細澤治氏が段ボール箱 2 箱分を保管しており、2019 年 9 月 24 日に竹内徹委員が東京工業大学学生 2 名とともに同社構造設計部 福田優子氏、安藤広隆氏を訪問し、内容物の確認、写真撮影を行った。その後、福田氏・安藤氏が中心に調査シートをまとめ、竹内委員が補足を行った。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	4-1	資料群名称	鈴木悦郎資料（大成建設）				調査年月日	令和1年9月24日	
							調査員	竹内・斎藤・西川		
	1	所有者	大成建設株式会社							
	2	管理者								
	3	資料所在地	大成建設株式会社 本社（新宿センタービル）							
	4	管理責任者	役職：	連絡担当者	氏名：福田 優子 役職：社員 TEL：03-5381-5252 E-mail:trnyuk00@pub.taisei.co.jp					
	5	所有形態	寄贈	寄託	当初から所蔵	<input checked="" type="checkbox"/>	その他			
	6	資料の来歴	鈴木悦郎、北村弘、本人より細澤治に寄託。社内で保管している。							
	7	著作権保有者								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	総量：段ボール 1箱 形態：約45cm×35cm×35cm 管理方法：すべて段ボール内に入れられ社内に保管中							
	9	資料作成年代								
	10	主な資料種別	図面（原図）	青焼き図面	<input checked="" type="checkbox"/>	スケッチ等	構造計算書	<input checked="" type="checkbox"/>	実験関係書類	工事関係書類
模型			<input checked="" type="checkbox"/>	原稿	<input checked="" type="checkbox"/>	書籍・雑誌	<input checked="" type="checkbox"/>	書類ファイル		
<input checked="" type="checkbox"/> 写真・動画			<input checked="" type="checkbox"/>	個人資料	<input checked="" type="checkbox"/>	マイクロフィルム				
図面デジタル				計算書デジタル		解析データ		実験データ		
		その他（ 特許証書 ）								
	11	含まれる 主なプロジェクト	読売ランド							
	12	廃棄した資料								
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：						
<input checked="" type="checkbox"/>			非公開	非公開の理由：社内に保管中のため						
	14	展覧会の実績	展覧会名称：							
	15	出版物の制作								
	16	備考								
	17	調査結果公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/>	可	<input type="checkbox"/>	不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）			
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否			<input type="checkbox"/>	可	<input type="checkbox"/>	不可		

【見取り図・写真】



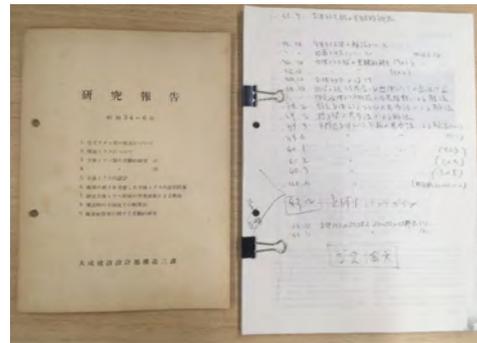
大成トラス 社内冊子



大成トラス 社内報



大成トラス実績一覧表



大成トラス 学会便概集,論文



大成トラス 掲載雑誌



大成トラス継手 特許関連資料



大成トラス 設計 解法



大成トラス実施例 (図面等)

【見取り図・写真】



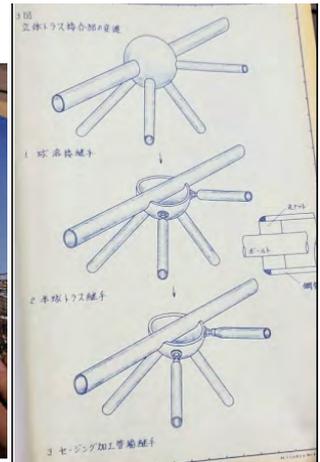
読売ランド等 図面と写真



マイクロフィルム 写真,計算書



鈴木悦郎氏に関する冊子、自作の書籍



大成トラス 接合部

【代表作品写真】



読売ゴルフ場スタードーム 内観



読売ゴルフ場スタードーム 外観1



読売ゴルフ場スタードーム 外観2

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

資料一覧(1)		
	表題	内容、時期
1	社内冊子：立体トラス	-
2	社内冊子：立体トラス2	-
3	社内冊子：大成トラス	-
4	社内冊子：大成トラスに就て	-
5	社内冊子：大成トラスNo.1	-
6	社内冊子：大成トラスNo.2	-
7	社内冊子：大成トラスNo.3	-
8	社内報：TAISEI TRUSS1	昭和36年10月
9	社内報：TAISEI TRUSS2	昭和36年10月
10	社内報：TAISEI TRUSS3	昭和38年1月
11	社内報：TAISEI TRUSS4	昭和40年1月
12	社内報：TAISEI Quarterly23(日文)	昭和42年6月
13	社内報：TAISEI Quarterly23(英文)	昭和42年6月
14	資料：大成トラス実績一覧表	-
15	学会梗概集	大成トラス 昭和33年～36年
16	学会梗概集	大成トラス 昭和32年～43年
17	雑誌：特殊構法の構造理論とその構法	
18	資料：立体トラス	
19	社内報：資料	1962年50号 立体トラス・理論解析・特許について
20	資料：立体トラスと空気構造	
21	特許関連資料	半球継手等
22	資料：半球トラス設計規準	
23	資料：半球トラス構造実験報告	昭和41年4月 川崎重工業（株）
24	資料：改定 鋼管構造工作図規準	昭和41年2月 川崎重工業（株）
25	資料：MERO M12,M20工作図	昭和42年7月 高田機工（株）
26	資料：半球トラス実施例	
27	資料：半球トラス実施例2	
28	資料：立体トラス実施例 概略	手書き資料
29	資料：大成トラス（英文）	
30	図面：立体トラス設計例	図面：東京倉庫
31	図面：豊島園ロッカー室	図面



## 4.5

# 谷 資信

たに すけのぶ

1922年（大正11年）～1999年（平成11年）



早稲田大学名誉教授。早稲田大学において47年に及ぶ建築の研究を教育活動を行い、「耐震要素の配置と復元力特性に関する一連の研究」で1978年度日本建築学会賞（論文）を受賞、「建築構造学に関する研究と建築技術普及に寄与した功績」で1995年学会大賞受賞。1950年ころより安藤勝男、吉阪隆正、菊竹清訓、穂積信夫、武基夫、ジョージ中島などの建築家と協働して構造設計活動も行う。スカイハウスや鷺宮学園幼稚園、古川市公会堂、桂カトリック教会などの曲面構造を得意とした。

### ・年表

1922年（大正11年）	東京都生まれ
1945年（昭和20年）	早稲田大学理工学部建築学科卒業，早稲田大学専門部工科専任講師
1949年（昭和24年）	早稲田大学理工学部専任講師
1953年（昭和28年）	同上 助教授
1960年（昭和35年）	工学博士
1963年（昭和38年）	同上 教授
1979年（昭和44年）	日本建築学会賞（論文）受賞
1987年（昭和62年）	日本建築学会会長（～1988年）
1995年（平成7年）	日本建築学会大賞受賞
1999年（平成11年）	逝去

### ・主な構造設計作品

早稲田大学大学院理工学研究科校舎（1950）、スカイハウス（1957）、島根県立博物館（1957）、早稲田大学第二学生会館（1963）、鷺宮学園幼稚園（1963）、古川市民会館（1965）、桂カトリック教会（1965）

### ・主な著作

建築構造学1 構造力学（鹿島出版会1969）、材料の力学（理工図書1975）、板構造の解析（技報堂出版1976）、あらたまって建築構造を考える（彰国社1995）

#### 4.5.1 本年度調査の概要

9月11日、早稲田大学前田寿朗先生の研究室にて、谷研究室OBの曾田五月也先生に新谷、浜田が資料所在についてヒアリングを行った。曾田氏は資料に心当たりがないということで、研究室先輩の関根秀次氏に問い合わせるとのことであった。9月26日、曾田氏からメールにて、退職時の記念書籍『早稲田の森に半世紀』が唯一の設計資料との返答があった。また、研究資料については、執筆記事を『建築と構造』『建築と防災』『建築と耐震』の3分冊に分類整理したものが存在しているとのことであった。

ヒアリング結果から、構造資料が残っていないことが判明したため、資料所在調査は終了し、本報告においては、『早稲田の森に半世紀』の抜粋を掲載することとする。

早稲田の森に半世紀

谷資信先生古稀記念出版

平成四年

## 序

平成4年3月、谷 資信先生は早稲田大学での47年に及ぶ建築の研究と教育活動を終えられて定年ご退職になり、併せて古稀をお迎えになりました。

この度、そのご慰労と古稀のお祝いの記念として、先生の半世紀におよぶ足跡の記録の出版を計画いたしました。その内容を3部の構成とし第1部を先生の研究及び業績に、第2部を47年にわたる早稲田大学での出来事の思い出のエッセイ集、第3部を先生と親交ある皆様および、大学での教え子の皆様による寄稿集として全体として3部構成の1冊の本といたしました。

先生にお書きいただきました原稿用紙320枚におよぶ大作のエッセイ集は、早稲田大学での47年にわたる歴史の流れをあざやかに活字に写し出し、私達に歳月の重みを深くお伝えいただき、更に先生がご自分で写されたカラー写真の数々が人生の流れを語りかけてくれます。

又、160人におよぶ皆様から寄せられました寄稿文は、先生の社会でのご交流の幅の広さとその大切さを私達に教えてくれます。

表紙の「早稲田の森に半世紀」の文字は先生にお決め頂き、筆で書いて頂きました。又、最初の扉の権の写真は先生作品です。

どうか、この記念の本をいつまでも大切に本箱においてください。

平成4年5月

## 目 次

序	
第1部 研究業績	1
第2部 エッセイ集	185
第3部 寄稿集	353
編集後記	673

構造設計作品リスト

昭和25年（1950年）～昭和47年（1972年）

昭和25年 (1950年)  
早稲田大学院理工学研究科校舎  
(設計：安東勝男)

昭和26年 (1951年)  
早稲田大学共通教室  
(設計：早大施設部)

昭和28年 (1953年)  
ダイヤモンド社屋  
(設計：安東勝男)

昭和29年 (1954年)  
光文社  
(設計：佐藤武夫)

上野辨天堂  
(設計：田辺 泰)

出光寮  
(設計：佐藤武夫)

信越化学機部工場  
(設計：十代田三郎)

信越化学直江津工場  
(設計：十代田三郎)

吉阪邸  
(設計：吉阪隆正)

昭和30年 (1955年)  
エスヤビル (ガスビル)  
(設計：福永満八)

石橋文化園プール・プールのスタンド  
(設計：菊竹清訓)

石橋文化園体育館  
(設計：菊竹清訓)

十條製紙煙突  
(設計：佐藤茂次)

久留米医大  
(設計：菊竹清訓)

武蔵野病院  
(設計：十代田三郎)

酒田妙智会  
(設計：佐藤武夫)

久留米商業講堂  
(設計：菊竹清訓)

国立独身者アパート  
(設計：菊竹清訓)

昭和31年 (1956年)  
殿ヶ谷アパート  
(設計：菊竹清訓)

久留米アパート  
(設計：菊竹清訓)

広島アパート  
(設計：菊竹清訓)

昭和32年 (1957年)  
プリヂストン横浜工場  
(設計：菊竹清訓)

大東製薬工場  
(設計：安東勝男)

菊竹邸・スカイハウス  
(設計：菊竹清訓)

高根県立博物館  
(設計：菊竹清訓)

昭和33年 (1958年)  
金丸商店事務所  
(設計：穂積信夫)

昭和34年 (1959年)  
池上木門寺鐘楼  
(設計：田辺 泰)

黒竜堂研究所  
(設計：福永満八)

ほていや  
(設計：十代田三郎)

昭和35年 (1960年)  
大宗寺  
(設計：緒方一三)

広島会館  
(設計：菊竹清訓)

三井邸  
(設計：吉阪隆正)

早稲田大学学生ホール増改築  
(設計：早大施設部)

秀島邸  
(設計：秀島 乾)

昭和36年 (1961年)  
大阪会館  
(設計：菊竹清訓)

昭和37年 (1962年)  
プリヂストン横浜工場厚生会館  
(設計：菊竹清訓)

日本光電工業本社研究所  
(設計：山里寿雄)

昭和38年 (1963年)  
富山呉羽中学校  
(設計：吉阪隆正)

上野寛永寺  
(設計：田辺 泰)

鳴子温泉ホテル  
(設計：武 基雄)

箱根神社本宮  
(設計：田辺 泰)

セントラル病院  
(設計：小山 壮)

自然公園温泉郷浮山橋  
(設計：秀島 乾)

早稲田大学第二学生会館  
(設計：武 基夫)

日本医大第二病院  
(設計：小山 壮)

日本医大千駄木病院  
(設計：小山 壮)

鷺宮学園幼稚園  
(設計：山里寿雄)

- 昭和39年 (1964年)  
泰成光学大宮工場  
(設計：武 基雄)
- 建雄社増築  
(設計：木村幸一郎)
- 日本医大第一病院  
(設計：小山 壮)
- 青森稲垣村立稲垣西小学校  
(設計：日本技建)
- 伊勢志摩レストハウス  
(設計：武 基雄)
- 昭和40年 (1965年)  
古川市公民館  
(設計：武 基雄)
- 埼玉県上尾陸上競技場メインスタンド  
(設計：橋設計事務所)
- 早稲田大学15号館  
(設計：早大施設部)
- 桂カトリック教会  
(設計：ジョージ中島)
- 昭和41年 (1966年)  
中西ゴースー構造  
(設計：中西正光)
- 大雄山奥之院  
(設計：田辺 泰)
- 島根県立公会堂  
(設計：安田 臣)
- 正力・4000メートルタワー案  
(設計：内藤多伸)
- 昭和42年 (1967年)  
鷺宮学園幼稚園増築  
(設計：山里寿雄)
- 早稲田大学法商研究棟  
(設計：早大施設部)
- 徳島県営陸上競技場メインスタンド  
(設計：橋設計事務所)
- 昭和43年 (1968年)  
鎌倉商工会館  
(設計：武 基雄)
- 近鉄上本町ターミナルビル(動的検討)  
(設計：村野藤吾・内藤多伸)
- 東洋化成網島印刷工場  
(設計：杉原荘元)
- 昭和45年 (1970年)  
聖パウロ学園  
(設計：安藤勝男+建築計画連合)
- 昭和46年 (1971年)  
日本興業銀行本店 (動的検討)  
(設計：村野藤吾・内藤多伸)
- 昭和47年 (1972年)  
火の山公園山頂展望施設  
(設計：菊竹清訓)



本部キャンパス見大学院理工学研究科棟



第二学生会館



鷺宮学園幼稚園



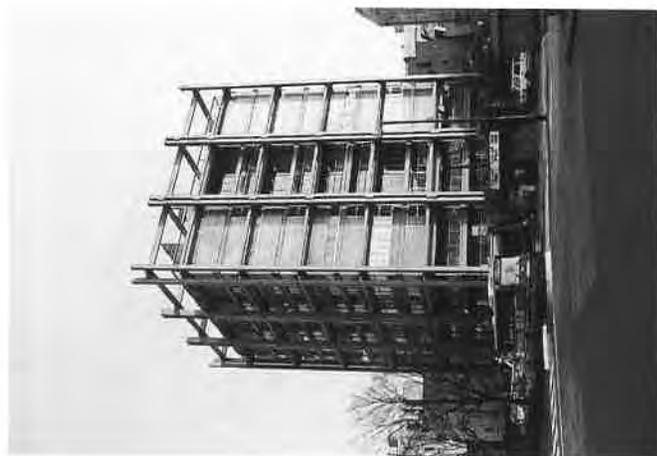
鷺宮学園幼稚園 HP シェル屋根ホール建設中



大阪会館



第二学生会館現場で



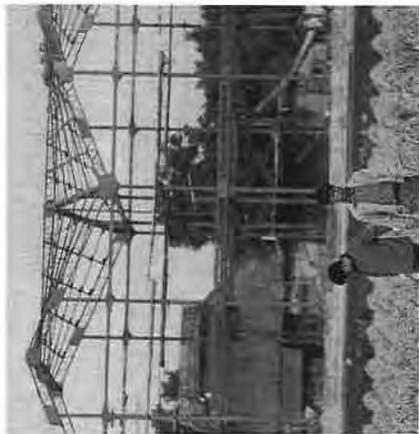
第二学生会館



第二学生会館の施工（昭和40年）



第二学生会館コア連層耐震壁



青森県稲垣村立稲垣小学校ゲビオン (HS 鉄骨・シェル)  
構造の実験 (昭和39年10月) (1)



ゲビオン構造の実験 (2)



ゲビオン構造の実験 (3)



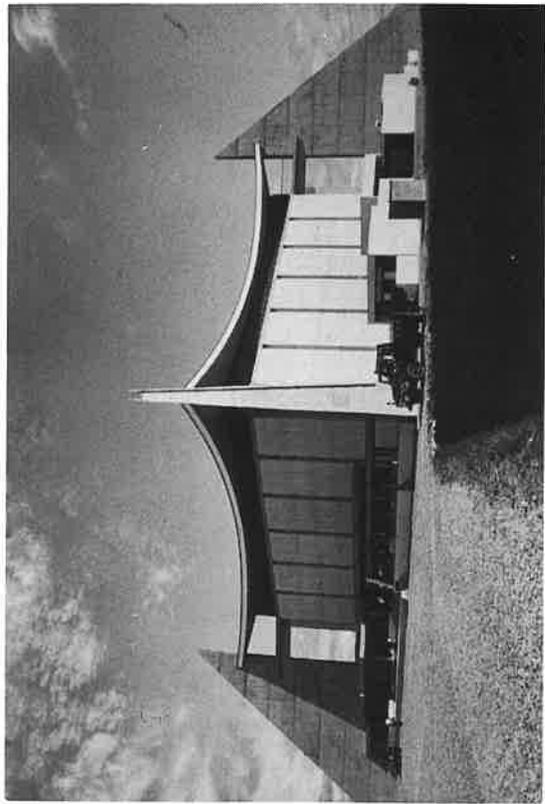
ゲビオン構造の実験 (4)



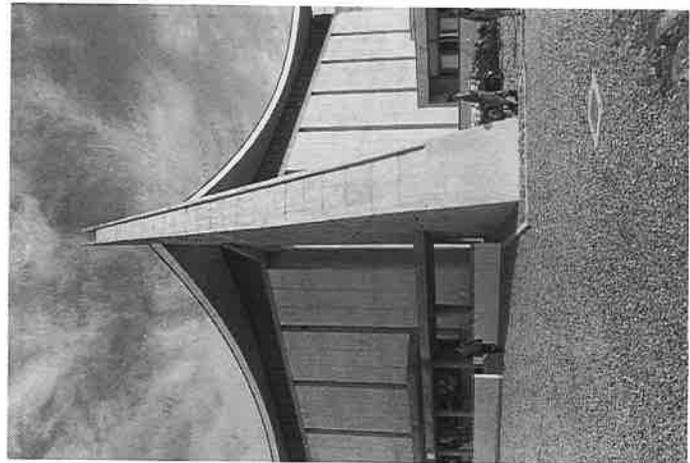
ゲビオン構造の実験 (5)



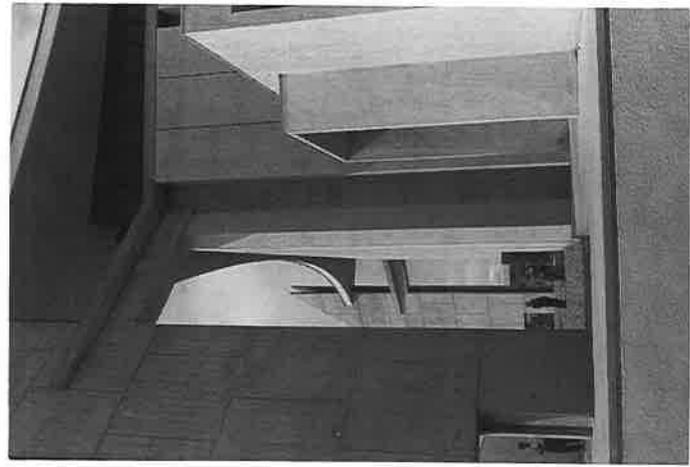
ゲビオン構造の実験 (6)



古川市公会堂 (1)



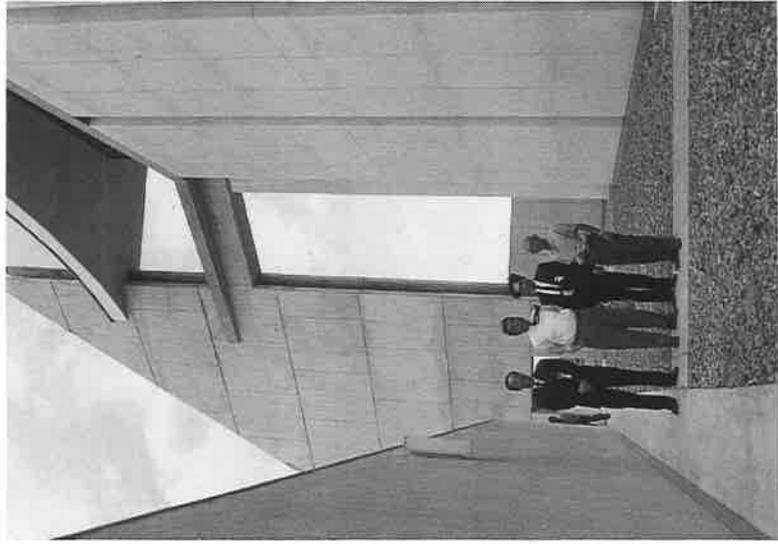
古川市公会堂 (2)



古川市公会堂 (3)



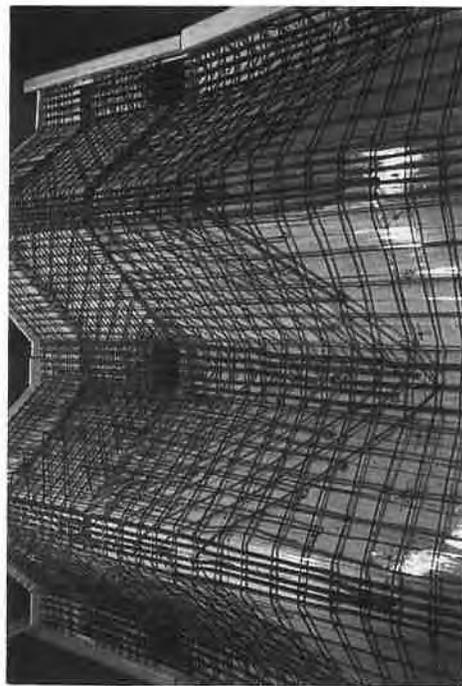
古川市公民館屋根格子ローブ



古川市公会堂 (4)



HP シェルキャテンティモデル (昭和41年)



HP シェルキャテンティモデル (昭和41年)



埼玉県上尾陸上競技場 HP キャテンティ配筋



桂教会モデルの前で



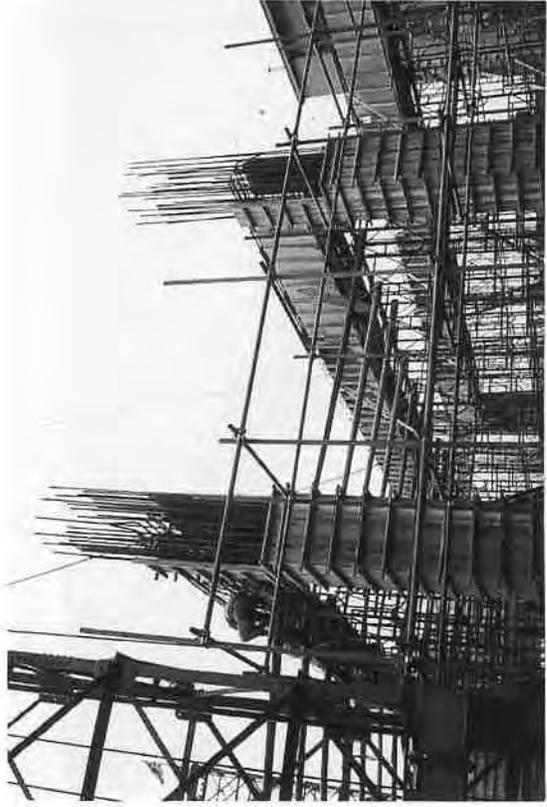
桂教会 HP シェル屋根施工中



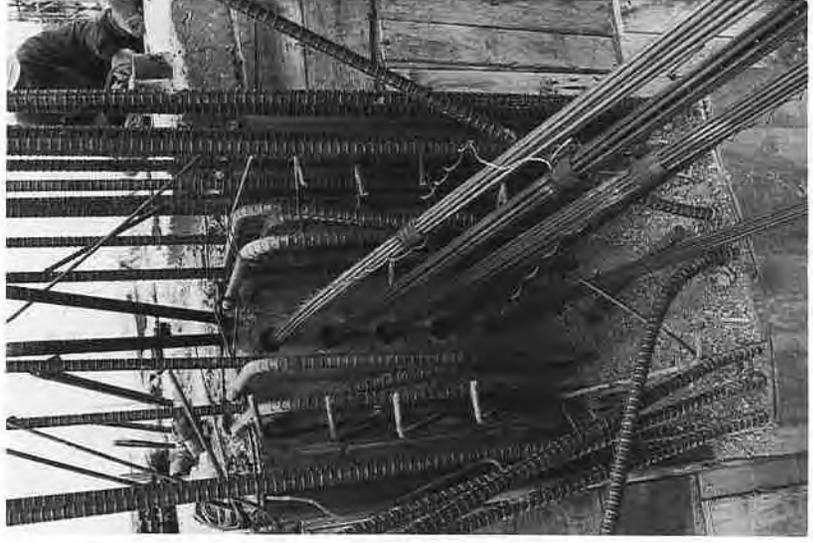
桂教会 HP シェル屋根施工中



桂教会



本部キャンパス15号館プレストレストコンクリート梁の施工 (昭和41年)



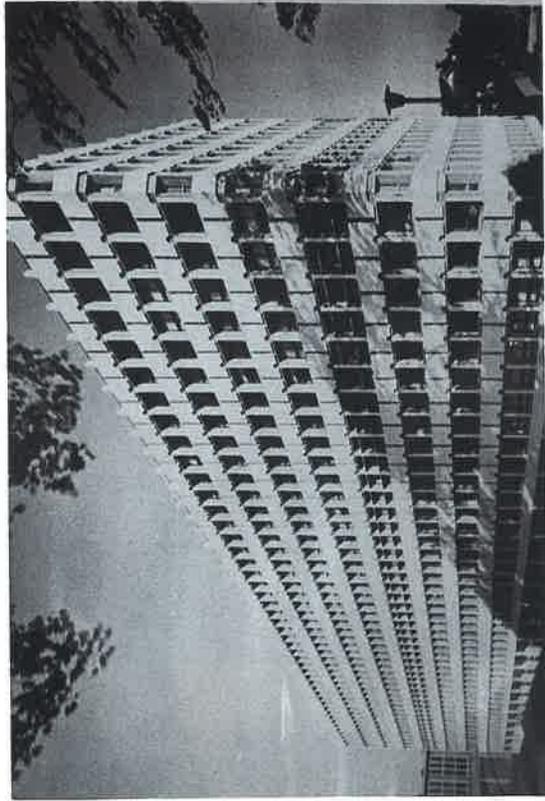
15号館 PS 大梁のポストテンション工事

## 第 2 部

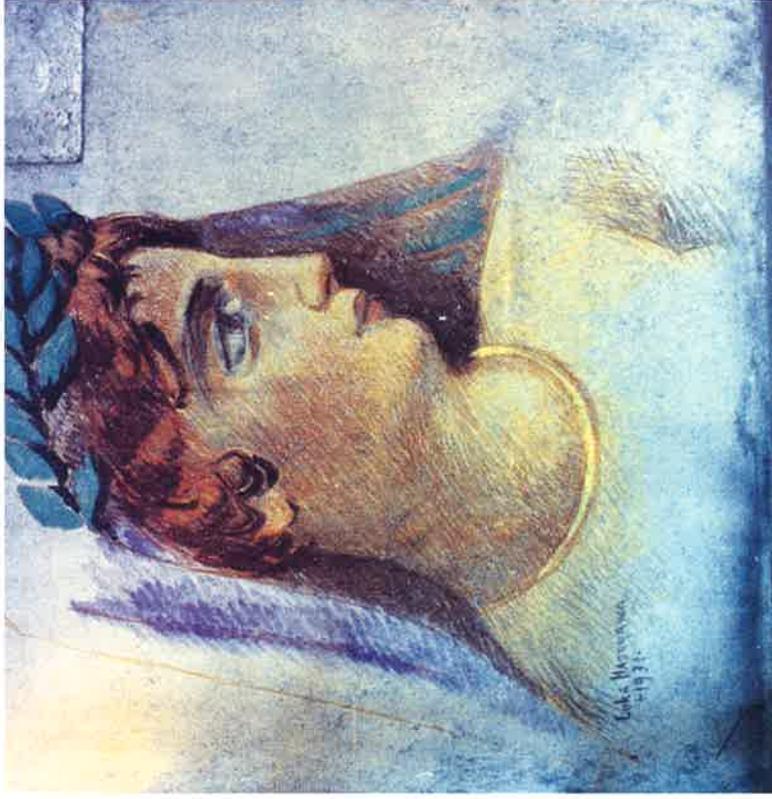
# エッセイ集



伊勢志摩レストハウス



法商研究棟



旧研究室の長谷川路可画伯による壁画  
昭和6年(1931)

## 4.6

### 山口 昭一

やまぐち しょういち

1927年（昭和2年）～2015年（平成27年）



大学卒業後、武藤清先生の勧めにより中堅ゼネコンでコンクリートブロックの開発を手掛け、その後東京建築研究所に入社し構造設計の道を志す。武藤清先生から声を掛けられ国鉄の東京駅高層化の検討委員会委員を務めた。東京海上火災本社ビルなどの高層ビルの建築を手がけている他、様々な対応の建物の構造設計に関わった。土木的な配慮が必要となる下水処理場の施設も手掛け、これら施設の構造設計手法の確立に尽力した。1980年代からは日本での免震構造の実現にエネルギーを注ぎ、我が国初の免震構造を実現するとともに、2000年には日本免震構造協会の創立に貢献しその後会長を務め、免震構造の普及に大きな貢献を果たした。その他、建築紛争に対して専門家として立場に関わる活動を精力的に行っている。「構造設計は神様がするもので人はそのお手伝いをするだけだ」ということが持論で、構造設計に対して常に謙虚な姿勢を貫いた。

#### ・年表

1927年（昭和2年）	神奈川県生まれ
1950年（昭和25年）	東京大学第一工学部建築学科卒業
1950年（昭和25年）	松井建設 入社
1952年（昭和27年）	東京建築研究所 入社
1982年（昭和57年）	株式会社東京建築研究所 代表取締役社長
1987年（昭和62年）	『免震構造設計法の開発に関する研究』で日本建築学会賞（業績）受賞
2003年（平成15年）	株式会社東京建築研究所 代表取締役会長
2014年（平成26年）	株式会社東京建築研究所 最高顧問
1981年（昭和56年）～1989年（平成元年）	構造家懇談会副代表
1991年（平成3年）～1994年（平成6年）	（社）日本建築構造技術者協会副会長
2000年（平成12年）～2006年（平成18年）	（社）日本免震構造協会会長
2000年（平成12年）～2013年（平成25年）	（社）日本建築学会 司法支援建築会議幹事
2001年（平成13年）～2013年（平成25年）	最高裁判所 建築関係訴訟委員会特別委員

#### ・主な構造設計作品

東京火災海上ビル本館(1965)、ホテルパシフィック東京(1969)、八千代台住宅ー（日本での免震建築第1号）(1981)、キリシタン資料館（沢田美喜記念館）(1983)、郵政省WESTビル(1992)  
名古屋近鉄ターミナルビル（1964）、新宿駅西口広場(1964)、日本空港成田第一ハンガー(1970)、東京都葛西処理場施設(1976)、東京都蔵前処理場施設(1979)

#### ・主な著作

建築構造設計シリーズ3 高層建築（共著、1973）

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	6-1	資料群名称	山口昭一				調査年月日	令和元年12月3日	
								調査員	金箱温春	
	1	所有者	(株) 東京建築研究所							
	2	管理者	同上							
	3	資料所在地	東京都新宿区信濃町20							
	4	管理責任者	氏名：石橋輝樹 役職：代表取締役	連絡担当者	氏名：蓮田常雄 役職：常務取締役 TEL：03-3359-6151 E-mail:hasuda-t@tkse2000.co.jp					
	5	所有形態	寄贈	寄託	<input checked="" type="checkbox"/> 当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	設計を行った資料を最小限の情報として保存している。							
	7	著作権保有者								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図面は基本的にマイクロフィルムにて保存されている他、主要なプロジェクトは青焼き製本として保存されている。</li> <li>・ 計算書は一部は原図で保存されてるが、主要なプロジェクトは製本されたもので保存されている。</li> <li>・ 資料類は代表的なものは会議室横の書棚に、その他は倉庫に収納されている。</li> </ul>							
	9	資料作成年代	1950年～ (山口氏自身が直接関与したものは1990年ごろまでと思われる)							
	10	主な資料種別	<input type="checkbox"/> 図面(原図)	<input type="checkbox"/> レ	<input type="checkbox"/> 青焼き図面	<input type="checkbox"/> スケッチ等	<input type="checkbox"/> レ	<input type="checkbox"/> 構造計算書	<input type="checkbox"/> 実験関係書類	<input type="checkbox"/> 工事関係書類
<input type="checkbox"/> 模型			<input type="checkbox"/> レ	<input type="checkbox"/> 原稿	<input type="checkbox"/> 書籍・雑誌	<input type="checkbox"/> 書類ファイル	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 写真・動画			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 個人資料	<input type="checkbox"/> レ	<input type="checkbox"/> マイクロフィルム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 図面デジタル			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 計算書デジタル	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 解析データ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 実験データ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他 ( )										
	11	含まれる 主なプロジェクト	キリシタン資料館(沢田美喜記念館)、名古屋近鉄ターミナルビル、新宿駅西口広場、日本空港成田第一ハンガー、東京都葛西処理場施設							
	12	廃棄した資料								
	13	公開の状況	<input type="checkbox"/> 公開	主な公開資料：						
			<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由：						
	14	展覧会の実績	展覧会名称：							
	15	出版物の制作								
	16	備考								
	17	調査結果公開の可否	<input type="checkbox"/> レ	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 部分的に可 (公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック)				
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可					

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



東京建築研究所の外観



会社標識と耐震補強のファサード



主要プロジェクトの資料棚



調査した資料類



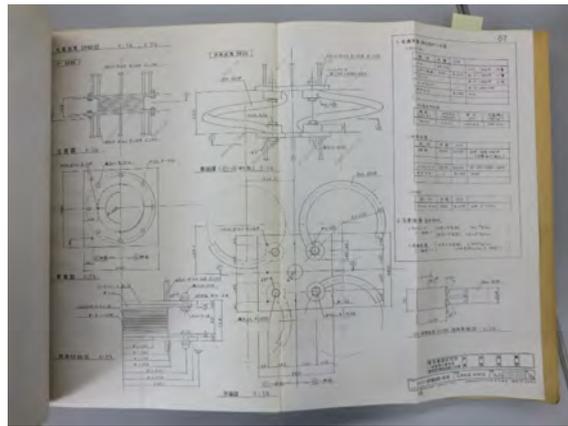
1階にある資料倉庫

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

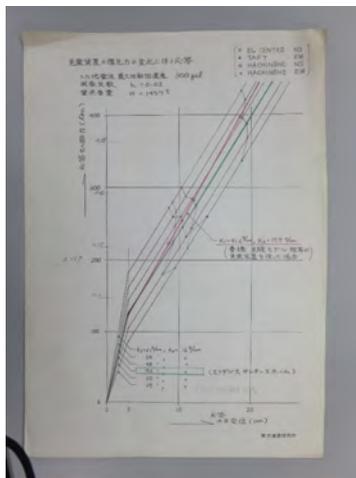
【見取り図・写真】



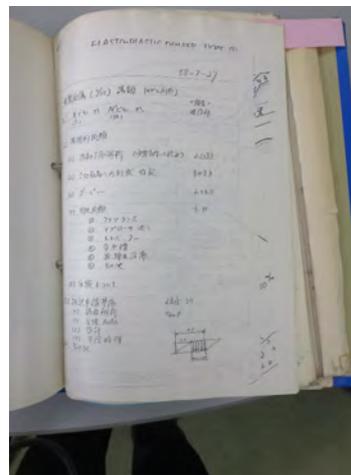
クリスタン資料館 評定資料



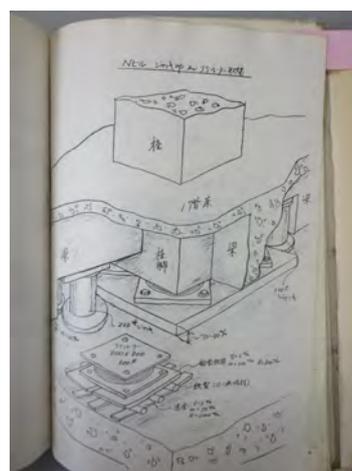
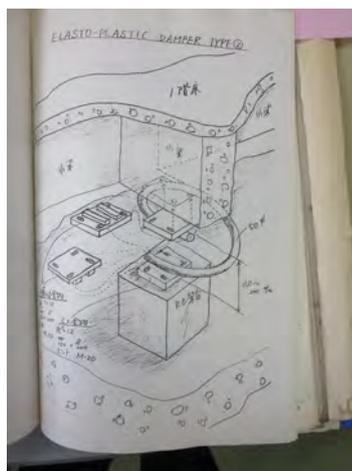
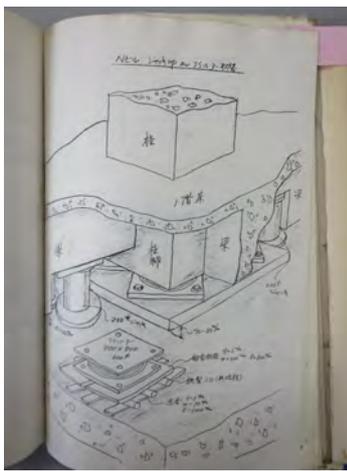
クリスタン資料館 免震装置の図面



免震層の応答性状の検討図



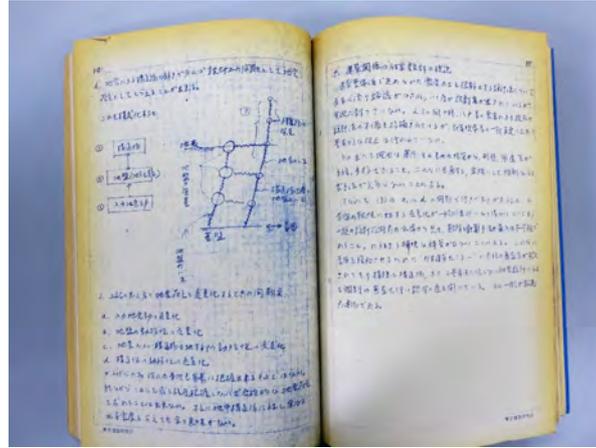
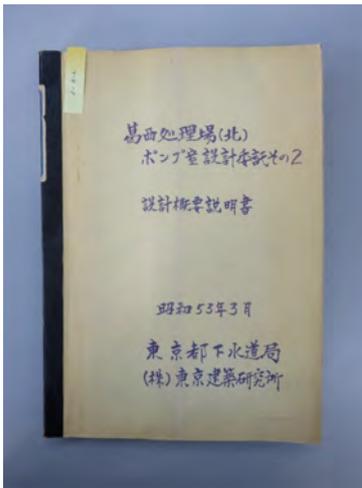
ユニチカNNビル免震会議資料



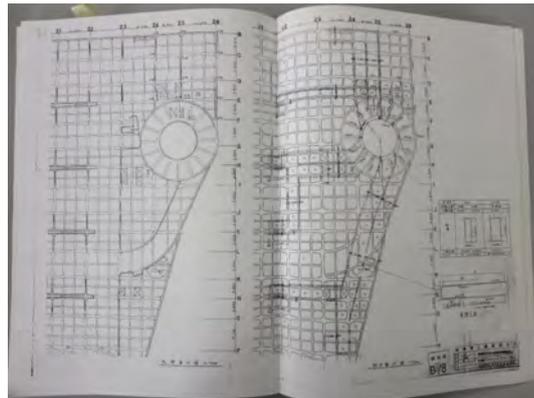
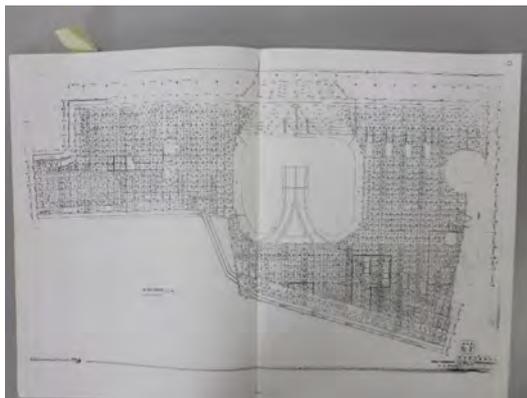
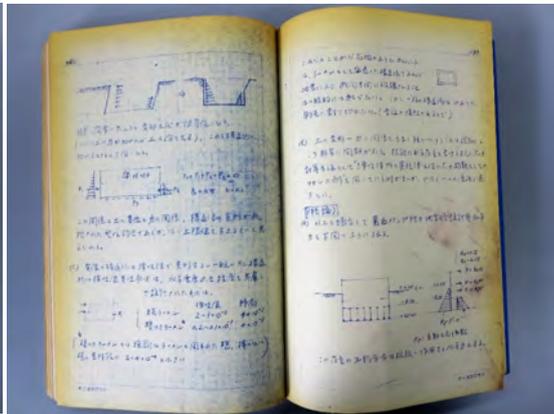
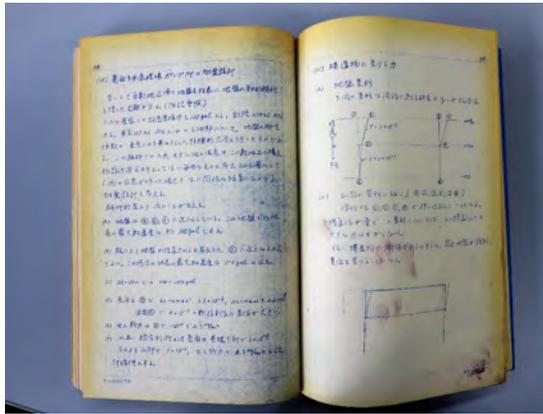
ユニチカNNビル 免震会議資料 制振装置の検討スケッチ

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



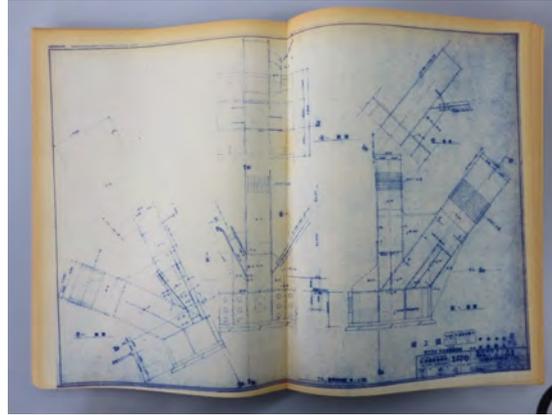
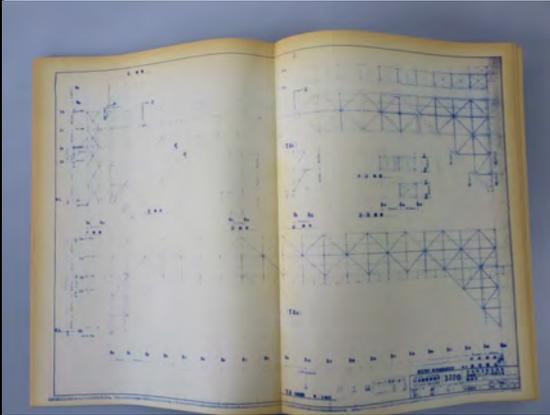
葛西処理場施設 構造概要説明書



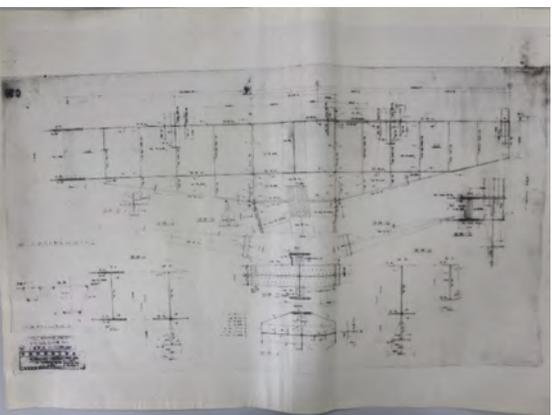
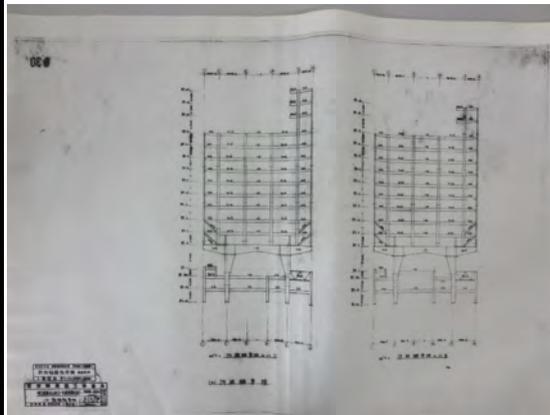
新宿駅西口広場 構造図

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

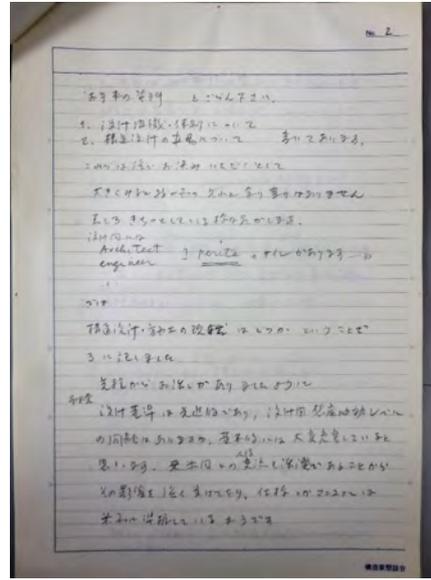
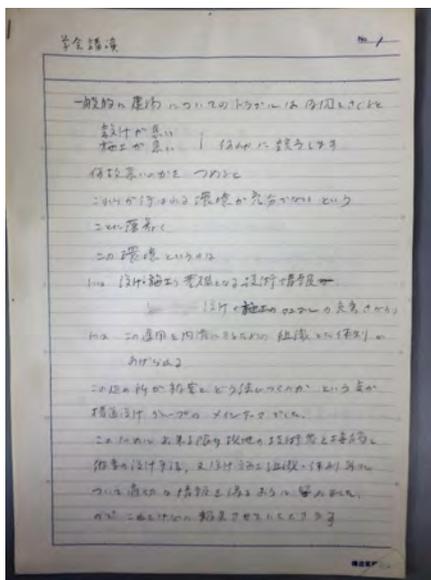
【見取り図・写真】



成田空港第一ハンガー 構造図



近鉄名古屋ターミナル 構造図



手書きの講演原稿

## 4.7

# 矢野 克巳

やの かつみ

1928年（昭和3年）～



元株式会社日建設計東京本社代表，元日本建築学会副会長。建築学会業績賞（1967），同作品賞（1971），JSCA賞（第2回）など受賞。三愛ドリームセンターやパレスサイドビルなど同社に同時期に勤務していた林昌二との協働も多い。構造設計者の地位向上や高い専門性の保持に努め，1981年の構造家懇談会の発足に参画し，社団法人日本建築構造技術者協会となった際には初代会長に就任。

### ・年表

1928年（昭和3年）	大阪府堺市生まれ
1953年（昭和28年）	大阪大学工学部構築工学科卒業
1953年（昭和28年）	日建設計工務株式会社（現・株式会社日建設計）入社
1965年（昭和40年）	同東京事務所（現・東京本社）構造部長
1973年（昭和48年）	株式会社日建設計東京本社構造部長
1981年（昭和56年）	同東京本社代表
1981年（昭和56年）	株式会社日建設計インターナショナル 取締役社長
1981年（昭和56年）	構造家懇談会（現・社団法人日本建築構造技術者協会）の発足に参画
1989年（平成元年）	社団法人日本建築構造技術者協会会長

### ・主な構造設計作品

三愛ドリームセンター（1962），宮城県スポーツセンター（1964），パレスサイドビル（1966），船橋市中央卸売市場（1969），ポーラ五反田ビル（1971），IBM本社ビル（1971），全国勤労青少年会館（中野サンプラザ）（1973），新宿住友ビル（1974）

### ・主な著作

「新建築学大系・構造計画」（共著・1981），「建築構造計画実例集1～5」（共著・1977～98），「プレストレストコンクリート構造の設計（構造計算のすすめ方〈5〉）」（共著・1977）

#### 4.7.1 本年度調査の概要

本年度の調査において、株式会社日建設計にて関与した案件の保管資料の確認を行った。結果、社内のデータベースや保管図面の押印などから「担当案件リスト」と「執筆リスト」を作成し、「担当案件リスト」には各建物の構造図等の保管状況を記録した。また、社団法人日本建築構造技術者協会(JSCA)に関係する執筆情報の確認のため、JSCA 事務局へのヒアリングを行い、機関誌「Structure」の記事の抜粋とリスト化を行い、「執筆リスト」に反映させている。日建設計 OB 等を通して、ご本人への連絡を試みたが、体調の理由等により直接お話を伺うことはできなかった。なお、個人的に保管されていたスケッチ等は確認できなかった。また、建築耐震設計者連合や構造技術者世界会議（SEWC）への関与の情報もあったが関連資料が発見できず、詳細確認はできなかった。

以上調査内容の詳細については次頁以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開項目	番号	7-1	資料群名称	矢野克巳資料（日建設計）				調査年月日	令和元年12月10日	
								調査員	原田 公明	
	1	所有者	株式会社 日建設計 エンジニアリング部門 構造設計グループ							
	2	管理者	原田公明							
	3	資料所在地	東京都千代田区飯田橋2-18-3							
	4	管理責任者	氏名：原田公明，安藤顕祐 役職：ダイレクター，シニアエンジニア	連絡担当者	氏名：原田公明，安藤顕祐 役職：ダイレクター，シニアエンジニア TEL：03-5226-3030 E-mail:haradah@nikken.jp, ando.kensuke@nikken.jp					
	5	所有形態	<input type="checkbox"/> 寄贈	<input type="checkbox"/> 寄託	<input checked="" type="checkbox"/> 当初から所蔵	<input type="checkbox"/> その他				
	6	資料の来歴	日建設計にて保管されている資料の索引として今回調査結果を日建設計原田，安藤が保管・管理。 JSCA関連資料についてもJSCA事務局から複製を受領して原田，安藤が保管・管理。							
	7	著作権保有者								
	8	資料概要 (総量・形態・管理方法)	総量：未確認 形態：原図・第二原図・マイクロフィルム・スキャンデータ等 管理方法：社内および社外倉庫で保管							
	9	資料作成年代								
	10	主な資料種別	<input checked="" type="checkbox"/> 図面（原図）	<input checked="" type="checkbox"/> 青焼き図面	スケッチ等	構造計算書	実験関係書類	工事関係書類		
<input type="checkbox"/> 模型			<input type="checkbox"/> 原稿	書籍・雑誌	<input checked="" type="checkbox"/> 書類ファイル					
<input type="checkbox"/> 写真・動画			<input type="checkbox"/> 個人資料	マイクロフィルム						
<input type="checkbox"/> 図面デジタル			<input checked="" type="checkbox"/> 計算書デジタル	<input checked="" type="checkbox"/> 解析データ	実験データ					
その他（ ）										
	11	含まれる 主なプロジェクト	経歴資料の「主な構造設計作品」似て示すプロジェクト							
	12	廃棄した資料								
	13	公開の状況	<input type="checkbox"/> 公開	主な公開資料：						
			<input checked="" type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由：社内保管資料のため						
	14	展覧会の実績	展覧会名称：							
	15	出版物の制作								
	16	備考	・「担当案件リスト」（今回調査業務にて作成） ・「執筆リスト」（同上）							
	17	調査結果公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）					
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可						

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

表「担当案件リスト」・「執筆リスト」の構成

シート名	概要
担当案件 ① 代表作	社内ヒアリングから調査した案件(担当案件②NASに含まない案件もあり)
担当案件 ② NAS	社内データベース「NAS」におけるプロジェクト資料検索結果
担当案件 ③ 受賞	社内データベース「NAS」における受賞情報検索結果
執筆 ① 雑誌 1)	社内データベース「目録設計作品・執筆記事」における雑誌執筆情報検索結果
執筆 ② 雑誌 2)	社内データベース「AMIS」における雑誌執筆情報検索結果
執筆 ③ JSCA	機関紙「Structure」の執筆情報検索結果(JSCAにて保管)

表「担当案件①代表作」の一部

正式名称	竣工年	ジョブ番号	①NAS				②監理 経歴書		③技報		④JM		⑤雑誌掲載			⑥構造図 押印確認	
			林	矢野	林	矢野	林	矢野	号数	林	矢野	林	矢野	掲載誌	林		矢野
新東京国際空港 税・成田 (国際空港) 第一旅客ター ミナルビル	1973/3/31	T450414	○		○	×	○	×	?			○	×				×
経団連会館	1966/10/26	T--1739			×	×	×	×	30.005 (技報)	×	×	JMなし	近代建築 1967/01 P67	社外倉庫			×
宮城県スポーツセンター	1964/8/18	T--1546		○	×	×	×	○	無し	-	-	JMなし					
日本サイクルスポーツセン ター	1971/8/11	T--2252	○		○	×	○	×	58.006 (技報)	○	×	○	×	新建築 1971/11、 P189	×	×	×
静岡県庁舎 東館	1970/6/25	T--2504	○	○	○	×	○	×	52.003 (技報)	○	×	○	×	新建築 1970/8、 P173-186	○	×	○
静岡県庁舎 西館	1974/2/1	T460808	○	○	○	×	なし		68.083 (技報)	○	×	○	×				○
船橋市中央卸売市場	1969/3/31	T--2171		○	×	×	×	×	33.005 (技報)	×	×	(メンバー記 載なし)	新建築 1967/11 P189	×		○	
三菱ドリームセンター	1962/11/30	T--1111	○	○	○	×	なし		?			JMなし	新建築 1963/03、 P128	○	×	○	
ポーラ五反田ビル	1971/4/16	T--2695	○	○	○	×	○	×	55.001 (技報)	○	×	○	×	新建築 1971/5	○	×	○
新宿住友ビル	1974/3/27	T--3001		○	×	×	×	×	技報 69 号	×	○	×	×	新建築 1974/6	×	○	
日本万国博覧会 EXPO'70 政府館	1970/2/20	T--3000		○	×	×	×	×	?			×	×	近代建築 1970/05 P114- P124	社外倉庫		○
釜山タワー		T--2899		○	×	○						×	○				
JAKALTA TOWER		T470907		○	×	○						×	○				
パレスサイドビル	1966/10/6	T--1900	○	○	○	○			30.004 (技報)	○	○	JMなし					
アイ・ビー・エム本社ビル	1971/11/30	T--2705	○	○	○	○			62.002 (技報)	○	○	○	×				
全国勤労青少年会館 中 野サブツグ)	1973/4/11	T--2770	○	○	○	○			技報 66			○	○				

表「執筆③JSCA」の一部

No.	年	月	タイトル
132	2014	10	第2章/社会の変遷とJSCA/1.社会の変遷とJSCA
131	2014	7	◇追悼 中野清司様を偲んで
129	2014	1	◇追悼 井上 博君を偲んで
117	2001	1	投稿◇建物を守る耐震と 人を守る耐震
114	2010	4	随想◆国際的設計協力
113	2010	1	随想◆構造性能を社会に伝える その2)
112	2009	10	随想◆社会と構造設計者 その1)
102	2007	4	第1章/巻頭/1. 素人に分かる性能説明がない
100	2006	10	第2章/困難なプロジェクトに挑戦した先駆者たち/5. 三菱ドリームセンター
94	2005	4	投稿◆構造設計者は説明責任を果たそう
17	1986	1	巻頭言◇5周年を迎える年のはじめに
13	1985	1	巻頭言◇本会の将来を試される幾つかの課題
9	1984	1	インタビュー◇構造家の将来像を考える
7	1983	7	特集 構造士問題を考える/建築審議会に加盟して
4	1982	7	巻頭言◇懇談会設立1年を顧みて
3	1982	4	アンケート結果-本誌創刊号のアンケート調査報告
2	1982	1	構造家懇談会設立記念講演会◇構造家懇談会設立記念講演会に当って◆挨拶
1	1981	9	巻頭言◇構造家懇談会の発足に当り
1	1981	9	設立披露会◇要旨◆代表挨拶
1	1981	9	座談会◇構造家の職能と連帯

【見取り図・写真】



矢野克巳

Katsumi Yano  
1928年 大阪府堺市に生まれる  
1953年 日本設計工務(株)大阪事務所(現 株)日建設計  
1981年 東京本社代表  
1999年 (株)日建設計退職

随想(その1)

社会と構造設計者

Structural Engineers in Community

J S C A の誕生

構造家懇談会設立の動機は、木村俊彦さんからの手紙でした。「梅村先生を中心に耐震設計の指針を大改定する準備が進行中です」とあり、委員構成は設計者が少ないことが分かりました。学者がまとめるのに異議はないが、設計者側の意見を広く求めていることが大変残念でした。内容が見えてきた時期に、早稲田大学の石井先生から呼び出しを受けました。谷先生もご同席で、新しい指針の方向をどう思うか訊かれました。石井先生は反対したいようでしたが、私は良い方向だと思うと申し上げ、谷先生が同じようなご意見でした。地震という不明なことが多い事象に対する設計法としては、数値はともかく、両者には夫々の良い所があるように思いましたが、今になって考えてみると、設計者としては何か大きい忘れ物があったと思います。

構造設計者の地位が低いことに反発し、先輩や同輩などを訪ね歩き、各位

の事務所やお宅に集り協議を続けました。そして構造家懇談会Japan Structural Consultants Associationが設立される運びとなりました。数十人の設立総会は、建築士会連合会大田会長や谷・金井・大崎・柴田先生方と横山不学先輩のご出席を頂き大いに気勢を上げました。私は感激の余りはしやが過ぎて大崎先生からたしなめられる始末でした。

そのときに柴田先生から、会員は50名程度が適当と思うとお話も聞かせて頂きました。この問題は社団法人化まで終始議論の種でした。私はエリートサロンでなく、構造設計者の評価が適切である社会システムを作りたいとの思いでした。規準等の作成に参画することも大切ですが、建築士が実態として専門分化している現実を反映する社会システム創りを実現したかったのです。

石井先生は数少ない学者と設計者であったことがあのような発言となったと思います。学術の進歩と、未知の面が多い地震に対する設計技術とをどうバランスをとってゆくかも問題です。

志を高く

構造家懇談会は、諸兄の努力により1981年に発足できました。設立趣意書は、木村さんの格調高い名文ができました。構造技術者を幅広く考え、しかし、レベルは高く考えた会則もでき、倫理規定も英国を参考に作り上げました。

専務理事には建築家で集合住宅設計の雄である永松さんに借越ながらお願いし、会誌は井上博さんが中心で推進して下さいました。

会員をどう規定するかは大問題でした。建築士で計算を担当しているだけではまずい。志は高く持ちつつ、現実的な姿は何かについて多くの議論を積み重ねました。活動方針を決める会議では、常に激しい討議がありました。発言は専ら木村・久徳・井上・矢野でしたが、山口・木田両氏の顔を見ながら私は結論を作ることに努めた心算でした。結果は、そうでもないよと諸兄に言われそうですが、会員資格は建築



構造家懇談会発足時の理事(前列左より山口、掛貝、矢野、木村、市川。後列左より井上、村田、木田、青木豊)



ASCE大会でゴールドラッシュ時代の仮装パーティーに出席した(国籍不明の二人(ジャック井上氏と共に))

図 JSCA機関紙「Structure」からの抜粋(1/2)

【見取り図・写真】

士より高く、技術士並みであり、実務経験と設計能力を重視した制度となりました。

社団法人へ

会員が増えてきました。そこで社団法人化が目標となってきました。建設省建築指導課と接触を重ね準備を進めましたところ、指導課の梅田様からはエリートの団体を作るのは自由だが、関連諸団体と意見調整をしておくようにご注意を頂きました。早速、各団体に働きかけましたが、注文が付いたのは2団体でした。士会連合会からは会員が減らないよう求められました。これは早速会員に働きかけ、逆に少し増えることになりました。建築家協会は丹下会長にお会いした際に、「構造「家」は建設業者の社員が含まれる団体では使って欲しくないと強く指摘されました。皆と相談の結果、「構造技術者」との呼称と変えました。政界への働きかけもしました。斉藤建設大臣は青木豊さんのご親戚でした。法人化する時点では、片山局長は大学時代では村田さんの後輩で論文指導を担当した仲でし

たし、天野大臣は中曽根派秘書会各位と私は常に会う関係であり、掛貝さんは大臣のマージャン仲間でした。大臣室でお会いすると、さすがは政治家で理解が素早く感心致しました。目出度く法人化を認めていただき、片山局長のお立会いの下、証書を戴きました。構造家懇談会は8年で役目を終えました。

法人化の披露宴は帝国ホテルとし、盛会に開くことができました。法人化最初の1年のみ会長をして、私の役目を果たし終えたと思いつトタッチをしました。

「ここに記しました方々には、故人となられた方が多く居られますが、当時の職名とお名前を用いました。」

社会の変化と共に

技術の変化がもたらした問題は、何よりコンピューターの普及です。ついに、国が認証するソフトが出るに至りました。そこへ、経済性を追求することが重視される風潮が加速され、目的のためには手段を選ばない、それがどうゆう性能を持った構造となるかを考

える能力を失い、ソフトを操る能力があるだけの計算屋に成り果てる人が出るようになりました。構造家懇談会が目指したものは全く逆の人が、同じ職能者と見られる怖れが増えてきました。更に、国家資格となると資格試験の判定が機械的にできるような試験のみになる怖れがあります。会としてはどのようにそれを防ぐシステムを準備するかが、目下の問題でしょう。寺本さんがそのことを心配した文を出してくれていますから安心しましたが、構造家という職名は使わなくても、志は忘れないで欲しいと願っています。構造性能は建物に応じたものです。法令や規程類はどうしても画一的になります。それらのみで設計することは、設計者の責務を放棄したことです。そうならないように今後も努力を続けて行く必要を感じます。

技術以外の変化も大きく、国は消費者庁を作る時代です。ましてや、設計者は建主と同時に使用者・社会の方を向いているはずですが、構造設計者は如何でしょうか。例えば、耐震性能については使用者が求める性能について無関心な人が多いのではないのでしょうか。設計者の専門分野の中に閉じこもっては社会の信用は得られません。この件は第2回で、国際化が進む時代の対応を第3回で書きます。

最近のJSCA

最近のJSCAは社会への働きかけを活発にしていることに感心しています。こんなに積極的に働きかけ、また、社会に期待されていることは隔世の感であり、嬉しいことです。

会員資格をどうするか、充分議論してゆくことが重要でしょう。



社団法人日本建築構造技術者協会設立披露宴会場で(左より矢野、木村、山口、久徳)

図 JSCA機関紙「Structure」からの抜粋(2/2)

【見取り図・写真】



三愛ドリームセンター  
(出典：Wikipedia)



宮城県スポーツセンター  
(出典：Wikipedia)



バレスサイドビル  
(出典：Wikipedia)



船橋市中央卸売市場  
(出典：船橋市HP)



ポーラ五反田ビル  
(出典：Wikipedia)



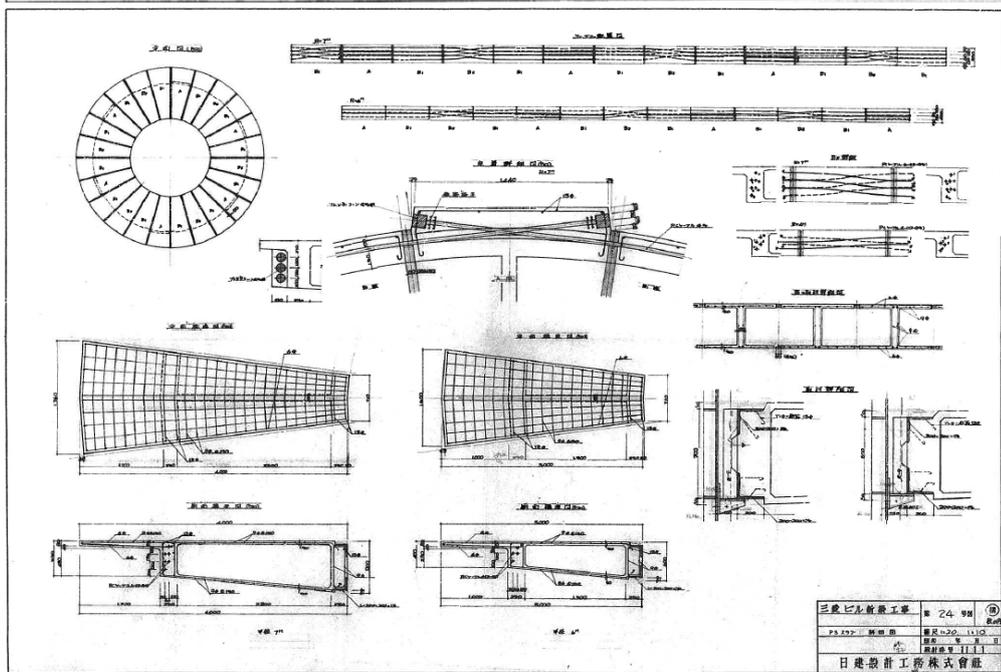
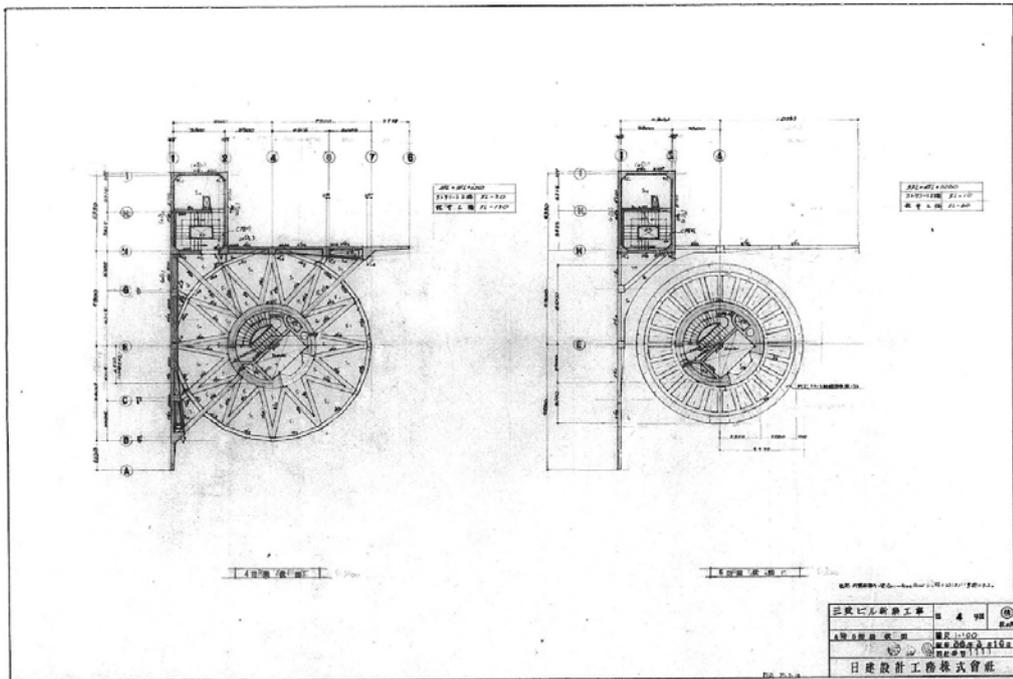
中野サンプラザ  
(出典：Wikipedia)



新宿住友ビル  
(出典：Wikipedia)

図 代表作品外観

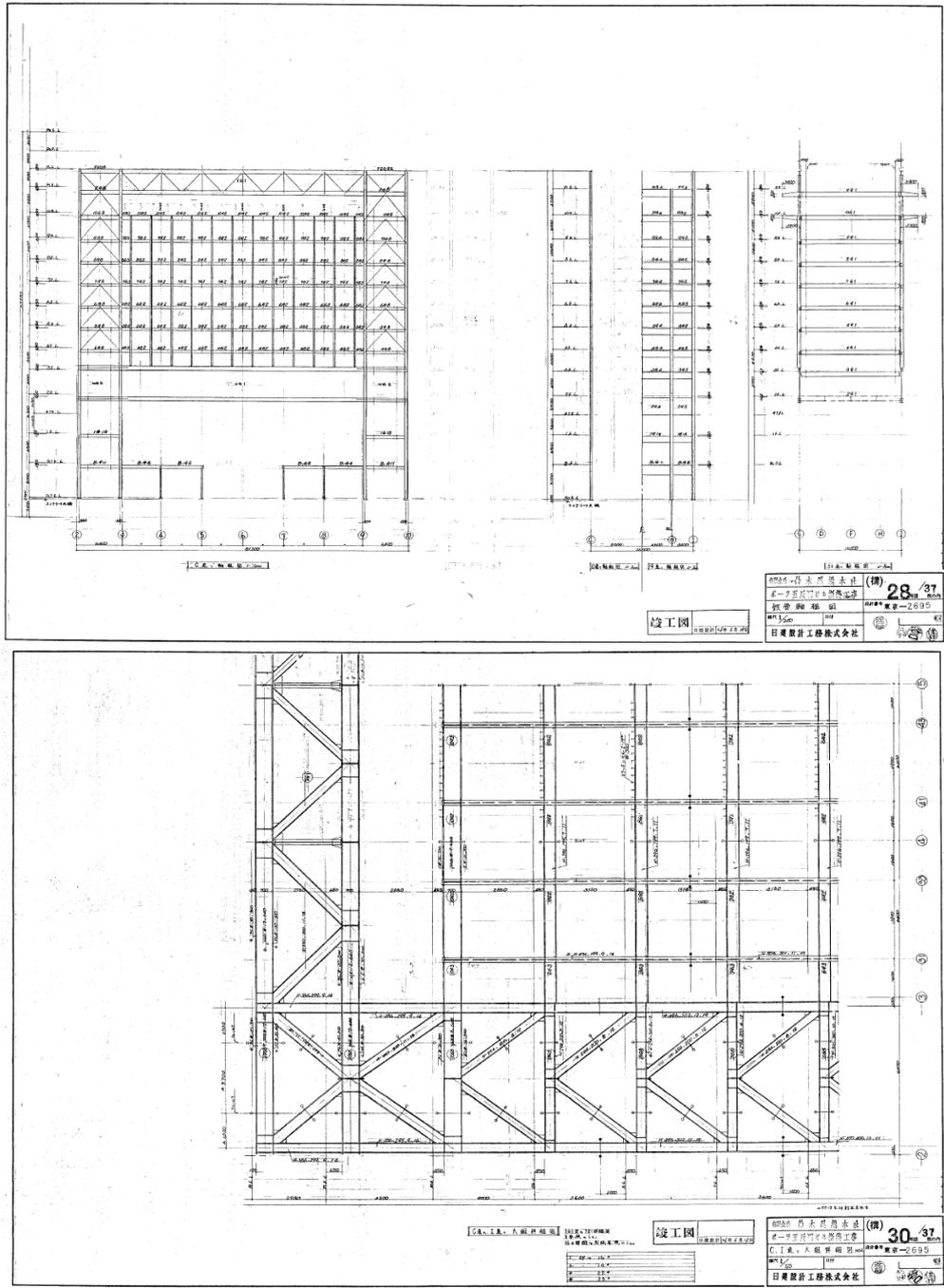
【見取り図・写真】



三愛ドリームセンター 構造図(一部)

図 保管資料(抜粋)

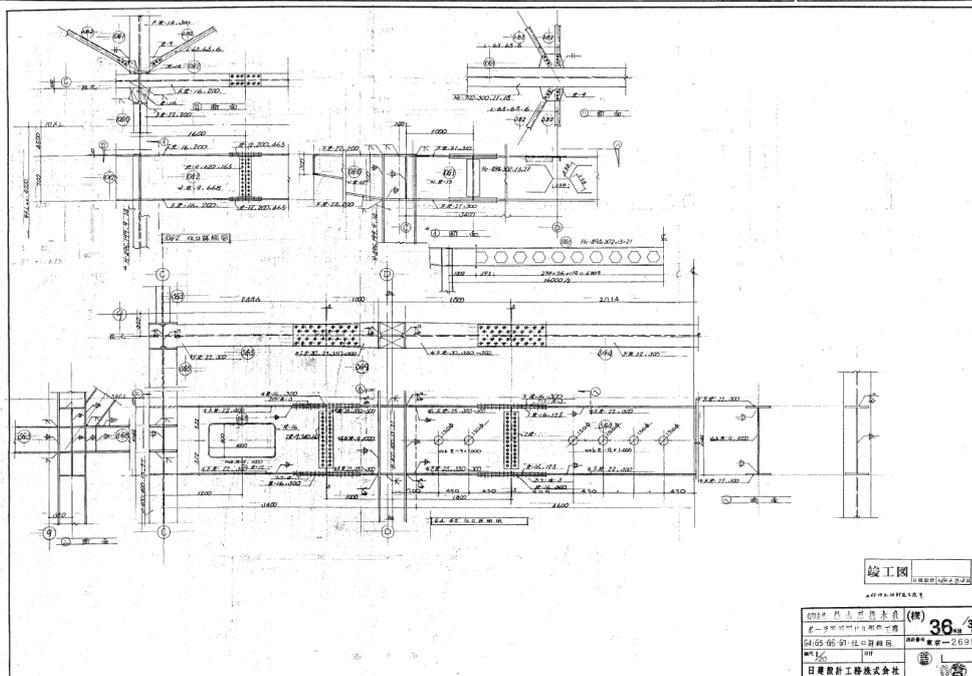
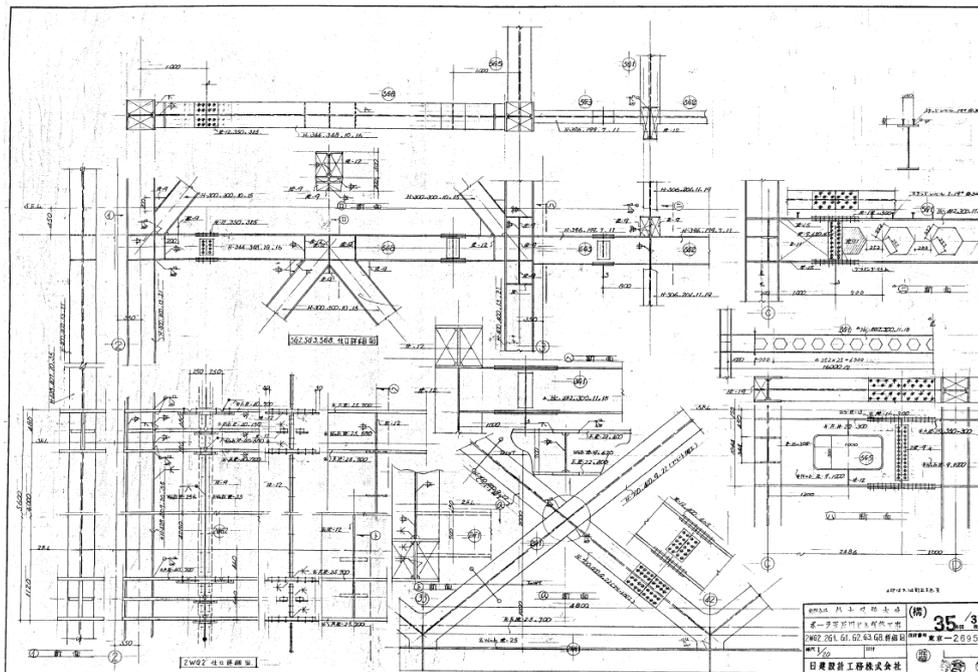
【見取り図・写真】



ポーラ五反田ビル 構造図(一部)①

図 保管資料(抜粋)

【見取り図・写真】



ポーラ五反田ビル 構造図(一部)②

図 保管資料(抜粋)

## 4.8

# 田中 彌壽雄

たなか やすお

1929年（昭和4年）～2014年（平成26年）



早稲田大学名誉教授。主に曲面構造や海洋構造の研究に従事する傍ら、内藤多仲のもと東京タワーや大阪通天閣、名古屋テレビ塔などの鉄塔の設計、個人事務所設立後には吉阪隆正の大学セミナーハウス本館、池原義郎の所沢聖地霊園礼拝堂、象設計集団の名護市庁舎、木島安史の球泉洞森林館など、多様な構造材料と構造形式をうまく取り混ぜた構造設計を行う。古建築についても造詣が深く、世界各地の遺跡調査を行なっている。

### ・年表

1929年（昭和4年）	東京都生まれ
1952年（昭和27年）	早稲田大学第一理工学部建築学科卒業
1954年（昭和29年）	早稲田大学大学院理工学研究科修士2年修了
1957年（昭和32年）	早稲田大学工業高等学校教諭
1962年（昭和37年）	工学博士
1965年（昭和40年）	早稲田大学理工学部建築学科講師
1966年（昭和41年）	同上 助教授
1970年（昭和45年）	同上 教授
1984年（昭和59年）	日本建築学会賞（論文）受賞
1999年（平成11年）	松井源吾賞受賞

### ・主な構造設計作品

大学セミナーハウス本館（1965）、大学セミナーハウス講堂（1967）、所沢聖地霊園礼拝堂（1973）、名護市庁舎（1981）、早稲田大学本庄高等学院（1983）、球泉洞森林館（1984）、早稲田大学所沢キャンパス（1985）

### ・主な著作

建築講座3 力学（彰国社1973）、建築構造力学概論（昭晃堂1975）、板構造の解析（彰国社1982）、力学と建物のかたち（建築技術1995）

#### 4.8.1 調査の概要

9/11（水）早稲田大学前田寿朗先生の研究室にて、田中研究室 OB の濱本卓司先生にヒアリングを行った。資料は全て田中先生のご自宅にあるとのことだが、お引越しの際に大方廃棄したとのことであった。平成 11 年 8 月、田中先生の退職ならびに古希祝いの際に、「田中彌壽雄研究室の足跡」（全 423 ページ）が出版されている。研究室論文と建築構造作品、古建築調査などが収録されている。また、「力学と建物のかたち」（建築技術 1995）内でも自身の設計作品について解説されている。

11/8（金）田中先生のご自宅地下倉庫にて、新谷と浜田で資料調査を実施した。駒沢公園近くの自宅兼事務所には資料が大量に保存されていたが、事務所閉鎖後、現在の田中先生宅に転居の際に、途中仮住まいのアパートに引っ越すため、一度大量に資料を廃棄し、田中先生他界後の一昨年 2017 年にも資料整理を行い、現在に至るとのことであった。また、稲門建築会でオーラルヒストリーを録画し、これが「早稲田建築アーカイブス：024 田中彌壽雄」として、YouTube で現在一般公開されている。本年度の調査内容の詳細について、次項以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

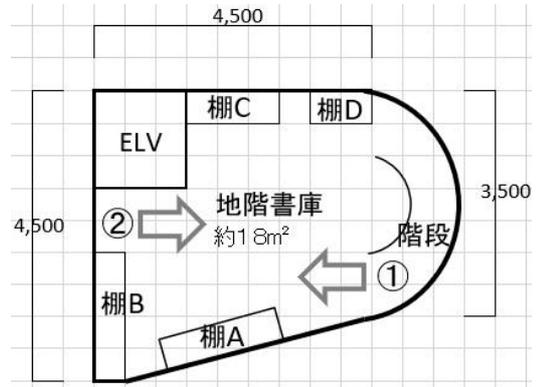
非公開 項目	番号	8-1	資料群名称	田中彌壽雄資料（田中彌壽雄氏宅）				調査年月日	令和元年11月8日		
							調査員	新谷, 浜田			
	1	所有者	田中彌壽雄氏夫人								
	2	管理者	濱本卓司								
	3	資料所在地	田中彌壽雄氏宅								
レ	4	管理責任者					連絡担当者				
	5	所有形態	寄贈	寄託	レ	当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	2011年、駒沢公園近くの自宅兼事務所から現在の自宅に移転する際、途中仮住まいのアパートに引っ越すため、一度大量に資料を廃棄。田中氏他界後の一昨年2017年に資料を整理を行い、現在に至る。								
	7	著作権保有者	田中彌壽雄氏夫人								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	<p>総量：構造図3件、構造計算書3件、スライドファイル30冊、書籍5冊</p> <p>管理方法：田中氏宅地下倉庫（約20m<sup>2</sup>）の4つの書架に収納されている。</p>								
	9	資料作成年代									
	10	主な資料種別	図面（原図）	レ	青焼き図面		スケッチ等	レ	構造計算書	実験関係書類	工事関係書類
模型				原稿	レ	書籍・雑誌		書類ファイル			
レ			写真・動画	レ	個人資料		マイクロフィルム				
図面デジタル				計算書デジタル		解析データ		実験データ			
その他（趣味の大相撲に関するスクラップブックなど）											
	11	含まれる 主なプロジェクト	名護市庁舎、輝北町星の降る里館、早稲田大学正門前整備工事、高幡山金剛寺五重塔								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：							
レ			非公開	非公開の理由：個人宅のため							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考									
	17	調査結果公開の可否	可	不可	レ	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）					
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	可	不可							

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



田中氏宅



地下倉庫



①



②



棚A

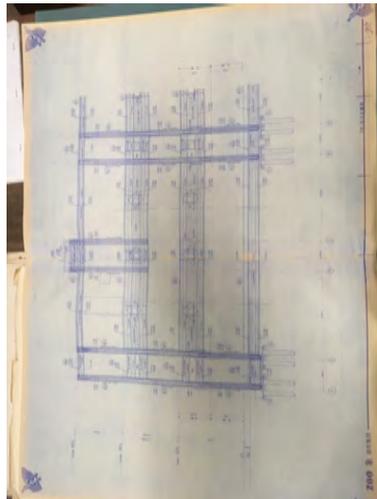


棚B



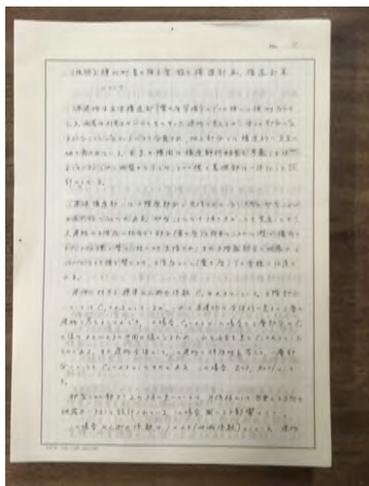
棚C

図面



名護市庁舎構造図

構造図



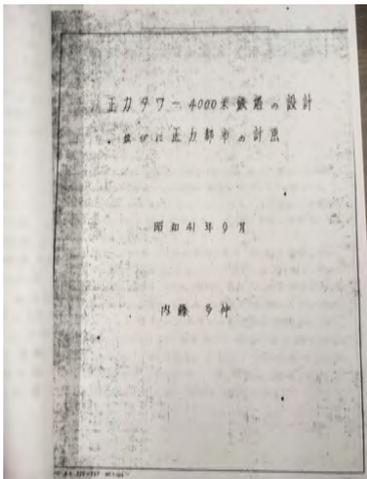
星の降る里館 構造計算書

スライド



近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

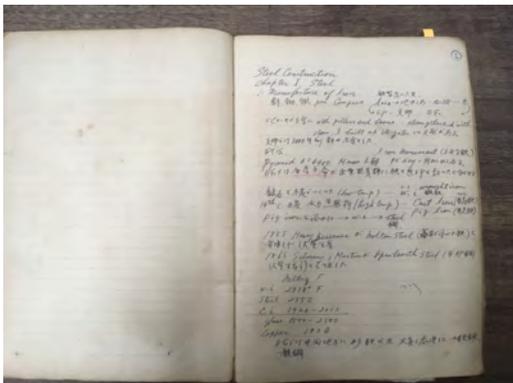
その他



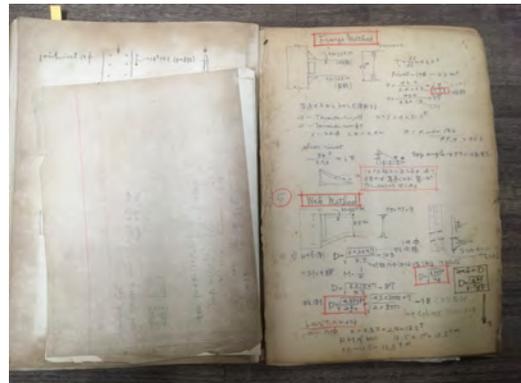
内藤多仲 正カタワー-4000m鉄塔の設計



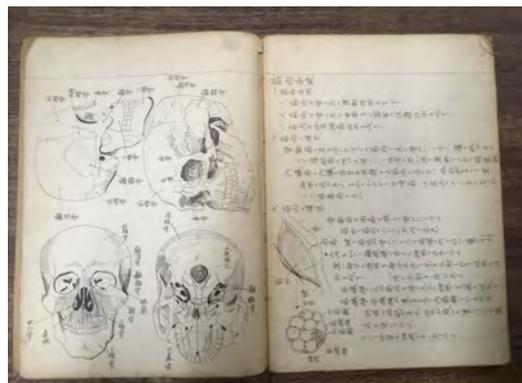
著書



大学時代のノート 内藤多仲 鉄骨構造 講義



高校時代のノート 生物



## 4.9

### 村田 義男

むらた よしお

1933年（昭和8年）～



山下寿郎設計事務所に所属時から、日本初の超高層ビルである霞が関ビルディングの構造設計担当者として参加し、その後、日本設計事務所（現：日本設計）を創立したメンバーの一人。日本設計事務所時代には、三井記念病院、東京日産自動車販売本社、新宿三井ビルディングなど、多くの超高層ビルの礎となる作品に携わった。1981年に構造家懇談会（現：日本建築構造技術者協会）を立ち上げるなど、組織的な活動も行った。

#### ・年表

1933年（昭和8年）	東京都生まれ
1956年（昭和31年）	東京大学卒（武藤研究室）
1961年（昭和36年）	東京大学大学院博士課程修了（武藤研究室）
1961年（昭和36年）	山下寿郎設計事務所 入社
1967年（昭和42年）	日本設計事務所 創立メンバー
1974年（昭和49年）	同 構造設計室長
1977年（昭和52年）	同 取締役
1982年（昭和57年）	同 海外業務室長、九州事務所長
1984年（昭和59年）	同 常務取締役
1989年（平成元年）	同 専務取締役
1991年（平成3年）	日本建築構造技術者協会 会長
1992年（平成4年）	日本設計 副社長
1993年（平成5年）	同 副会長
2000年（平成14年）	同 退職

#### ・主な構造設計作品

岩手県庁舎（1965），日本鋼管福山製鉄所雨天荷役設備上屋（1966），霞が関ビルディング（1968），三井記念病院（1970），東京日産自動車販売本社（1971），新宿三井ビルディング（1974），新呉服橋ビルディング（1977），熱帯ドリームセンター（1984）

#### ・主な著作

「建築デザインと構造計画 新耐震設計法の理解と応用のために」（共著、1982），「新しい耐震設計講座 鋼構造の耐震設計」（編、1984），JSCA 機関誌『Structure』原稿多数

#### 4.9.1 本年度調査の概要

在籍していた日本設計および山下設計に保管されている資料を確認した。日本設計には霞が関ビルディング、新宿三井ビルをはじめとし、携わった作品の設計図や、執筆した文献等が保管されていることが確認された。また、2015年には、日本設計創立50周年記念事業の一環として本人にインタビューを行っており、日本設計在籍当時の話を記録している。山下設計には、山下寿郎設計事務所研究室ニュースや技報に霞ヶ関ビルディングの構造設計・動的解析についての記事がpdfデータで保存されている。

また、社団法人日本建築構造技術者協会（JSCA）機関誌『Structure』で多数の原稿を執筆している為、記事のタイトルをリストアップした。

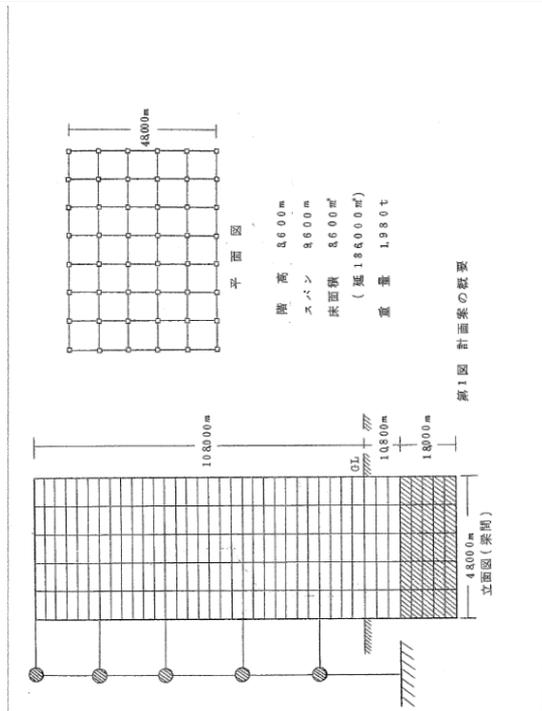
以上調査内容の詳細については次頁以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	9-1	資料群名称	村田義男資料（山下設計）				調査年月日	令和2年1月8日	
							調査員	塩手 博道		
	1	所有者	株式会社山下設計 構造設計部							
	2	管理者	塩手博道							
	3	資料所在地	東京都中央区日本橋小網町6番1号							
	4	管理責任者	氏名：塩手博道 役職：構造設計部長	連絡担当者	氏名：塩手博道 役職：構造設計部長 TEL：03-3249-1506 E-mail:shiote@yamashitasekkei.co.jp					
	5	所有形態	寄贈	寄託	<input checked="" type="checkbox"/> 当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	山下寿郎設計事務所在籍時より同社内に所蔵。							
	7	著作権保有者								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	総量：8.23MB 形態：PDFデータ 管理方法：社内で保管(社内向けに貸出を行う)							
	9	資料作成年代								
	10	主な資料種別	図面（原図）	青焼き図面	スケッチ等	<input checked="" type="checkbox"/> 構造計算書	<input checked="" type="checkbox"/> 実験関係書類	工事関係書類		
			模型	原稿	<input checked="" type="checkbox"/> 書籍・雑誌	書類ファイル				
			写真・動画	個人資料	マイクロフィルム					
			図面デジタル	計算書デジタル	解析データ	実験データ				
			その他（山下寿郎設計事務所 研究室ニュース、技報）							
	11	含まれる 主なプロジェクト	霞が関ビル							
	12	廃棄した資料								
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：						
			<input checked="" type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由：						
	14	展覧会の実績	展覧会名称：							
	15	出版物の制作								
	16	備考	・霞が関ビルに関する設計関連記事（山下寿郎設計事務所 研究室ニュース、技報）							
	17	調査結果公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）					
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	可	不可						

・資料タイトルリスト

年	月	タイトル
1963	4	山下寿郎設計事務所 研究室ニュース：霞ヶ関三井ビル（仮称）計画案の動的解析について
1963	6	山下寿郎設計事務所 研究室ニュース：霞ヶ関三井ビル計画案の動的解析について その2
1963	8	山下寿郎設計事務所 研究室ニュース：霞ヶ関三井ビル計画案の動的解析について その3
1963	10	山下寿郎設計事務所 研究室ニュース：霞ヶ関三井ビル計画案の鉄骨仕口の模型実験について
1967	2	山下寿郎設計事務所技報：三井霞ヶ関ビルの構造設計〈上〉、〈下〉



研究室ニュース：霞ヶ関三井ビル計画案の動的解析について（抜粋）

昭和38年6月  
S 8-a-2  
630607 No4

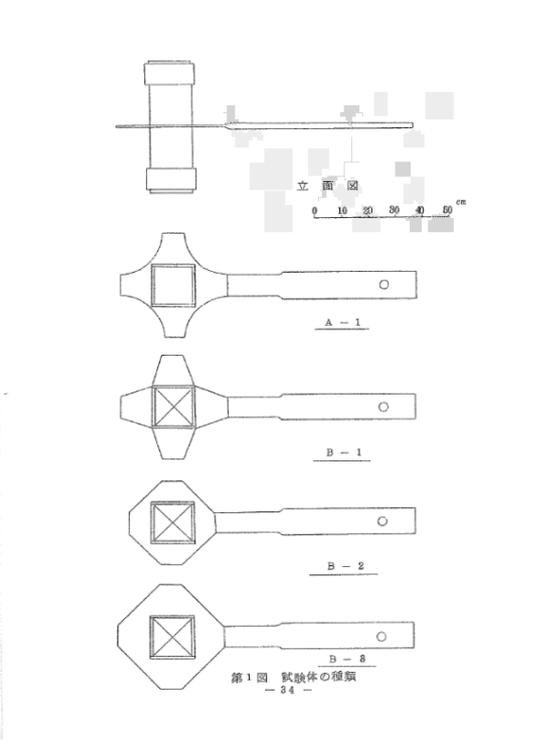
霞ヶ関三井ビル計画案の動的解析について その2  
三井ビル高層化委員会構造分科会  
村田 義 男  
前報に引きつづいて、現在設計中の霞ヶ関三井ビルの耐震設計のために  
行なっている計画案に対する動的解析について述べる。今回は前報に述べ  
た解析結果を動的耐震設計の立場から検討する。

**動的な耐震設計法** 構造物の動的特性を考慮した設計法、いわゆる動的  
設計法に關しては従来多数の研究がなされており、学会その他に発表され  
ている。それら動的な設計法の手順は概略次の通りである。

- 1 適当な静的荷重（初期設計荷重）を仮定して構造設計を行ない、部  
材断面をきめる。
- 2 その断面によって、剛性、終局強度、固有周期——などの動特性を  
求める。
- 3 適当な外力に対して動的解析を行なつて、その応答として各層層間  
相対変形、各層せん断力係数などを得る。
- 4 その結果と仮定した条件とを比較して、必要ならば仮定荷重の変更、  
断面の変更、あるいは細部の補強を行なつて計算をやり直す。
- 5 変形に対して各部の安全性の検討を行なう。

動的な耐震設計を行なう場合にまず問題になるのは、どんな地震荷重に  
対して安全であればよいかということである。地震荷重を示す量に変位、  
速度、加速度といろいろある。またそれらの波形状にもいろいろある。  
実際に記録された地震の波形状から、電気的雑音（ホワイトノイズ）正弦波、

研究室ニュース：霞ヶ関三井ビル計画案の動的解析についてその3（抜粋）



研究室ニュース：霞ヶ関三井ビル計画案の鉄骨仕口の模型実験について（抜粋）

超高層シリーズ ⑤  
1967年2月20日 No24

### 三井霞ヶ関ビルの構造設計

<上>

安 藤 平<sup>1</sup> 梶 野 剛<sup>2</sup>  
村 田 義 男<sup>3</sup> 下 城 次 郎<sup>4</sup>  
八 巻 昭<sup>5</sup>

**I. まえがき**  
長期間におたる基本的な検討がなされてきた霞ヶ関ビルも、設計方針がほぼ決定して、いよいよ実施設計がまねられる段階に達した。地盤部分の工事も進行してすなわち、間もなく鉄骨第1柱の建方が開始される予定である。実施設計にふみ切るまでには、幾多の折衷案があった。構造設計の内容を紹介するにあたって、過去の経過を振り返ってみると、おもしろい設計に関係した者として、誠に感慨深いものがある。

このビルが高層建築として計画される以前に、現在の敷地の一部に9階建てのビルを建てることが一応決まっていた。その実施設計も完了して、着工するまでになっていた。昭和59年から36年にかけてのことである。その直後に敷地に現在の規模に拡張されて、改めて計画がやり直されることになった。この頃、東京都の高層化計画の研究等がすすめられて、いわゆる超高層問題が建築界の話題になり始めていた。霞ヶ関ビルについても、9階建ての低いビルを建てるとは、高層化して周辺に空境を残す方が、適切な計画でないかとの反省がなされ、検討の結果、とにかく高層ビルを建設する方針がきまった。

どの程度の階数にするかという問題になった。各種階数のモデルプランについて、構造試験が始められたのが昭和59年である。最初は16階建てくらいで、鉄骨吹抜コンクリート構造にすれば、堅実な建築物を比較的早期に建てることができるという考えがあった。高層部を挿入された16階建ての試算に力が注がれたが、同時に3階～5階の地盤の構造的可能性についても研究をはじめることになった。こうした階数別各案の比較資料として、計画的な検討結果を踏まえて、約30階のビル地盤にふみ切ることが決まったのは、昭和59年に入ってからである。

昭和59年～40年には階数を30階程度にして、柱や部材形式は相対する敷地が比較検討された。初期段階ではアチーブ計画によって、ついでデジタル計画を参照して、地盤も若干種類が提出された。この程度のビルが充分だとの評価を関係者全員がもつようになった。階数は計画が具体化するにつれて若干増加した。最終的には36階になった。またオフィス型間に柱を残さないために、初期の9.6m均等柱間の案を捨てて、16m

山下寿郎設計事務所技報：三井霞ヶ関ビルの構造設計（抜粋）

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開項目	番号	9-2	資料群名称	村田義男資料（日本設計）				調査年月日	令和1年12月17日
							調査員	小林 秀雄	
	1	所有者	株式会社日本設計 構造設計群						
	2	管理者	小林秀雄						
	3	資料所在地	東京都新宿区西新宿6-5-1新宿アイランドタワー29階						
	4	管理責任者	氏名：小林秀雄 役職：構造設計群長	連絡担当者	氏名：小林秀雄 役職：構造設計群長 TEL：050-3139-6738 E-mail:kobayashi-h@nihonsekkei.co.jp				
	5	所有形態	<input type="checkbox"/> 寄贈	<input type="checkbox"/> 寄託	<input checked="" type="checkbox"/> 当初から所蔵	<input type="checkbox"/> その他			
	6	資料の来歴	日本設計在籍時より同社内に所蔵。						
	7	著作権保有者							
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	総量：段ボール箱数箱 形態：社内書棚、外部倉庫 管理方法：社内で保管(社内向けに貸出を行う)						
	9	資料作成年代							
	10	主な資料種別	<input checked="" type="checkbox"/> 図面（原図）	<input checked="" type="checkbox"/> 青焼き図面	<input type="checkbox"/> スケッチ等	<input type="checkbox"/> 構造計算書	<input type="checkbox"/> 実験関係書類	<input type="checkbox"/> 工事関係書類	
<input type="checkbox"/> 模型			<input type="checkbox"/> 原稿	<input checked="" type="checkbox"/> 書籍・雑誌	<input type="checkbox"/> 書類ファイル				
<input type="checkbox"/> 写真・動画			<input type="checkbox"/> 個人資料	<input type="checkbox"/> マイクロフィルム					
<input type="checkbox"/> 図面デジタル			<input type="checkbox"/> 計算書デジタル	<input type="checkbox"/> 解析データ	<input type="checkbox"/> 実験データ				
その他（日本設計創立50周年記念事業インタビュー 記事 社内ポータル版）									
	11	含まれる 主なプロジェクト	霞が関ビル、新宿三井ビル、その他構造設計関連論文、雑誌原稿						
	12	廃棄した資料							
	13	公開の状況	<input type="checkbox"/> 公開	主な公開資料：					
			<input checked="" type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由：					
	14	展覧会の実績	展覧会名称：						
	15	出版物の制作							
	16	備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・霞が関ビル他、図面（原図・青図）</li> <li>・設計関連書籍、論文、雑誌原稿</li> <li>・日本設計創立50周年記念事業インタビュー 記事 (・JSCA『Structure』記事はJSCAにて保管しているが、記事タイトルをリスト化した。)</li> </ul>						
	17	調査結果公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）				
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可					

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

・震が関ビル他、図面（原図）リスト

タイトル/その他	種類コード	タイトル/その他	種類コード
		ZUK197012-1-1新館三井ビル①店舗増築②1階客用便所改修 竣工図（建築・電気・空調・給排水・防災）	図面 原図
		ZUK197012-1-1(SMB)新館三井ビル 竣工図（サウン計画 スياج屋上構造図） 71012 1/1	図面 原図
ZUK1972047-1-1新館原簿ビル新築 竣工図（建） 7047 1/2	図面 原図	ZUK1967011-1-1東日ビル 竣工図（構） 67011 3/8	図面 原図
ZUK1972047-2-1新館原簿ビル新築 竣工図（構） 7047 2/2	図面 原図	ZUK1967011-1-1東日ビル 竣工図（建(L)) 67011 1/8	図面 原図
ZUK1972052-1-1新館原簿ビル2期工事 竣工図（建・構） 7202 1/1	図面 原図	ZUK1967011-1-1東日ビル 竣工図（建(H)) 67011 2/8	図面 原図
ZUK1971012-3-SMB本工事 竣工図（建：低(1071~1131)) 71012 3/9	図面 原図	ZUK1971012-2-SMBテナント工事 竣工図（建高(001~067)) 71012 2/17	図面 原図
ZUK1971012-2-SMB本工事 竣工図（建：低(1020~1070)) 71012 2/9	図面 原図	ZUK1971012-1-SMBテナント工事 竣工図（建低(001~073)) 71012 1/17	図面 原図
ZUK1971012-9-SMB本工事 竣工図（構(2525~2560)) 71012 9/9	図面 原図	ZUK1971012-0新館三井ビル 竣工図（構 最大FG） 71012	図面 原図
ZUK1971012-8-SMB本工事 竣工図（構(2150~2524)) 71012 8/9	図面 原図	ZUK1971012-1-SMB本工事 竣工図（建・板・低(1001~1019)) 71012 1/9	図面 原図
ZUK1971012-6-SMB本工事 竣工図（建(1132~1210, 1250~1278)) 71012 4/9	図面 原図		
ZUK1971012-7-SMB本工事 竣工図（構(2000~2149)) 71012 7/9	図面 原図		
ZUK1971012-5-SMB本工事 竣工図（建：高(1501~1560)) 71012 5/9	図面 原図		
ZUK1971012-8-SMB本工事 竣工図（建：高(1561~1623)) 71012 6/9	図面 原図		
ZUK1971012-0新館三井ビル 設計図（2階配線設備設計図） 71012	図面 原図		
ZUK1972047-1-1新館原簿ビル(配分) 竣工図（仕様書） 7047 1/1	図面 原図		

・設計関連書籍、論文、雑誌原稿リスト



・日本設計創立50周年記念事業インタビュー 記事 : 日本設計社内ポータルからのみ閲覧可能

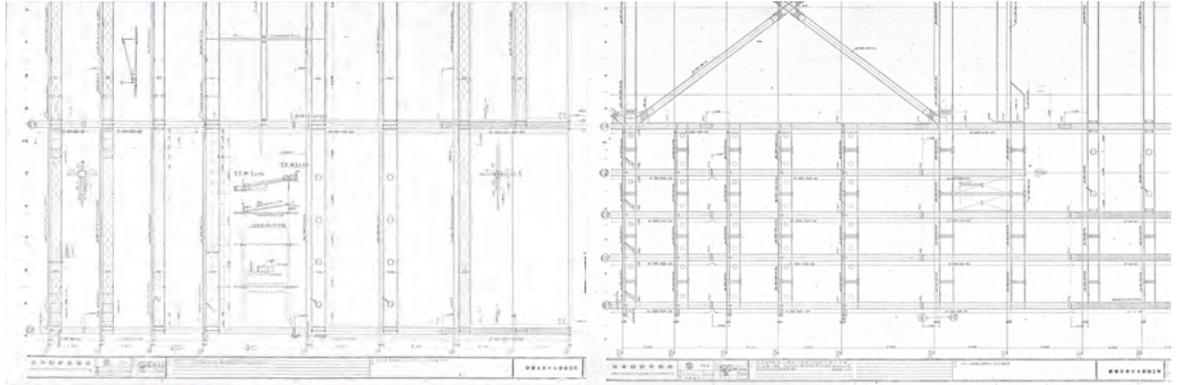
・JSCA『Structure』記事 タイトルリスト : JSCAにて保管

No.	年	月	タイトル
136	2015	10	◇追悼 山口昭一さんを偲んで
132	2014	10	第2章/社会の変遷とJSCA 2.あのこと
98	2006	4	主集 「JSCA活動への提言」 ◆委員会活動の紹介と展望 7. 構造レビュー委員会
63	1997	7	退任の言葉◇6年間を振り返って
62	1997	4	主集 阪神・淡路大震災 JSCA提言 アクションプログラム /はじめに◇地震のたびに高い授業料を払うのはよそう
57	1996	1	主集 阪神・淡路大震災 1年を経て 構造技術者からの提言 /提言にあたって 一社会の皆様と共に一
41	1992	1	巻頭言◇時の流れの中に
25	1988	1	巻頭言◇構造設計の国際化
19	1986	7	主集 RC超超高層建築 /歴史と現況
11	1984	7	主集 日米耐震設計協議会第1回 ハワイ会議報告 /ホノルルまでの400日 /構造設計実例紹介: オフィスビル
10	1984	4	速報◇日米耐震設計協議会 (第1回・ハワイ会議)
7	1983	7	日本海中部地震・速報◇日本海中部地震現地調査一速報一
2	1982	1	パネル・ディスカッション(第1回)◇新耐震設計法における外力評価、耐力評価について ※パネリスト

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

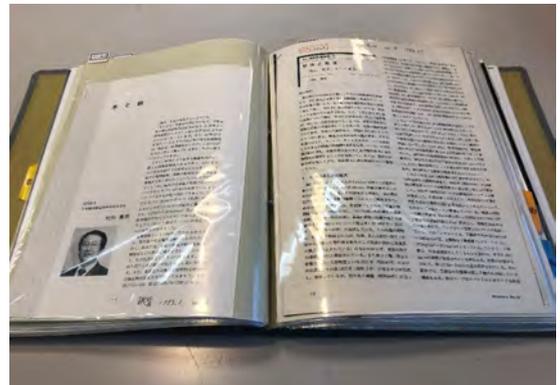
【見取り図・写真】

・新宿三井ビルの構造図



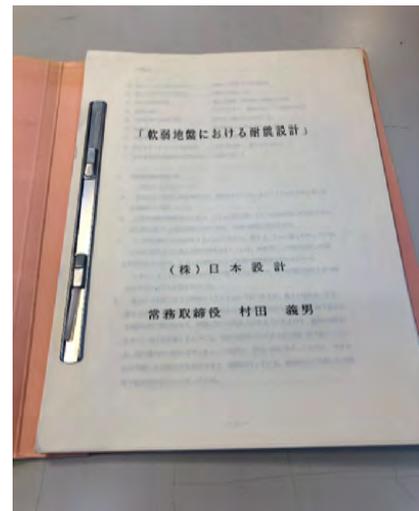
・日本設計社内保管書籍、論文、雑誌原稿等

・雑誌等の執筆記事のコピー（ファイルにて社内書庫保管）



・新訂 建築学大系 超高層設計事例 ※霞が関ビル

・「軟弱地盤における耐震設計」 ※社内保管原稿



## 4.10

# 播 繁

ばん しげる

1938年（昭和13年）～2017年（平成29年）



鹿島建設の設計部門 KAJIMA DESIGN を率い、数々の構造デザインの名作を1980～1990年代に生み出した構造家。鋼構造・木質構造と膜構造を自在に組み合わせた空間構造で多くの著名な作品を生み出した一方、高層建物の構造デザインでも多くの作品を有する。1998年に独立後も木質構造を中心に様々な規模・形式の構造デザイン作品を生み出す一方、日本構造家倶楽部等を通じ若手構造家の支援・教育にも熱心に取り組んだことでも知られる。1997年に日本建築学会賞（業績）、2008年に日本建築家協会賞を受賞した他、多くの作品賞を受賞している。

### ・年表

1938年(昭和13年)	福岡県生まれ
1963年(昭和38年)	日本大学理工学部建築学科卒業 鹿島建設入社
1980年(昭和55年)	鹿島建設技術長
1982年(昭和57年)	赤坂プリンスホテル新館 構造設計
1984年(昭和59年)	両国国技館 構造設計
1986年(昭和61年)	小堀鐸二研究所兼務
1989年(平成元年)	鹿島建設副部長、その後 KAJIMA DESIGN 構造設計部長
1990年(平成2年)	あきたスカイドーム 大阪東京海上ビルディング 出雲ドーム 構造設計
1991年(平成3年)	鹿島設計・エンジニアリング総事業本部長
1996年(平成8年)	フジテレビ本社ビル 長野オリンピック記念アリーナ(Mウエーブ) 構造設計
1997年(平成9年)	日本建築学会賞(業績)「出雲ドームを始めとする一重膜建築の開発」 受賞
1998年(平成10年)	播設計室設立
2008年(平成20年)	日本建築家協会賞「沖縄県立博物館・美術館」 受賞

### ・主な構造設計作品

赤坂プリンスホテル新館（1982）、両国国技館（1984）、あきたスカイドーム（1990）、大阪東京海上ビルディング（1990）、出雲ドーム（1990）、フジテレビ本社ビル（1996）、長野オリンピック記念アリーナ（Mウエーブ）（1996）、山梨県小瀬スポーツ公園アイスアリーナ（2000）、愛媛県武道館（2003）、一の宮町農産物加工場「工房 阿蘇ものがたり」（2003）、沖縄県立博物館・美術館（2007）、AKASAKA K-TOWER（2012）

### ・主な著作

構造デザインとは何か...The Art in Structural Design（2001、監訳）

#### 4.10.1 本度調査の概要

播繁氏関連の資料は播繁氏が最後に活動拠点とした（株）エヌ・シー・エヌの技術開発部 伊東洋路氏がダンボール 20 箱分を外部倉庫に保管しており、竹内徹・佐々木睦朗・桐原武志委員、池田昌弘氏、東京工業大学学生 3 名が 2019 年 10 月 30 日～11 月 1 日にわたって断続的に同社を訪問し、各ダンボール箱に残された資料の閲覧、写真撮影およびリスト化を実施した。箱の一つには CD-ROM 約 100 枚余を中心としたデジタルデータが収められており、11 月 1 日～15 日の間、東京工業大学竹内研究室内でこれら CD 類の内容の確認およびリスト化を行った。

以上の調査内容の詳細について、次項以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	10-1	資料群名称	播 繁 資 料				調査年月日	令和元年10月30-31日
							調査員	竹内・佐々木・桐原	
	1	所有者							
	2	管理者							
	3	資料所在地							
	4	管理責任者		連絡担当者					
	5	所有形態	寄贈	寄託	<input checked="" type="checkbox"/> 当初から所蔵	その他			
	6	資料の来歴							
	7	著作権保有者							
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)							
	9	資料作成年代							
	10	主な資料種別	図面 (原図)	青焼き図面	スケッチ等	構造計算書	実験関係書類	工事関係書類	
模型			原稿	書籍・雑誌	書類ファイル	図面 (第二原図)			
写真・動画			個人資料	マイクロフィルム					
図面デジタル			計算書デジタル	解析データ	実験データ				
その他 ( )									
	11	含まれる 主なプロジェクト							
	12	廃棄した資料							
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：					
			非公開	非公開の理由：会社外倉庫に保管中のため					
	14	展覧会の実績	展覧会名称：						
	15	出版物の制作							
	16	備考							
	17	調査結果公開の可否	可	<input checked="" type="checkbox"/>	不可	部分的に可 (公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック)			
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否		<input checked="" type="checkbox"/>	可	不可			

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート


近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

--	--

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

--	--

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

--	--

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

--	--

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

--	--

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

--	--

## 4.11

# 渡辺 邦夫

わたなべ くにお

1939年（昭和14年）～



構造設計集団<SDG>代表。大学卒業後、横山建築設計事務所・木村俊彦構造設計事務所を経て構造設計集団<SDG>設。代表作に東京国際フォーラム・幕張メッセ・横浜大榎橋旅客ターミナルなどがあるが、国内だけにとどまらず、国外においても佛山嶺南明珠體育館やウルサンムンスサッカースタジアムなど独自の構造デザインスタイルを貫いたプロジェクトを数多く実現している。作品のみならず、構造設計者の地位向上や構造デザインの面白さを普及させるための著書や活動を幅広く行い、SDGから多くの構造家を輩出している。

### ・年表

1939年（昭和14年）	東京生まれ
1963年（昭和38年）	日本大学理工学部建築学科卒業，横山建築設計事務所
1964年（昭和39年）	木村俊彦構造設計事務所
1969年（昭和44年）	構造設計集団<SDG>設立

### ・主な構造設計作品

武蔵大学キャンパス再開発（1982），幕張メッセ（1989），東京国際フォーラム（1996），都立晴海総合高等学校・都立短期大学（1996），幕張メッセ北ホール（1997），横浜港大さん橋国際客船ターミナル（2002）

### ・主な著作

鉄骨造の設計と施工（1998），飛躍する構造デザイン（2002），魅せる力学（2002），FACADE ENGINEERING（2003），Perfect Collection -知られざるPC建築-（2004）

#### 4.11.1 調査の概要

渡辺邦夫氏の資料は全て東京大学生産技術研究所腰原研究室に保管されている。本年度は渡辺氏に資料の所在を確認し、腰原研究室以外に保管資料はないことを確認し、資料の整理から始まった。資料は添付のとおりで各プロジェクトはファイリングされている。プロジェクト資料以外にも毎年の日記も保管されており日記からプロジェクトの進捗やアイデアがどのように生まれてきたのかが理解でき、非常に貴重な資料である。この資料調査にてほぼすべての資料は確認できた。

調査内容の詳細について、次項以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

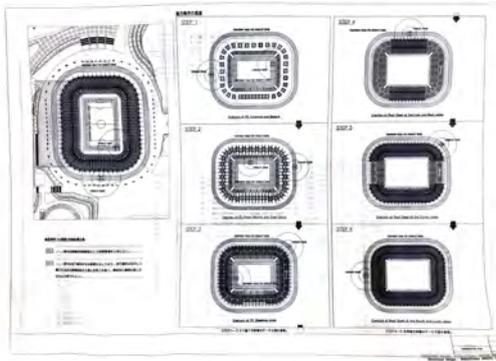
非公開 項目	番号	11-1	資料群名称	渡辺 邦夫			調査年月日	令和元年9月27日
							調査員	伊藤潤一郎
	1	所有者	東京大学生産技術研究所 腰原研究室内					
	2	管理者	腰原幹雄					
	3	資料所在地	〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学生産技術研究所 Ce406					
	4	管理責任者	氏名：腰原幹雄 役職：東京大学生産技術研究所・教授	連絡担当者	氏名：中村美穂 役職：kplus TEL：03-5452-6842 E-mail:			
	5	所有形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寄贈	<input type="checkbox"/> 寄託	<input type="checkbox"/> 当初から所蔵	<input type="checkbox"/> その他		
	6	資料の来歴	構造設計集団（SDG）の事務所資料を浅草事務所から腰原研究室内に移動。					
	7	著作権保有者						
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	資料としてはSDGに保管されていた構造計算書・構造図・写真・模型・書物があり、保管物の詳細はリストを参照。プロジェクト数400以上に対して100以上のプロジェクトに関する資料が保管されている。保管状況はプロジェクトごとにファイリングされ、明確な状況である。電子データも多く保管されて、渡辺氏の日記についての大半は原本をデジタルデータ化したものも存在している。パネルについては部分的に処分をする予定である。					
	9	資料作成年代						
	10	主な資料種別	<input checked="" type="checkbox"/> 図面（原図）	<input type="checkbox"/> 青焼き図面	<input checked="" type="checkbox"/> スケッチ等	<input checked="" type="checkbox"/> 構造計算書	<input checked="" type="checkbox"/> 実験関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 工事関係書類
			<input checked="" type="checkbox"/> 模型	<input checked="" type="checkbox"/> 原稿	<input checked="" type="checkbox"/> 書籍・雑誌	<input checked="" type="checkbox"/> 書類ファイル		
			<input checked="" type="checkbox"/> 写真・動画	<input checked="" type="checkbox"/> 個人資料				
			<input checked="" type="checkbox"/> 図面デジタル	<input checked="" type="checkbox"/> 計算書デジタル	解析データ	実験データ		
			その他（パネル）					
	11	含まれる 主なプロジェクト	幕張メッセ・国際フォーラム他					
	12	廃棄した資料						
	13	公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	主な公開資料：すべて				
			<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由：				
	14	展覧会の実績	展覧会名称：					
	15	出版物の制作	名称：知られざるPC建築—Perfect Collection（2004年7月、建築技術）、飛躍する構造デザイン（2002年9月、学芸出版社）					
	16	備考						
	17	調査結果公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）			
	18	（17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可				

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

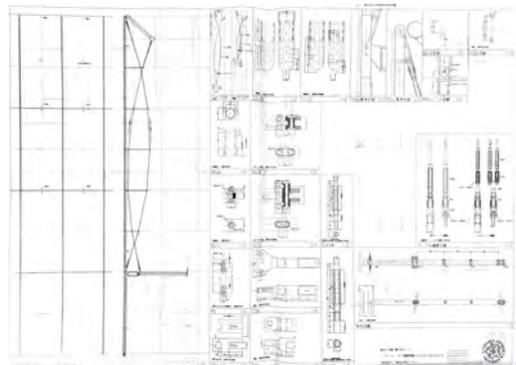
保管状況



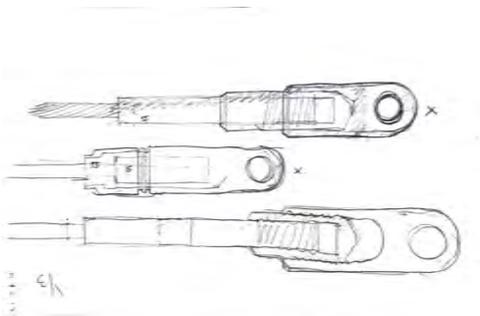
図面 スケッチ



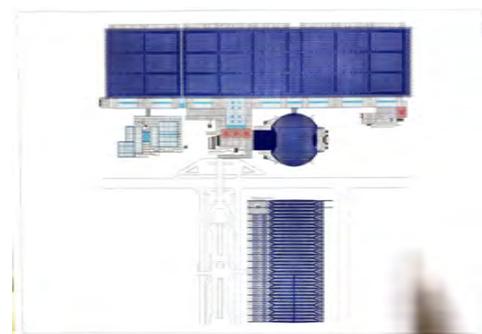
ウルサン総合体育場 原図



熊谷文化センター



スケッチ



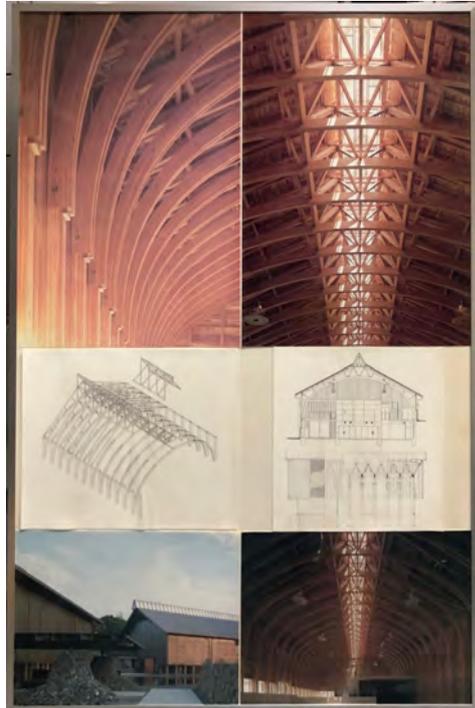
幕張メッセ

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

パネル



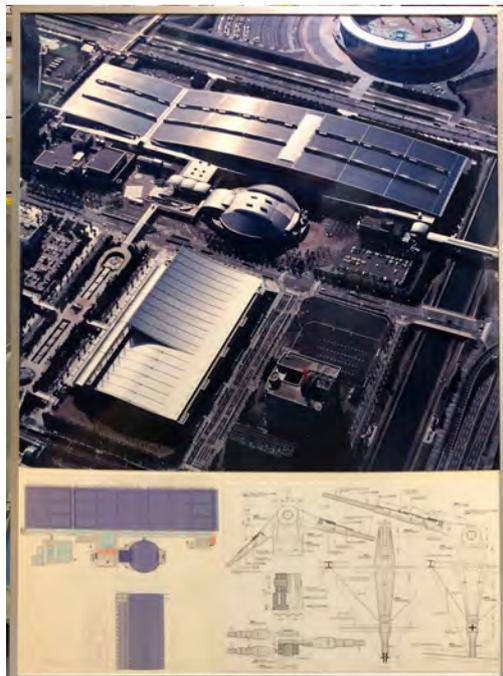
横浜港大さん橋国際客船ターミナル



海の博物館



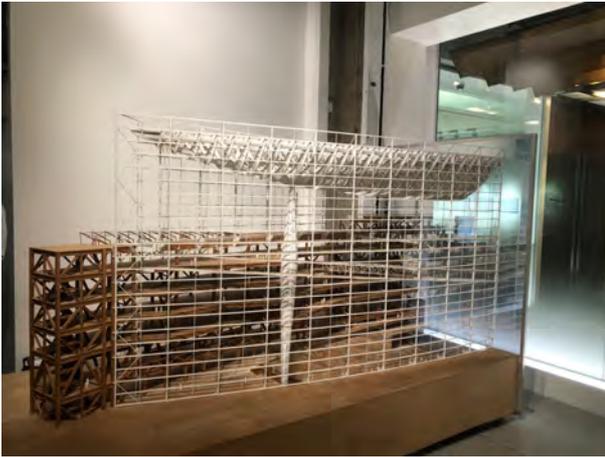
東京国際フォーラム



幕張メッセ

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

その他



December 12月 1988 — January 1月 1989

26 Monday 正月休暇中の 恩恵 整理事項  
 1. 新国社 新有造の設計と設計 輸送の仕組み  
 1/17 新国社 中山の建築 ↓ 構造を練る

2. 建築院 尾谷さん  
 3号 構造でデザイン 400坪 6枚半  
 X30 1A12B  
 内外の対応、近中築ととらえこ

3. TSCA 設計と不安の 企画  
 1月20日 念台

27 Tuesday  
 4. JSCA 構造計画協会 活動構想  
 2月2日 飯沼さん

5. structure No.30 構造自由自在  
 空の空間を <-----> 執筆  
 創造工事... 杉原

6. 高橋 建築の心と魂の設計  
 地球工学

7. JSCA 耐久性能協会 活動構想

● 精進 ヒロシキ  
 1. 組織の作業 1人の責任は責任  
 2. 他人の作業を助ける作業 責任  
 3. 安全と責任の作業 責任  
 4. 自由空間は他人の責任の作業  
 5. 責任の作業は責任の作業

28 Wednesday  
 ● 1988 "構造設計" レポート  
 1. 健全な構造空間を提案したい  
 2. 他人の建築と自分の建築の両方 形成  
 100%責任を要する  
 3. 構造を通じた "建築" のあり方を提案したい  
 4. 新しい建築の条件を提示したい  
 5. 建築の自己責任を提案したい  
 6. 建築の自己責任を提案したい  
 7. 建築の自己責任を提案したい

● 学問の心  
 国家/人権/  
 宗教/文化/  
 経済/政治/  
 自然/環境/  
 人工/都市/  
 幸福/福祉





## 5. 今後の課題

平成 29 年度(2017)～令和元年度(2019)の調査を通じて明らかになった課題を以下にまとめる。

平成 29～平成 30 年度の調査結果を取りまとめて令和元年 5 月に開催されたシンポジウム「日本の近代建築を支えた構造家たち」は 300 名以上の観客を集める盛況となり、その後の高い評価により我が国の構造家および構造技術のアーカイブに関する一般の高い関心が明らかになった。このような背景の元、調査内容を建築専門誌に連載し紹介する企画や、出版物として取りまとめる計画も進んでいる。

令和元年度ではこれを受けて、前年度の選出者に引き続き新たに 11 名の構造家を抽出し調査を実施した。今年度の調査対象としては昨年度と同年代の構造家に加え、つい最近まで活躍していた構造家やまだ存命の構造家を含んだ現在に繋がる調査となっている。その一方で、近年逝去した構造家やまだ活動を続けている構造家のなかでも外すことのできない代表的な構造家の調査が手付かずとなっている。このような構造家としては、青木繁、川口衛、石井一夫、斎藤公男、佐々木睦朗らがいる。これらの構造家の資料には膨大に残されていることから整理に時間のかかるものもある。

平成 29～平成 30 年度の調査で明らかになった課題として、下記のようなものが挙げられる。

- 1) 本人が亡くなった後一定期間を過ぎると、資料を引き続き管理する組織がない限り大部分が破棄されてしまっているケースが多い。組織が残されている場合でも、計算書や図面類の公的保管文書（マイクロフィルム化されている場合が多い）が多く、個人のスケッチや思想を示すメモなどが残されているケースは少ない。
- 2) 管理組織がない場合には没後に遺族が引き取り、遺族の手により整理されることが多い。専門知識が無いため、重要な書類が廃棄されるケースも多く見られる。
- 3) 本人が生前に資料を整理している場合を除き、残された資料類の分類や時期の特定に手間がかかる場合が多い。
- 4) アーカイブした資料を公開(展示, ウェブ)する場合に所有者(遺族等)の同意を得ることが困難な場合がある。

以上の課題を解決するためには、構造家がまだ存命の内に自らのアーカイブ資料を整理し、没後の所有権の移管や公開の是非についての意思を記録しておくことが重要と考えられる。残すべき資料の種類や移管書式の整備について今後、議論の上まとめていくことが望ましい。

なお調査した構造家資料の中には、その時代の構造技術やその評価に関する資料も数多く含まれており、資料が残されている間にこれら进行分析し我が国の近現代建築構造技術通史を編纂していく活動も中長期的に続けていくべきであると考えます。

## 6. 総括

平成 29～30 年度の 2 年にわたる調査に引き続き、令和元年度では新たに抽出した 11 名の建築構造家について調査を実施した。その結果、人によるばらつきは大きいものの、一定以上の貴重な構造資料が存在していることが明らかになり、その概要が明らかになった。昨年と同様、故人の所属した組織体が残っている場合には一定の資料が保管されていることが多い一方、後継者のいない構造家の資料には既にほとんど破棄されてしまったものも多い。また、引退・逝去して間の無い方の資料は比較的充実していることから、現役の内からの整理・保管計画が重要であることが分かる。

今年度の成果を取りまとめると、以下の様になる。

- 1) 令和元年度は昨年度の調査方法に準拠して新たな候補者の調査を実施し、残すべき重要な構造資料について調査シートに反映させた。調査シートは昨年と同様、資料の種別として構造図、構造計算書、実験装置などを追加し、整理方法などもデジタル化(pdf 化)などを含めて分類を行い、資料保管者および連絡先の確認も行った。しかし今後、保管者の引退や代替わり等に伴い破棄されたり行方が分からなくなる危険性のある資料もある。今後、資料の保管者の継続的なフォローアップや、破棄の危険性が生じた際の引き取り選別方針の整備も必要と思われる。
- 2) 今年度は年表の形でまとめた構造技術の潮流や構造家の系譜等の整理も基礎的ではあるが行った。今後各所からの意見を反映し、さらに充実させていくことが求められる。
- 3) 平成 29～31 年度の調査結果を基に、日本の近代建築を支えた構造家を紹介する建築誌への連載を実行するとともに、出版企画を検討中である。
- 4) 今後の課題として、構造家がまだ存命の内に自らのアーカイブ資料を整理し、没後の所有権の移管や公開の是非についての意思を記録しておくことが重要と考えられ、残すべき資料の種類や移管書式の整備について今後、議論の上まとめていくことが望ましい。



## 付録 会合議事録

本報告書の作成にあたり、本年度計5回の会合を開催した。会合の目的、議題内容は下記のとおりである。

第1回 2019年7月19日

出版／連載についての意見交換、前年度事業の結果報告、本年度調査業務の仕様書の確認、本年度の事業実施体制および業務計画の確認のためのキックオフミーティング。

第2回 2019年8月26日

各委員からの調査対象候補者の資料所在ヒアリング結果報告と調査対象者の決定、構造技術系譜作成のためのテーマ考案、連載／出版企画について議論を行う。

第3回 2019年10月24日

各委員からの調査対象者の資料所在調査中間報告ののち、調査対象者の決定、構造技術系譜作成のためのテーマ、連載／出版企画、構造家倶楽部としての今後の取り組みなどについて議論を行う。

第4回 2020年1月16日

各委員からの調査対象者の資料所在調査報告ののち、最終報告書目次（案）、連載／出版企画について議論を行う。

第5回 2020年2月19日

報告書案を取りまとめ、読み合わせにより修正内容を確認し、最終報告書をまとめる。

次項以降に、これら会合の議事録を示す。

## 令和元年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第1回） 議事録

日時：2019年7月19日12時00分～14時30分

場所：近現代建築資料館2階会議室

出席者：川向正人，難波和彦，桐原武志，藤本貴子，藤井愛，加藤直子（国立近現代建築資料館）  
新谷真人，金箱温春，佐々木睦朗，竹内徹（日本構造家倶楽部）  
原田公明，安藤顕祐（日建設計），浜田英明（記）（法政大学）

（※順不同，敬称略）

### ■打合せ概要

- ・ 出版／連載についての意見交換（鹿島出版会，建築技術）
- ・ 前年度事業の結果報告
- ・ 今年度調査業務の仕様書の確認
- ・ 今年度の実施体制および業務計画について

### ■打合せ内容

#### 1. 出版／連載についての意見交換

鹿島出版会および建築技術と30分ずつヒアリングを行い，本WGとして，まずは建築技術での連載後，原稿を追加して鹿島出版会から書籍出版することを要望することとした。国立近現代建築資料館としては，年度報告書で報告済みの内容であれば，執筆に支障はないとのことであったが，関係については整理することとした。次回WGにて連載企画案を議論する。

#### 2. 前年度事業の結果報告

前年度報告書の内容について説明を行い，今年度への持ち送り事項などの確認をした。

#### 3. 今年度調査業務仕様書の確認

下記，今年度業務内容についての説明がされた。

- (1) 日本における構造技術の系譜の作成
- (2) 代表的な建築物，構造解析方法，構法と施工法のリストへの追加
- (3) (1)，(2)に含まれる主要な構造家等の選定とその資料調査

業務期間は，令和2年2月28日までとし，計5回のWGを開催後，報告書を提出することを確認した。

#### 3. 今年度の実施体制および業務計画について

今年度調査対象者の選定にあたり，まずは下記の候補者について，その資料の所在について問い合わせることとした。（ ）内は問い合わせ担当者，矢印は問い合わせ先。・ 次回8月WG時に問い合わせ報告を行なうこととした。

川口衛（川口），横河民輔（桐原），鈴木悦郎（竹内→篠崎），矢野克己（原田），織本匠（竹内→中澤，浜田→小西），播繁（竹内→池田昌弘），田中彌壽雄（新谷），谷資信（新谷），青木繁（浜田），石井一夫（竹内→河端），渡辺邦夫（新谷→腰原），斎藤公男（竹内），中田捷夫（竹内），佐々木睦朗，新谷真人

構造技術の系譜作成については、5月シンポジウム時に作成したものとは違う複数の切り口でまとめることでより立体的に捉えることが可能になるのではないかと議論され、次回WGまでにその柱となるテーマを各自挙げることにした。

#### 4. 次回までの課題及び予定

- ・ 次回は8月26日(月) 10:00～12:00 近現代建築資料館 2F 会議室
- ・ 調査対象候補者の資料所在ヒアリング
- ・ 構造技術系譜作成のためのテーマ考案
- ・ 次回の予定議題
  1. 調査対象候補者の資料所在ヒアリング結果報告
  2. 構造技術系譜作成のテーマ
  3. 連載企画案の検討

以上

## 令和元年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第2回） 議事録

日時：2019年8月26日10時00分～12時00分

場所：近現代建築資料館2階会議室

出席者：難波和彦，桐原武志，藤本貴子，藤井愛，加藤直子（国立近現代建築資料館）  
新谷真人，伊藤潤一郎，金箱温春，佐々木睦朗，竹内徹（日本構造家倶楽部）  
原田公明（日建設計），浜田英明（法政大学）（記）

（※順不同，敬称略）

### ■打合せ概要

- ・ 前回議事録の確認
- ・ 調査対象候補者の資料所在ヒアリング結果報告と調査対象者の決定
- ・ 構造技術系譜作成のためのテーマ考案
- ・ 連載／出版企画について

### ■打合せ内容

#### 1. 前回議事録の確認（浜田）

前回議事録（案）の確認を行い，これを承認した。

#### 2. 調査対象候補者の資料所在ヒアリング結果報告と調査対象者の決定

##### (1) 川口衛（川口）

落ち着いた段階で調査することとした。調査担当者：川口＋浜田。

##### (2) 横河民輔（桐原）

横河建築設計事務所での資料保管状況について報告された。書類封筒のタイトルはリスト化されている。日本工業倶楽部の改修時資料は法政大学にあり。三井不動産にも連絡することとした。調査担当者：桐原＋浜田。

##### (3) 鈴木悦郎（竹内→篠崎）

大成建設の細澤治氏に調査協力いただけることになった。10月頃に調査予定。調査担当者：竹内。

##### (4) 矢野克己（原田）

設計図書，雑誌資料等は膨大にあり。ただし，スケッチなどはなし。ご本人との連絡は様子を見てとる予定。調査担当者：原田。

##### (5) 織本匠（竹内→中澤，浜田→小西）

織本構造設計からの返答は未だなし。再度連絡する。武蔵野美術大学建築学科には退任時の記念書籍があるのみで構造資料はなし。芦原建築研究所から武蔵野美術大学に寄贈された義信建築資料には織本匠に関する設計図書が含まれていることが確認された。調査担当者：竹内＋小西。

##### (6) 播繁（竹内→池田昌弘）

鹿島建設とNCNに竹内から連絡することとした（後日メールにて，NCNには段ボール10箱程度の資料があるとの連絡あり。10月ごろに調査予定）。SE構法について共同で研究をしていた池田昌弘氏にも佐々木から協力要請を行うこととした。調査担当者：竹内＋池田。

##### (7) 田中彌壽雄（新谷）／(8) 谷資信（新谷）

研究室OBに新谷から声がけすることとした。また，早稲田大学の早部氏にも協力要請することとした。調

査担当：新谷。

(9) 青木繁（浜田）

山辺豊彦氏にヒアリング調査を行なったところ、数年前に資料をほとんど処分してしまったとのことだった。ご子息は数点の資料を保管している様子。山辺氏に調査協力を要請することとした。調査担当者：山辺＋浜田。

(10) 石井一夫（竹内→河端）

横浜国立大学の河端氏に協力要請し、リスト化作業を行なっていただけるとのこと。調査担当者：河端。

(11) 渡辺邦夫（新谷→腰原）

東京大学の腰原研究室に一式資料があり、来月調査予定。調査担当者：伊藤。

(12) 斎藤公男（竹内）／(13) 中田捷夫（竹内）／(14) 佐々木睦朗／(15) 新谷真人

調査対象となることを辞退する旨の返答。後年の調査のためのアーカイブ化作業を開始もしくは継続していただくことを要請することとした。

本年度調査対象者を(1)川口衛～(11)渡辺邦夫の11名とし、調査を実施することとした。また、他に調査対象候補者としてあげるべき人物として、村田義男（原田）、成田春人（竹内＋金箱）、山口昭一（竹内＋金箱）らの名前があがり、（ ）内の各委員がヒアリングを行うこととした。関西地方を中心に活躍された方については、満田委員にヒアリングいただくこととした。

### 3. 構造技術系譜作成のためのテーマについて

佐々木委員から建築文化 1990 年 11 月号での特集記事「建築の構造デザイン」でのテーマ設定やまとめ方が参考になるのではないかと提案があった。資料調査の年代範囲や報告書内での位置づけ、今後の書籍化や日本構造家倶楽部の活動との関係なども含めて広範に渡って議論を行なったが、結論にいたらず、今後も継続して審議することとした。

### 4. 連載／出版企画について

8/21 に行われた鹿島出版会と建築技術、浜田での打ち合わせ内容について報告がなされた。また、以下について決定した。

連載タイトル：日本の近代建築を支えた構造家たち

クレジット表記：WG の監修表記は行わず、各記事については個人名表記とする。

図版スキャン作業等：建築資料館のスキャナーを利用。出版も見据えて効率的にスキャン作業を行う。

### 5. 次回 WG 日程について

10 月中旬頃の開催とし、後日日程調整を行うこととした。

以上

## 令和元年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第3回） 議事録

日時：2019年10月24日16時00分～18時00分

場所：近現代建築資料館 2階会議室

出席者：桐原武志，藤本貴子，藤井愛，加藤直子（国立近現代建築資料館）

佐々木睦朗，竹内徹，満田衛資，金箱温春，原田公明，伊藤潤一郎，金田勝徳（日本構造家倶楽部）

小澤雄樹（芝浦工業大学），浜田英明，石川椋（記）（法政大学）

### ■打合せ内容

#### 1. 前回議事録の確認/浜田

前回の議事録の内容について説明を行い，確認を行った。

#### 2. 調査対象候補者の資料所在調査中間報告

各委員より，調査対象者について資料調査の中間報告を行い，それぞれについて確認を行った。

##### (1) 川口衛/浜田

- ・ 落ち着いた段階で調査する。調査担当者：川口+浜田。

##### (2) 横河民輔/桐原

- ・ 前回は資料収集は完了。一個ずつリストアップするとなると大変な量になる（竹内）  
→ 図面1枚1枚でなければ問題ない（桐原）
- ・ 調査担当者は佐々木+浜田。

##### (3) 鈴木悦郎/竹内 資料 2-A

- ・ 大成建設本社にて，段ボール箱2箱分の資料を調査。調査シートを作成。
- ・ 図面類はマイクロフィルム化されほとんど残っていないがプリントされた図面と写真は残っている。
- ・ 多くの資料の裏に手書きのスケッチ。→本人のものであれば価値がありそう。

##### (4) 矢野克己/原田

- ・ 体調を崩されているため，ご本人，ご家族への連絡は控えている。
- ・ 資料は膨大にあるがスケッチはない。代表作品の図面，計算書を抜粋，記録してある図面リスト，雑誌リストをつけてまとめる。

##### (5) 織本匠/竹内

- ・ 電話にて織本構造設計社長中澤氏に連絡。先方での担当者決定後，調査することとした。  
→ 担当者をどなたかつけていただくとありがたい

##### (6) 播繁/竹内

- ・ (株)エヌ・シー・エヌに段ボール20箱分の資料。そのほかにデジタルデータも存在。11月1日～3日にかけて竹内委員+学生4名が訪問し，内容確認と調査シートの作成を行う予定。池田昌弘氏，佐々木睦朗氏も同席予定。

##### (7) 田中彌壽雄/浜田

- ・ 早稲田大学前田寿朗先生の研究室にて，田中研究室OBの濱本卓司先生にヒアリング。  
→ 資料は全て田中先生のご自宅にあるとのことだが，お引越しの際に大方廃棄した模様とのこと。

- ・ 11/8 (金) 13:00～より田中先生のご自宅にて、新谷と浜田で調査予定。
  - ・ 「田中彌壽雄研究室の足跡」にて研究室論文と建築構造作品、古建築調査などが収録。
  - ・ 「力学と建物のかたち」にて自身の作品の解説。
- (8) 谷資信/浜田
- ・ 早稲田大学前田寿朗先生の研究室にて、谷研究室 0B の曾田五月也先生にヒアリング。  
→資料に心当たりがないとのことで、先輩の関根氏に問い合わせた結果、退職時記念書籍「早稲田の森に半世紀」が唯一の設計資料との返答。研究の資料については3分冊に分類整理したものが存在している。後日調査予定。
  - ・ 具体的な設計資料は見つからない。研究に関するものはあるが、設計に関するものはない。
- (9) 青木繁/浜田
- ・ 前回の資料と同じ。
  - ・ 息子さんの資料を拝見させていただく予定。日程は未定。
- (10) 石井一夫/竹内
- ・ 横浜国大・河端昌也教授が石井名誉教授に連絡し、調査の了承と一部資料の移管を了承戴いている状況。河端教授が石井宅を訪問し、資料のリスト化および移管する資料の選別を行う予定。
- (11) 渡辺邦夫/伊藤
- ・ 調査シート、プロジェクトと保管資料のリスト作成。
  - ・ プロジェクト数は500程度あり、資料のあるプロジェクトは100程度。原図はあるが、青焼き前の図面、スケッチなどの資料はない。
  - ・ 1985～2010年までの日記が存在。日記にはスケッチあり(1980年代はスケッチ多く存在)。
  - ・ 計算書も多数存在。模型はほとんどない。これ以上探す資料はない。海外の事務所にも重要なものはない。
- (12) 村田義男/原田
- ・ 日本設計の伊藤優さんに連絡、日本設計に資料があるとのこと。伊藤さんが村田さんと食事をされるので、企画についての説明と、スケッチ等の資料の有無の確認をしていただく。
  - ・ 次回報告予定。
- (13) 成田春人/金箱
- ・ 東京建築研究所専務取締役・蓮田常雄氏に電話にてヒアリングを行った。東京建築研究所には途中から来られて、所長をやられていたので、自身が手を動かしたような資料はない。
  - ・ 調べるのであれば国鉄のほうを調べたらどうかとのこと。
- (14) 山口昭一/金箱
- ・ 東京建築研究所専務取締役・蓮田常雄氏に電話にてヒアリングを行った。図面・計算書は事務所に保存されているが、スケッチ類はほぼない。
  - ・ 資料があるのは分かったが、調査はまだ。
  - ・ 随想にて自身についての記載あり。
- (15) 平田定男/金箱
- ・ 関西の構造家ということで平田さんのほかに誰かいないかというのをJSCAの関西支部にお聞きしたが、名前は挙がらなかった。
  - ・ 平田建築構造研究所の代表の西村さんにヒアリング。  
→計算書や図面は保存されている(原図かどうかは未確認)。自身について語った「草創の記」に

て作品リスト，作品についてのコメントあり。

### 3. 調査対象者，担当者の決定

中間調査報告をもとに，調査対象者と担当者について下記の通り決定した。○：調査対象者として報告書作成，△：できる限りの範囲で報告書作成，×：本年度調査対象者としなない。

① 川口衛：川口，浜田

② 横河民輔：佐々木，浜田

③ 鈴木悦郎：竹内

これまでの調査に写真を加え報告書としてまとめる。雑誌に掲載するかは今後検討。(竹内)

④ 矢野克己：原田

スケッチはないが資料を抜粋してまとめる。リストにするだけでは味気ないのでは。JSCA 発足等，構造物としての役割をまとめる

⑤ 織本匠：小澤

⑥ 播繁：竹内，佐々木，池田

⑦ 田中彌壽雄：新谷，浜田

⑧ 谷資信：新谷，浜田

⑨ 青木繁：浜田

設計資料はないが，資料がある範囲でまとめる。(浜田)

青木先生は外せないで，何とか項を起こしたい。(竹内)

⑩ 石井一夫：竹内

⑪ 渡辺邦夫：伊藤

⑫ 村田義男：原田

ご本人へのヒアリング次第。

⑬ 成田春人：金箱

資料的に厳しい。

⑭ 山口昭一：金箱

⑮ 平田定男：満田

### 4. 構造技術系譜作成のためのテーマについて

- ・ 前回の議論から引き続き，継続的に議論できればと考えている。(浜田)
- ・ 次回までにもう一度確認いただき，何かあればご意見いただく。(竹内)

### 5. 連載／出版企画について

- ・ シンポジウムの書き起こしデータを確認していただきながら，内容を思い出していただきたい。(浜田)
- ・ 建築技術の方と，前倒しで武藤さんの原稿を作る。資料の著作権をとる作業，レイアウトを実際に行い，どの程度の作業量になるか試験的に行う。レイアウトイメージは建築技術の特集を参考に今年度中に固める。(浜田)
- ・ 余裕のあるうちに少しずつ書き始めていただく。たたき台ができた際にフォーマットを配布していただ

きたい。(竹内)

## 6. 構造家倶楽部としての取り組みについて

- ・ 構造家倶楽部として、若い世代のアーカイブをどのように残していくか、取り組みを継続していきたい。そのうえで膨大な資料を資料館で管理するのは難しいので、どう保管していくかを考える必要がある。若い方々のアーカイブは、今回参加の皆さんにワーキンググループに入っただき、構造家倶楽部に引き継いで、何らかの形で出版したいと考えている。(金田)
- ・ 建築文化 1990 年 11 月号では、1960-1990 の 30 年の構造デザインのあゆみについて、かなりうまくまとめられている。今回の動きを機会に 1990 年以降についても、各時代にどういうものが求められて、どう構造技術につながったのかというものを、建築文化の特集と同水準でできればいいのではないか。(佐々木)
- ・ 資料整理のワーキングでは近現代を支えた構造家を取り上げているので、構造家倶楽部の取り組みとは線を引いている。この取り組みがなくなった後も、構造家倶楽部では引き続き、ご存命の方や若い方を含めて紹介できる資料を作り、アーカイブもしていきたい。30 年を振り返った構造技術の整理もしたい。このメンバーに若い方も加え引き続き活動していきたいということをご了承いただきたい。(竹内)
- ・ アーカイブという点では、昨年建築雑誌の 12 月号にてアーカイブ特集を行っており、著作権に関しても扱っているので参考になるのではないか。(満田)

## 7. その他

- ・ 学生のアルバイトを使う場合は法政大学と契約が必要になるので、履歴書を記入していただく。(浜田)
- ・ シンポジウムのパワーポイントデータを Dropbox に共有していただきたい。自身で管理するとデータ管理が大変になるので、賛同いただける方はデータを挙げていただきたい。写真等は表に出さず、自身で参考にするなどして活用いただくように。(竹内)
- ・ テープ起こしデータができたので、Dropbox に共有するので、手直ししていただきたい。音声データ、写真も共有することは可能だが、映像はデータが大きいので今後考える。(浜田)
- ・ 今回の発表ではあまり存じ上げない方もいて、そういう方の資料こそなくなりやすいので何とかしたいが、資料館ですべて保存するのは難しいので、どうするべきかを考えなければ。また、資料がない事も 1 つの情報であるので報告書には載せていただきたい。(桐原)

## 8. 次回までの課題及び予定

- ・ 次回は 1 月 16 日 (木) 10:00~12:00 近現代建築資料館 2F 会議室
- ・ 次回までの課題
  1. 調査対象者の資料所在調査と資料整理。
  2. 構造系譜のまとめ方について各自提案。



以上

## 令和元年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第4回） 議事録

日時：2020年1月16日10時00分～12時00分

場所：近現代建築資料館 2階会議室

出席者：難波和彦，桐原武志，藤本貴子，加藤直子，加藤道夫（国立近現代建築資料館）

伊藤潤一郎，金田勝徳，佐々木睦朗，竹内徹，満田衛資，多田脩二，原田公明（日本構造家倶楽部）

安藤顕祐（日建設計），小澤雄樹（芝浦工業大学），浜田英明，桃沢徹（記）（法政大学）

### ■打合せ内容

#### 1. 前回議事録の確認/浜田

前回の議事録の内容について説明を行い，確認を行った。

#### 2. 調査対象候補者の資料所在調査報告

各委員より，調査対象者について資料調査の報告を行い，それぞれについて確認を行った。

##### (1) 横河民輔/佐々木，浜田

- ・ 昨年12月19日に，佐々木と浜田が横河建築設計事務所（東京事務所）にて資料調査を実施。東京事務所で所蔵していた資料は関東大震災や東京大空襲などにより消失したものが多く，現存資料は大阪事務所で保管していたものが主とのこと。（浜田）
- ・ 構造資料として，確認できたののうち最も古いものは昭和3年の三信ビルの計算書。明治・大正時代の鉄骨トラス図面などもあるとのこと。（浜田）

##### (2) 織本匠/竹内，小西

- ・ 織本構造設計の山口部長に調査シートの作成を依頼。倉庫内の資料は膨大で全てのリスト化はできず，今回は代表的なもののみについて調査シートを作成いただいた。（竹内）
- ・ 武蔵野美術大学図書館に保存されている芦原義信建築資料内にある織本匠資料について，小西氏が調査を実施。構造図や計算書の原図などが，リスト化もされ，かなり良い状態できっちりと保存されている。（竹内）

##### (3) 平田定男/満田

- ・ 平田建築構造研究所に著作2冊，万国博覧会お祭り広場の施工アルバム1冊。図書類はほとんどが破棄されたとのこと。（満田）

##### (4) 鈴木悦郎/竹内

- ・ 鈴木悦郎資料は，大成建設の細沢治氏が段ボール1箱分保管。大成トラスの資料や読売ゴルフ場スタードームの図面などが保管されていた。（竹内）

##### (5) 谷資信/浜田

- ・ 前回報告の通り，資料がほとんどゼロに近いということなので，実地調査は行わず，ヒアリング結果を最終報告書とする予定である。（浜田）

##### (6) 青木繁/浜田

- ・ 前回ヒアリング以降，具体的な調査を行っていない。（浜田）  
→江尻氏や川口衛構造設計事務所などのヒアリングを行い，調査報告は来年度以降とする。

- (7) 山口昭一/金箱
- ・ 12/3 に東京建築研究所にて資料調査を実施。設計を行った資料を最小限の情報として保存しているとのこと。制振装置の検討スケッチなどが保存されている。
- (8) 矢野克巳/原田, 安藤
- ・ 日建設計のデータベースや保管図面の押印などから担当案件リストおよび執筆リストを作成した。体調の理由等により, ご本人に直接お会いするのは控えている。(原田, 安藤)
- (9) 田中彌壽雄/新谷, 浜田
- ・ 11/8 にご自宅にて調査を実施。事務所閉鎖後現在のご自宅に引っ越される間に大量に資料を廃棄したとのこと。現存資料は非常に少なく, 名護市庁舎の構造図や学生時代のノートなど。
- (10) 川口衛/川口, 浜田
- ・ 事務所にお伺いできていないので, 本格的調査は来年度以降としたい。(浜田)
- (11) 村田義男/原田, 安藤
- ・ 日本設計と山下設計の担当者に資料作成を依頼した。日本設計には霞が関ビルディング関係の資料が保管されている。山下設計には霞が関ビルディングの構造設計・動的解析の PDF データが保存されている。
- (12) 播繁/佐々木, 竹内
- ・ 10 月に竹内, 佐々木, 池田で最後に事務所を構えられた NCN にて調査を実施した。段ボール箱 20 箱程度のかかなり大量の資料が保存されている。スケッチ類などまとめて残されている。(竹内)
- (13) 石井一夫/竹内
- ・ 河端先生に調査依頼をしているが, 今年は難しいと思われるので, 本格調査は来年度以降としたい。
- (14) 渡辺邦夫/伊藤
- ・ 資料調査に関しては, 前回以降追加で行なっていない。略歴などを整理した。(伊藤)

### 3. 最終報告書目次(案)について

- ・ 昨年度とほぼ同様の構成である。3 章の構造技術/構造家の系譜については昨年のシンポジウムでパンフレット化したものを追加修正して掲載予定である。簡単に流れを説明する文章をつけた方が良いかもしれない。(浜田)

### 4. 連載/出版企画について

- ・ 第一回原稿を作成した。8P ほどになりそう。(竹内)
- ・ 武藤清を題材に簡単にレイアウトを行ってみた。6P を基本として, 多くて 8P ぐらいがちょうどいいと思われる。(浜田)
- ・ 最初に簡単な功績紹介文と最後に個人年表をつけることを基本的な構成として, あとは自由に記述するかたちとする。(竹内)

### 5. その他

- ・ 建築学会誌の建築雑誌の 2021 年 11 月号において, 構造の特集が予定されている。1990 年から 2020 年までの建築構造の歩みについて紹介する企画を考えている。(浜田)  
→日本構造家倶楽部でも同様の企画を検討中である。上手く連携できればいいが。(金田)

**6. 次回までの課題及び予定**

- ・ 次回は2月19日(木) 10:00~12:00 近現代建築資料館 2F 会議室
- ・ 次回までの課題
  1. 2/14までに最終報告書を浜田宛に提出。
  2. 構造系譜のまとめ方についても2/14までに提案。

以上

## 令和元年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第5回） 議事録

日時：2020年2月19日10時00分～12時00分

場所：近現代建築資料館2階会議室

出席者：難波和彦，桐原武志，藤本貴子，加藤直子，加藤道夫（国立近現代建築資料館）

伊藤潤一郎，金田勝徳，佐々木睦朗，竹内徹，満田衛資，多田脩二，原田公明（日本構造家倶楽部）

小澤雄樹（芝浦工業大学），浜田英明，桃沢徹（記）（法政大学）

### ■打合せ内容

#### 1. 前回議事録の確認/浜田

前回の議事録の内容について説明を行い，確認を行った。

#### 2. 最終報告書（案）の確認

本報告書（案）について，一通り最終的な確認を行った。また，各委員より，調査対象者について資料調査の報告が行われた。

- (1) 横河民輔/佐々木，浜田
  - ・横河事務所の方に全てチェックして細かくご指摘いただいたところを全て修正した。
  - ・調査シートの公開については全て公開可とのこと。（浜田）
- (2) 織本匠/竹内，小西
  - ・前回と変更なし。（竹内）
- (3) 平田定男/満田
  - ・草創の記の著書の中のOBリストを辿り、最初の文章に書き加えた。（満田）
- (4) 鈴木悦郎/竹内
  - ・前回と変更なし。（竹内）
  - ・フォーマットの乱れ、区切りの修正。（竹内）
- (5) 谷資信/浜田
  - ・資料調査は行わずに、略歴年表、ヒアリング内容、退職記念の本の紹介などをフォーマットを揃えて報告書にまとめる。（浜田）
- (6) 山口昭一/金箱
  - ・前回と変更なし。（金箱）
  - ・資料も全て公開可とのこと。（金箱）
- (7) 矢野克巳/原田，安藤
  - ・前回と変更なし。（原田，安藤）
  - ・資料も全て公開可とのこと。（原田，安藤）
- (8) 田中彌壽雄/新谷，浜田
  - ・調査シートを濱本さんに確認してもらっているところで返答があり次第報告書の整理を行う。（浜田）
- (9) 村田義男/原田，安藤
  - ・山下設計から届いた資料を報告書に追加。（原田，安藤）

## (10) 播繁/佐々木, 竹内

- ・ 前回と変更なし。(竹内)
- ・ 資料も全て公開可と聞いているがもう一度メールで確認。(竹内)

## (11) 渡辺邦夫/伊藤

- ・ 渡辺さんに公表して良いかの確認を取っているが連絡がないため問題ないと判断する。(伊藤)

**3. その他**

- ・ 近年逝去した構造家やまだ活動を続けている構造家の調査が手付かずである。構造家が存命のうちに自らがアーカイブを整理し、公開の是非などの意思を記録しておく必要があり、今後は新しいプロジェクトとして考えていく。(竹内)

**6. 次回までの課題及び予定**

- ・ 2/26 までにデジタルデータの変更点, 追加点を浜田宛に提出。

以上